# ふるさと検定

# ガイドブック

私が夢見る山形村にしてみよう

（ 第６次山形村総合計画　目指す村の将来像 ）

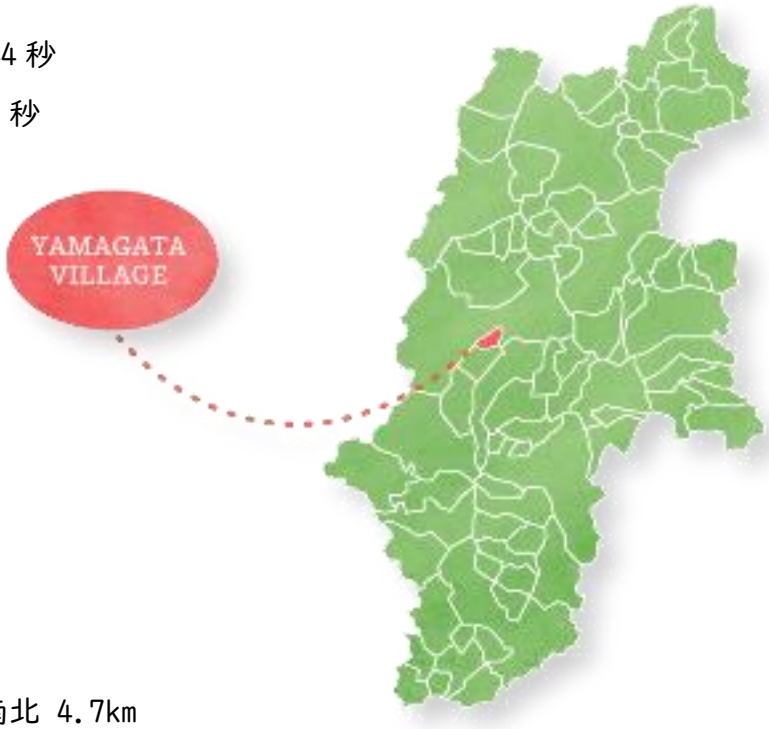
山形村教育委員会

役場所在地:長野県東筑摩郡山形村 2030 番地 1

海抜 685m

経度 東経 137 度 52 分 44 秒

緯度 北緯 36 度 10 分 05 秒




面積 24.98 平方 km

直線距離東西 8.5km、南北 4.7km

＝目　　次＝

１　山形村のあらまし
（1）　村の位置と特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（2）　村のあゆみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

２　村の今を知ろう：第６次総合計画
（1）　なぜ、総合計画を作ったの？　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（2）　村民みんなで取り組む総合計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（3）　村の課題：人口の問題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（4）　村の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（5）　これからの村づくり　【3つの方向性】　・・・・・・・・・・・・・・・・10
（6）　どうやって進めるの？（令和施策の体系：チャレンジ･･･7-25-80）　・・11
（7）　「子育て分野」「教育分野」の重点
　　プロジェクトのキーワードは「ふるさと」　・・・・12
（8）　子育て分野：ミッション【子育て支援センター「すくすく」】　・・・・12
（9）　教育分野：ミッション【複合施設】　・・・・・・・・・・・・・・・・12
（10）教育分野：ミッション【トレーニングセンター】　・・・・・・・・・13
（11）健康・福祉分野：ミッション【ワンストップ相談窓口】　・・・・・・13
（12）健康・福祉分野　福祉バス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
（13）産業振興分野　ロゲイニング　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
（14）まちづくり分野　空き家バンク　・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
（15）インフラ分野　ＪＲ広丘駅直行バス　・・・・・・・・・・・・・・・・14
（16）公共施設　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
（17）その他　時報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
（18）その他　やまっち　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

３　山形村の歴史
（1）　縄文時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（2）　弥生時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（3）　古墳時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（4）　古代：飛鳥・奈良・平安時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
（5）　鎌倉時代・室町時代～戦国時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
（6）　江戸時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（7）　明治期　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
（8）　大正期　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
（9）　昭和時代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
（10）平成時代以降　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

4　道と道標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

5　記念碑
（1）　小坂六部塚の筆塚　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
（2）　清水鐘楼碑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
（3）　酒屋跡(下大池)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
（4）　消防団員殉難の碑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

6　神社・仏閣
（1）　宗福寺　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
（2）　大日堂　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
（3）　宝積寺　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
（4）　見性寺　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
（5）　薬王寺　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
（6）　清水寺　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
（7）　大池諏訪神社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
（8）　小坂諏訪神社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
（9）　下大池八幡社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
（10）竹田建部神社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
（11）御嶽神社　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

7　山形村ゆかりの人々
（1）　中村太八郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
（2）　永田兵太郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
（3）　村瀬茂三郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
（4）　永田廣志　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
（5）　永田八郎　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
（6）　唐沢俊樹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
（7）　大池　真　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

8　文化財
【コラム】
①　山形村の遺跡　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
②　穴観音　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
③　郷倉、高札　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
④　学童疎開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
⑤　満蒙開拓と山形村　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
⑥　小坂の大火　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

⑦ 唐沢の水車 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
⑧ 水道の歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
⑨ 山形小学校の学校給食のあゆみ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

9 山形村の自然
(1) 地形・気候 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
(2) 植物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
(3) 動物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
(4) 昆虫(蝶) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
(5) 水生昆虫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
(6) 両生類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
(7) 鳥類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83

10 山形村の文化
(1) 石造文化財 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
① 道祖神 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
② 庚申塔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
③ 蚕玉様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
④ 二十三夜塔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
⑤ 秋葉碑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
(2) 建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
(3) 祭り・行事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
(4) 方言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
(5) 食文化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107

11 山形村の産業
(1) 農業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
(2) 林業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
(3) 商工業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122

12 山形小学校のひみつ
(1) 学校の歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
(2) 学校のひみつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
(3) かるた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136

＊太字で書かれたヶ所から出題を予定しています。

# Ⅰ　山形村のあらまし

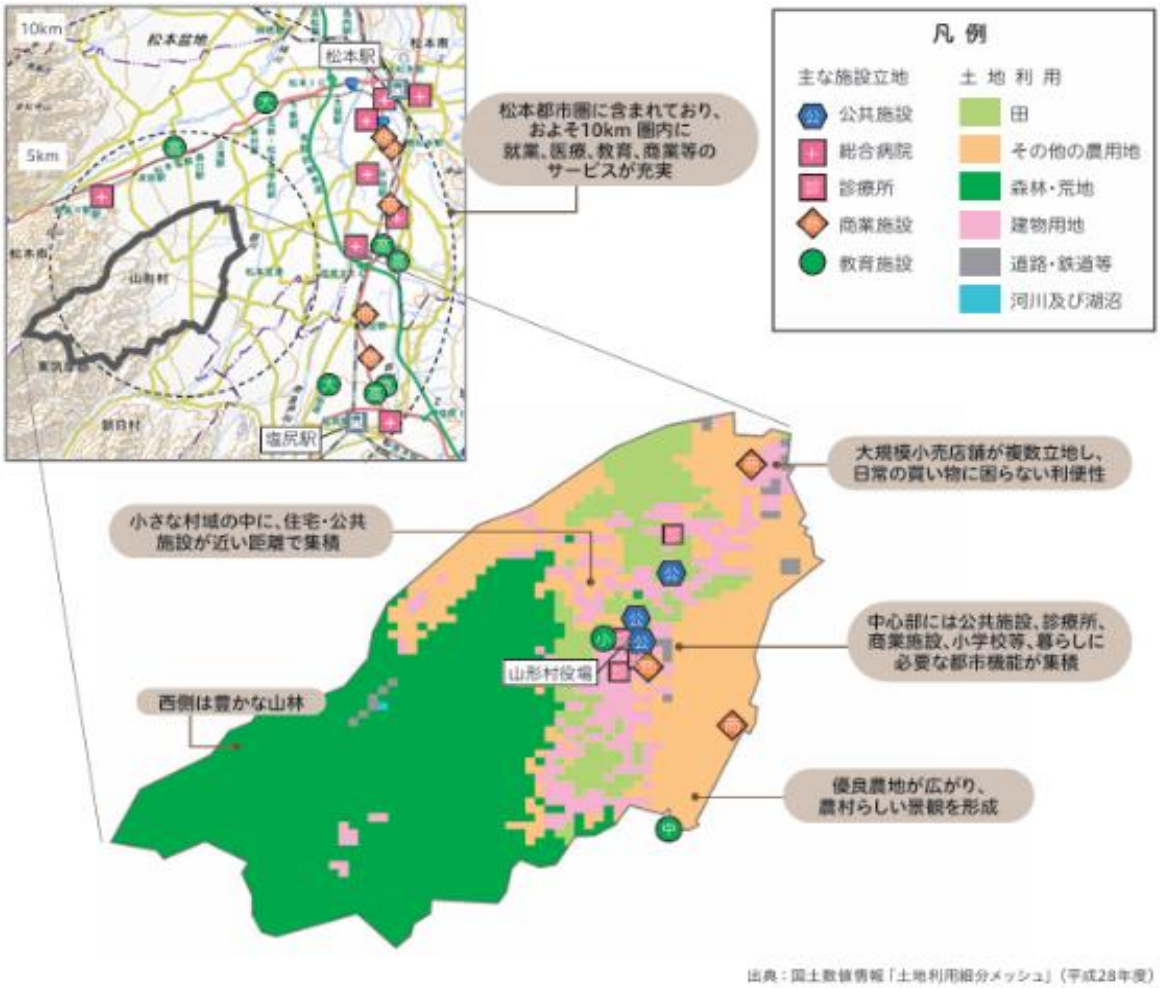
## （1）　村の位置と特徴

山形村は、松本市の南西に位置する人口 8,400 人ほどの村です。松本市・塩尻市・安曇野市のベットタウンとして、人口が昭和 50 年当時の 5,000 人から、現在の 8,400 人規模へと増加してきている村でもあります。村域の面積は、24.94 ㎢で、**長野県で一番小さな面積の村です。**村の 51%は山林で、主な集落は山林との境界部にあり、東側には農地が広がっています。特産品の長いも、スイカ、長ネギといった作物が主に栽培されています。

本村の人口は、横ばい傾向である一方、世帯数は増加しており、アパートなどの賃貸住宅に暮らす核家族が増えている傾向にあります。

山形村は、明治 7(1874)年に、大池村・小坂村・竹田村が合併して誕生して以来、昭和の大合併、平成の大合併においても単独での存続を選び、令和 6(2024)年には開村 150 周年を迎える、県下でも稀有な歩みを刻んできた自治体です。

図表(総合計画から)P4




出典：国土数値情報「土地利用細分メッシュ」（平成28年度）

## (2) 村のあゆみ

| 年 | 内　　容 | 日本・世界の動き |
|---|---|---|
| 明治 7(1874)年 | 大池村、小坂村、竹田村が合併して山形村となる<br>村の人口 3031 人 | 民撰議院設立建白書提出<br>郵便貯金始まる |
| 明治 26(1893)年 | 小坂の大火 111 戸が焼失 | アブト式鉄道、横川・軽井沢間に開通 |
| 明治 42(1909)年 | 小学校舎竣工 | 味の素発売 |
| 大正 6(1917)年 | 役場と学校に初めて電灯がともる | 1914～1918　第一次世界大戦<br>1917 ロシア革命 |
| 大正 7(1918)年 | 小坂区でマンガン鉱の採掘始まる | 米騒動 |
| 大正 10(1921)年 | 松本-山形学校前の間で乗合自動車運行開始 | ワシントン会議<br>メートル法公布 |
| **大正 12(1923)年** | **焼岳噴火(降灰で養蚕被害)** | 関東大震災（9 月 1 日） |
| 大正 14(1925)年 | 普通選挙法定められる(中村太八郎の功績による) | 治安維持法公布 |
| 昭和 4(1929)年 | 山形小学校徽章制定 | 世界大恐慌　繭値大暴落 |
| 昭和 6(1931)年 | 山形村青年会図書館竣工 | 満州事変発生 |
| 昭和 11(1938) | 下大池八幡社拝殿建築 | 「二十カ年百万戸送出計画」(満蒙開拓)始まる(～1945) |
| 昭和 12(1937)年 | 山形郵便局で電話交換業務開始 | 日中戦争始まる(～1945) |
| 昭和 15(1940)年 | 山形診療所が設置される | 日独伊三国同盟 |
| 昭和 16(1941)年 | 山形村国民健康保険組合発足 | 太平洋戦争始まる(～1945) |
| 昭和 20(1945)年 | 堂ケ入沢豪雨災害発生(10/9) | 広島、長崎に原爆投下<br>ポツダム宣言受諾・終戦 |
| 昭和 21(1946)年 | 山形村連合婦人会発足 | 日本国憲法公布 |
| 昭和 22(1947)年 | 新制山形村中学校開校 | 教育基本法制定 |
| 昭和 24(1949)年 | 給食開始 | ドッジ・ライン<br>湯川秀樹ノーベル物理学賞 |
| 昭和 25(1950)年 | 公民館報創刊 | 1000 円札が発行される |
| 昭和 27(1952)年 | 山形村教育委員会発足 | 信越放送開局 |
| 昭和 28(1953)年 | 旧役場庁舎新築落成・**村女子バレー国体県代表ベスト 8** | テレビ放送開始 |
| 昭和 34(1959)年 | 全村上水道建設工事完成<br>アスパラガス栽培が始まる | 伊勢湾台風（村内の被害大） |
| 昭和 39(1964)年 | 村営保育園発足<br>第一次農業構造改善事業着手 | 東海道新幹線開通<br>東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ |

| | | |
|---|---|---|
| 昭和 40(1965)年 | 山形・朝日・今井の三中学校が統合され鉢盛中学校として発足 | 日韓基本条約締結 |
| 昭和 42(1967)年 | 組合立鉢盛中学校竣工 | 「建国記念の日」が祝日として実施 |
| 昭和 45(1970)年 | 第 2 次農業構造改善事業着手<br>中信平総合開発事業着手<br>村の人口 4991 人に | 日本万国博覧会（大阪） |
| 昭和 46(1971)年 | 清水高原観光開発事業着手<br>スプリンクラー散水開始 | 円が変動相場制に<br>「カップヌードル」発売 |
| 昭和 47(1972)年 | 山形村村章制定<br>小坂の水源地完成<br>商工会街路灯 141 基設置 | 札幌冬季オリンピック<br>沖縄が日本へ復帰<br>日中国交正常化 |
| 昭和 48(1973)年 | 開村 100 周年記念式典挙行<br>清水高原に村営保養センター「清水荘」オープン | 第 1 次石油危機 |
| 昭和 49(1974)年 | 清水砂防ダム完成 | セブンイレブン 1 号店開店<br>気象観測システム「アメダス」運用 |
| 昭和 50(1975)年 | 農道舗装が始まる | ベトナム戦争終わる |
| 昭和 51(1976)年 | 長いも集荷選別洗浄施設ができる | ロッキード事件 |
| 昭和 52(1977)年 | 米飯給食始まる | 経済水域 200 海里、領海 12 海里とする |
| 昭和 53(1978)年 | 建部神社例祭で奉納相撲復活する | 日中平和友好条約締結 |
| 昭和 54(1979)年 | 小学校全面改築工事完成 | 第 2 次石油危機 |
| 昭和 55(1980)年 | 農業者トレーニングセンター完成 | イラン・イラク戦争 |
| 昭和 57(1982)年 | 新農業構造改善事業着手 | CD が販売される |
| 昭和 60(1985)年 | 村民憲章・村花・村木制定　村の人口 6230 人 | 男女雇用機会均等法 |
| 昭和 61(1986)年 | 役場新庁舎落成 | チェルノブイリ原発事故 |
| 昭和 62(1987)年 | ふるさと伝承館が旧役場庁舎を利用してオープン | 国鉄分割民営化 |
| 昭和 63(1988)年 | B&G 海洋センター、エポック館落成 | 消費税法成立 |
| 平成元(1989)年 | YCS(村営有線テレビ)開局 | ベルリンの壁崩壊 |
| 平成 2(1990)年 | 上水道第三次拡張工事完成　村の人口 6513 人 | 東西ドイツ統一 |
| 平成 3(1991)年 | 特別養護老人ホーム「ピアやまがた」オープン | ソ連邦崩壊 |
| 平成 4(1992)年 | 下水道工事着手<br>ミラ・フード館オープン | 学校週 5 日制スタート |
| 平成 5(1993)年 | 山形消防署設置 | EU 発足 |
| 平成 6(1994)年 | ふれあい児童館オープン<br>松本市との間で水道水分水協定締結 | 日本で「子どもの権利条約」発効 |

| | | |
|---|---|---|
| | 開村 120 周年記念式典挙行 | |
| 平成 7(1995)年 | スカイランドきよみずオープン(村営保養センター「清水荘」改築)<br>鉢盛中学校全面改築工事完了　村の人口 7208 人 | 阪神淡路大震災 |
| 平成 8(1996)年 | 公共下水道一部供用開始<br>上水道第 4 次拡張工事完成 | 小選挙区制 |
| 平成 9(1997)年 | ふれあいドームオープン<br>堂ケ入砂防ダム完成 | 香港がイギリスから中国へ返還 |
| 平成 10(1998)年 | 一般廃棄物最終処分場「サンクス BB」竣工 | 長野冬季オリンピック(2 月) |
| 平成 12(2000)年 | 公共下水道工事完成　村の人口 8000 人に到達 | 2000 円札発行 |
| 平成 13(2001)年 | 保健福祉センター「いちいの里」オープン | アメリカ同時多発テロ |
| 平成 15(2003)年 | 周辺市町村と合併せず、山形村存続を決定<br>山形村有線テレビの運営が、村からテレビ松本へ移行 | イラク戦争 |
| 平成 17(2005)年 | 一般廃棄物最終処分場「サンクス BB」第 2 期工事竣工 | クールビズ始まる |
| 平成 19(2007)年 | 山形なろう原霊園・公園竣工 | 郵政民営化 |
| 平成 21(2009)年 | 上水道第 5 次拡張工事完成 | 裁判員制度開始 |
| 平成 22(2010)年 | 畑地かんがい施設更新県営畑地帯総合整備事業完了 | 高校授業料無償化 |
| 平成 23(2011)年 | イメージキャラクター「やまっち」誕生<br>山形村公民館、文部科学省の優良公民館表彰 | 東日本大震災 |
| 平成 24(2012)年 | やまのこ保育園、認可私立保育園に<br>山形保育園新園舎完成 | 長野電鉄屋代線廃止<br>東京スカイツリー竣工 |
| 平成 26(2014)年 | 子育て支援センター「すくすく」オープン<br>開村 140 周年で村の最高地に「元気のでる鐘」設置 | 御岳山噴火 |
| 平成 27(2015)年 | 村の人口 8395 人 | 選挙権 18 歳以上に |
| 平成 28(2016)年 | 「雨氷」による倒木被害 | マイナンバー運用開始 |
| 平成 29(2017)年 | 証明書のコンビニ交付サービス開始 | 国連、核禁止条約採択 |
| 平成 30(2018)年 | 縄文土器 5 点が県宝指定 | 環太平洋連携協定(TPP)発効 |
| 令和 2(2020)年 | 村の人口 8400 人 | 新型コロナ感染症が拡大 |
| 令和 6(2024)年 | 開村 150 周年記念事業が実施される | |

## ２　村の今を知ろう：第６次総合計画

(1)なぜ、総合計画を作ったの?

山形村は、松本市に隣接し、農作物の一大産地でありながら利便性の高い住みやすい村として、近年まで人口増加が続いてきました。しかし、人口減少、少子化、高齢化に加え、新型コロナウイルスの感染拡大や DX・ゼロカーボン等の社会変化、SDGs に代表される地域の持続可能性の確保といった新たな課題にも直面しています。

そこで、第６次総合計画は、こうした変化を踏まえ、10 年後の村の暮らしの「ありたい姿」を実現するための羅針盤となる行政の最上位計画です。本計画では、村の活性化策や環境変化への対応策など、これからの時代に必要な「村づくりの基本方針」を示しました。

(2)村民みんなで取り組む総合計画

**第 6 次山形村総合計画は、2023 年に策定された村の『ありたい姿』を実現するための「村づくりの基本方針」となる計画です。**

村の現状や課題を 10 年ごとに整理し、村づくりの目標や、目標を達成するための行政の仕事を定めています。**山形村に関わるすべての人が、力を合わせて村づくりに取り組めるよう**、村民のみなさんにも読んでいただきたいものです。

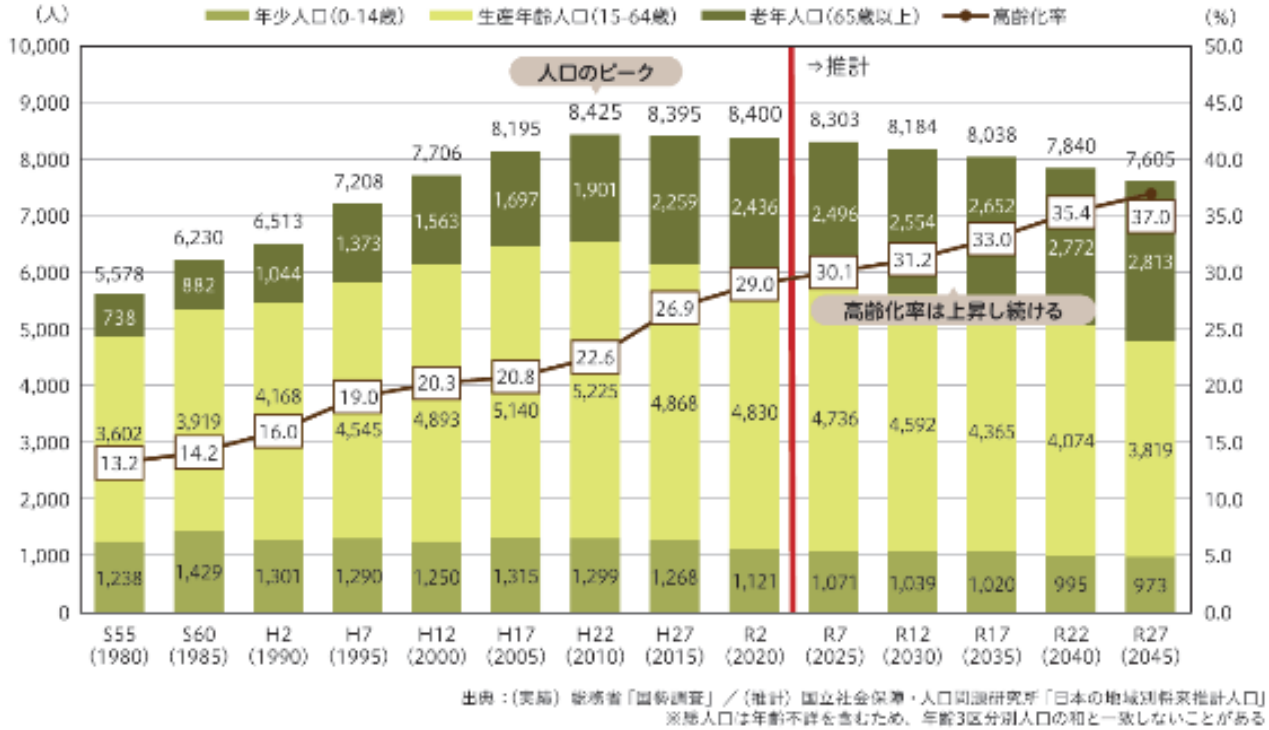
(3)村の課題：人口の問題

2020 年の国勢調査によると、山形村の人口は 8,400 人です。

村の人口は、2010 年までは増加傾向でしたが、現在は横ばいです。今後は長期にわたって人口減少が続き、2032 年には 8,100 人まで減少すると予測されます。

そこで、**第 6 次総合計画は、2032 年の人口目標を 8,200 人と予想しました。**

山形村の総人口の推移と将来推計




(4)　村の特徴

① 地勢と住環境

**山形村は、総面積の約半分が山林です。**そのため人が住むことができる土地は集約され、公共施設や商業施設が集中していることから、非常にコンパクトで住みやすい地域です。

② 産業

山形村は、長野県のほぼ中央部、松本平の南西に位置する農村地域ですが、商業施設が充実し、松本市街地にも近く、コンパクトな居住エリアと肥沃な農地が同居する「便利な田舎」です。

- 農業
- 工業
- サービス業

(5)これからの村づくり【３つの方向性】

**第６次山形村総合計画では、村づくりの考え方を３つ示しています。**

**【1 人口減少の中でもキラリと光る村づくりへの転換】**

山形村が居住地として選ばれ続けるために、

・住んで良かった村・訪れて良かった村・住み続けたい村となるために、暮らしの場の魅力を磨き、情報を発信する。

**【2 多様性を認め合い・支え合い・輝き合う村づくりへの転換】**

価値観や生活様式が多様になる中で、違いを受け止め、協力し合うとともに、一人ひとりに居場所がある村づくりを進める。

**【3 質実剛健な行財政への転換】**

人口減少や高齢化に対応するために、効率的・効果的な行財政運営。

(6)どうやって進めるの？ （令和施策の体系：チャレンジ…7-25-80）

第 6 次山形村総合計画(令和 5～14 年度)では、10 年後の村の将来像を、**持続可能で、住民一人ひとりが自分らしく暮らし続けられる村**としました。村の将来の姿を実現していくため、村に関わるすべての人が力を合わせて、この山形村にしかない「豊かなくらし」を共に創り、多様な価値観を認め合い、互いに支え合いながら共に輝いていく村づくりにチャレンジすることにしました。

住民も、事業者もチャレンジする内容は、**7** つの計画分野ごとに **25** の施策とその施策を実現するため **80** の事業としました。

(7)「子育て分野」「教育分野」の重点プロジェクトのキーワードは「ふるさと」

村民アンケートから、村への愛着が低くなっていることが課題として見えてきました。そこで、村の良さを再発見し、皆で磨き、発信する学びを盛んにしようと考え、「ふるさと学習を通じて村を知り、郷土への誇りや愛着心を育てる」ことを重点プロジェクトの一つとしました。

(8)子育て分野：ミッション　【子育て支援センター「すくすく」】

子育て支援センター「すくすく」では、子育てに関する情報提供、保育士や保健師による子育て相談の受付、親子が交流できる場の提供などを行っています。山形保育園の隣(東側)に位置しており、利用時間は午前９時～12時、午後１時～4時です。

(9)教育分野:ミッション 【複合施設】

山形村では、生涯学び合い続ける村づくりの礎として、複合施設の検討を進めています。「いつでも、だれでも、気軽に集い、学び合い、つながる、文化の創造・発信施設」をコンセプトにかかげ、「ミュージアム機能」「図書館機能」「子どもの居場所・住民交流の場所機能」が融合した施設を目指します。

(10)教育分野:ミッション　【トレーニングセンター】

　農業者トレーニングセンターは、体育館やグラウンド、各種研修スペースを備えた施設です。

〇開館時間：午前８時半～午後 10 時　※体育施設は午前９時～午後９時半

〇休館日:毎週月曜日

(11)健康・福祉分野:ミッション【ワンストップ相談窓口】

　保健福祉センターいちいの里には、「保健センター」「福祉センター」「地域包括支援センター」が設置されています。地域包括支援センターでは、高齢者の個別的・総合的な相談を受け、利用者のニーズに対応した各種サービス提供の連絡・調整をはかります。

(12)健康・福祉分野【福祉バス】

　山形村では、おおむね 65 歳以上の方、心身に障がいのある方、その他交通弱者などを対象に、福祉バスを運行しています。時刻表などの詳しい情報は、村のホームページをご覧ください。

〇運行日:平日 ※祝日・年末年始を除く

〇運賃:無料

(13)産業振興分野　【ロゲイニング】

　ロゲイニングとは、制限時間内に地図上のチェックポイントを回り獲得点数を競うチームスポーツです。2023 年 11 月、山形村「新そば味わい祭り」で「山形村そばと道祖神めぐりロゲイニング」を開催しました。地図を片手に村内を巡り、「やまっちそば」をはじめとしたグルメや観光、体験を満喫しました。

(14)まちづくり分野　【空き家バンク】

　2018 年 7 月から、村内の空き家を有効活用し、地域の活性化を図る目的で、「山形村空き家バンク」を開始しました。この制度は、売りたい、貸したい物件を村に登録し、買いたい、借りたい人へ情報を提供するものです。村(清水高原は除く)に空き家を所有している方で、売りたい、貸したいという方は、まずは、企画振興課にご相談ください。

(15)インフラ分野　【JR 広丘駅直行バス】

2023 年 4 月から「JR 広丘駅直行バス」の運行が始まりました。詳しくは、村のホームページをご覧ください。

〇運行日：平日 ※土日祝日及び年末年始(12 月 29 日～翌年 1 月 3 日)は運休

〇運賃：大人 210 円、中高生 150 円、小児・障がい者 100 円

〇乗り場：山形村役場前

〇発着時間：午前 7 時 19 分発 → 7 時 35 分着

(16)公共施設 【ミラ・フード館】

・ミラ・フード館には、カリヨンをの塔があり、1991 年にオランダで職人の手により製造された 14 個のカリヨンが設置されています。

・ミラ・フード館には、400 ミリの反射望遠鏡が設置され、天体観測協力者の会の案内で、星空観察が行われています。

(17)その他　【時報】

山形村では、午前 11 時半と午後 5 時にサイレンで時報を知らせています。存続を検討した結果、2023 年 12 月に、サイレンの鳴る時間を 36 秒から 24 秒に短縮し、今後も継続することにしました。

(18)その他　【やまっち】

山形村のイメージキャラクター「やまっち」は、山形村をこよなく愛する五穀豊穣(農作物が豊かに実ることを願う言葉)の見習い神様です。山形村文化遺産である「清水寺」の屋根をモチーフにした笠と、村花である

「さつき」、体は村木の「いちい」からできています。

## ３　山形村の歴史

### (１)縄文時代

縄文時代は、今から約１万 6000 年～2400(2800)年前の、縄文土器や石器などの道具を使った狩猟採集生活中心の時代です。縄文土器の登場で「煮る」「貯蔵」が可能になり、地面に穴を掘り屋根をかけた竪穴住居に住み、集落（ムラ）を形成するようになります。

**山形村には、40 ケ所ほどの遺跡があります**が、その多くは縄文時代中期（約 5000～4000 年ほど前）のもので、土器や石器など数多くの生活道具が出土しています。

村の代表的な縄文遺跡は、

**①松本平でも大きな遺跡と言われる下竹田の「三夜塚遺跡」からは、釣手付深鉢形土器が発掘されています。**

②縄文時代中期の大きな集落と考えられる**上竹田の「殿村遺跡」からは、ダイナミックな飾りのある大型土器**や土偶が発掘されています。

③竪穴式住居跡から縄文時代を通して、人々が集落生活をしていたことがうかがえる**上大池の「淀の内遺跡」からは、翡翠製のペンダントが発掘されています。**また、隣接する「洞遺跡」からは滑石製の管玉が発掘されています。

**山形村から出土した縄文土器のうち、5 点は 2018 年には長野県宝に指定されています。**

有孔鍔付土器

釣手土器

釣手土器

釣手土器

抽象絵画文土器

**実物の寸法の比率とは異なります**

（2）弥生時代

約 2400(2800)年前から始まった弥生時代は、稲作や青銅器や鉄製農具など金属器の伝来により、**人々の生活は狩猟採集生活から水田耕作を中心とした農耕生活へと移行し**、生産力や生活水準が向上します。土器は薄手で赤褐色の質素な弥生式土器へと発展します。

水に恵まれない山形村では、米作りに向いた土地が少ないため、縄文時代に比べると弥生時代の遺跡は多くありません。

洞遺跡、境窪遺跡、ヨシバタ遺跡などで竪穴式住居や土器などが発掘されています。

**上竹田の殿村遺跡では、方形周溝墓と呼ばれる弥生時代のお墓が見つかっています。**

（3）古墳時代

古墳時代（3 世紀中頃～7 世紀）は、巨大な墳墓である古墳が盛んに築かれた時代です。前方後円墳に代表される多様な古墳が築かれ、埋葬品には埴輪や鏡、武器などが見られます。この時代には、大和政権が勢力を拡大し、豪族が各地を支配しました。
5 世紀以降には漢字や仏教が伝来し、それらは日本の国家形成に大きな影響を与えました。古墳時代は多様な文化が花開いた時代であり、古代日本の礎が築かれた時代とも言えます。

村内には現在、ピアやまがたの裏山にある穴観音古墳（円墳・村指定史跡）のみが残っています。しかし、以前は周囲に複数の古墳が存在し、昭和 45 年と昭和 60 年の調査でそれぞれ大久保 1 号・2 号墳、殿村古墳が確認されました。特に**殿村古墳からは県内最古級の墨書土器（「錦服部」）が出土しています。**これらの古墳は、いずれも古墳時代終末期（7 世紀後半～8 世紀初頭）に築造されたと考えられています。

穴観音古墳（円墳）

（4）古代：飛鳥・奈良・平安時代

**□飛鳥時代（592 年～710 年）**

大陸から仏教が伝来し、豪族が氏寺を建立するなど、仏教文化が花開いた時代。聖徳太子による冠位十二階の制定や十七条憲法の制定等政治制度が整備されるとともに 645 年からの大化の改新で天皇中心の中央集権国家体制の確立が進められました。また、法隆寺や中宮寺に代表される飛鳥文化が栄え、仏像や建築に大陸の影響が見られます。

**□奈良時代（710 年～794 年）**

平城京への遷都を機に、天皇中心の中央集権国家体制が確立されます。律令制度の整備や大仏建立など、国家事業が活発に行われました。また、唐の文化を積極的に取り入れ、東大寺や正倉院などに代表される国際色豊かな天平文化が栄える同時に、万葉集に代表される和歌文学も発展しました。

**□平安時代（794 年～1185 年）**

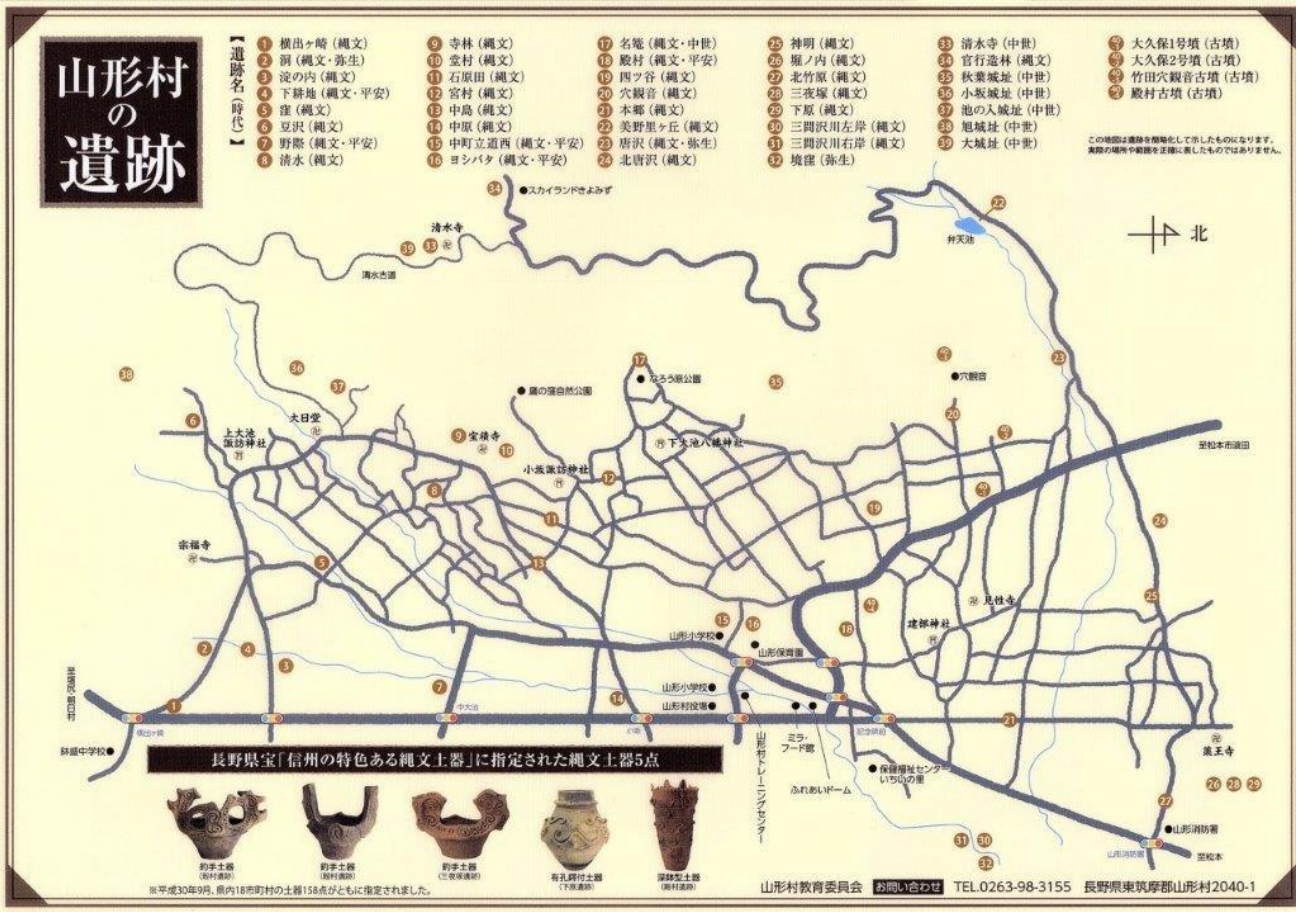
平安京への遷都を機に、貴族文化が栄えた時代。遣唐使の廃止により、日本独自の文化が発展し、『源氏物語』に代表される仮名文学や、寝殿造の建築、十二単などの華やかな衣装が特徴である貴族文化が栄えると同時に、浄土信仰が広まり、平等院鳳凰堂などの寺院建築が盛んに行われました。一方で、末期には武士が台頭し、源平合戦を経て鎌倉幕府が開かれるなど、政治的な変革も起こりました。

▼飛鳥・奈良時代

飛鳥・奈良時代の山形村の様子は詳しく分かっていませんが、松本市内では古墳時代まで奈良井川以東や旧市街地に集落が集中していました。しかし、この時代になると、潅漑技術の発達により、水源から離れた場所でも集落が作られるようになりました。山形村近郊の奈良井川西岸にある島立・神林地区には、下神遺跡、北栗遺跡、南栗遺跡、三の宮遺跡などの大規模な集落が形成されました。

▼平安時代

9世紀に入ると、奈良時代に栄えた集落の多くが衰えていきました。原因は明らかではありませんが、887年の大地震と大洪水の影響が考えられています。その後、9世紀後半になると周辺地域に新たな集落が作られました。山形村境の三間沢川左岸遺跡からは多くの住居跡が見つかっています。村内でも、上竹田殿村遺跡、中大池野際遺跡、下大池ヨシバタ遺跡などで集落が形成されました。特にヨシバタ遺跡からは、轡（くつわ）や鋏具（かこ）といった馬具や鍛冶関連の遺物が出土しており、馬の飼育に関わる牧場のような場所であったと考えられています。



(5)鎌倉時代・室町時代～戦国時代

**□鎌倉時代（1185 年～1333 年）**

日本で初めて武士が政権を握った時代で、源頼朝が鎌倉幕府を開き、初の征夷大将軍となり、武士による政治が開始されます。幕府は御成敗式目などの法制度を整備し、御家人と呼ばれる武士団を統制し、守護や地頭を各地に配置し地方支配を行うなど、武家社会が確立されました。禅宗などの新しい仏教が広まり、武家文化が発展します。また、元寇（蒙古襲来）などの外敵との戦いもありましたが、封建制度の基礎が築かれた時代ともいえます。

**□建武の新政(1333 年～1336 年)**

**□室町時代（1336 年～1573 年）**

足利氏が京都に室町幕府を開きます。初期は南北朝の分裂、足利義満の治世で一時的な安定期はありますが、その後は応仁の乱など政治的には混乱が続いた 240 年間といえます。武家と公家の権力が交錯し、経済面では日明貿易などにより、堺などの都市が発展し商業活動も活発化するとともに、文化面では禅宗の影響を受けた水墨画や能、茶道、華道が発展した時代です。

**■戦国時代（1467 年～1568 年）**

室町幕府の権威が失墜し、下剋上が横行し、身分秩序が流動化し、全国各地で武士が勢力を競い合い、領土拡大と権力闘争が繰り広げられるようになります。

織田信長や豊臣秀吉といった強力な武将が登場し、天下統一を目指します。戦国大名たちは城郭を築き、城下町を形成することで領地の統治や領民の管理を強化し、農業や商業の発展を図りました。また、鉄砲や火薬などの新しい軍事技術が導入され、戦術にも大きな変化が生じたのもこの時代です。

**□安土桃山時代（1573 年～1603 年）**

織田信長は楽市楽座など革新的な政策を導入して中央集権的な政治を推進し、豊臣秀吉は刀狩りや検地などの施策で土地制度と武士階級を整備しました。

文化面では、安土城や伏見城などの豪壮な城郭建築や、茶道・華道・能楽などが発展します。また、海外との貿易も盛んになり、南蛮文化が流入してきました。

**▼鎌倉時代**

信濃国の守護には比企氏が任命されました。しかし、比企氏は北条氏との権力争いに敗れ、信濃守護は北条一族が代々務めることになりました。

**▼室町時代**

小笠原氏が信濃国の守護となり、松本を中心に統治しましたが、一族の争いや国人の反抗により、大きな力を持つ者は現れませんでした。わずかに残る史料（「結城陣番帳」：結城合戦の際の記録）には、「竹田殿」「大池殿」「小坂殿」という豪族の名前があり、この 3 氏が山城を築いて各地区を支配していたと考えられます。

**▼戦国時代**

戦国時代の山形村は、松本を支配する小笠原氏の影響下にあり、竹田氏、大池氏、小坂氏が各地区を治めました。彼らはふだん、ふもとの館に住み、農民とともに農業などを営みながら、戦いに備えて現在でも堀や土塁などの痕跡が残っている山城を築きました。

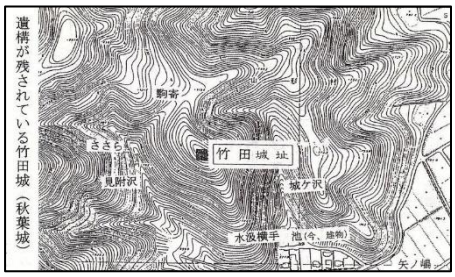
大池氏：宗福寺近くに館を構え、**大城**を築いた。

小坂氏：本殿地籍に館を構え、**池の入り城や小坂城**を築いた。

竹田氏：殿村地籍に館を構え、**秋葉城（竹田城）**を築いた。

1550 年、武田信玄が松本平を攻めると、小笠原氏は撤退しますが、伝説によると小笠原長時が山形村の長見寺※に娘を預けたとされています。

（※下大池の八幡神社東にあったとされるが、明治 26（1893）年の小坂の大火で焼失）



山城：竹田城位置図

山城：小坂城、池の入城、大城位置図

竹田城

小坂城

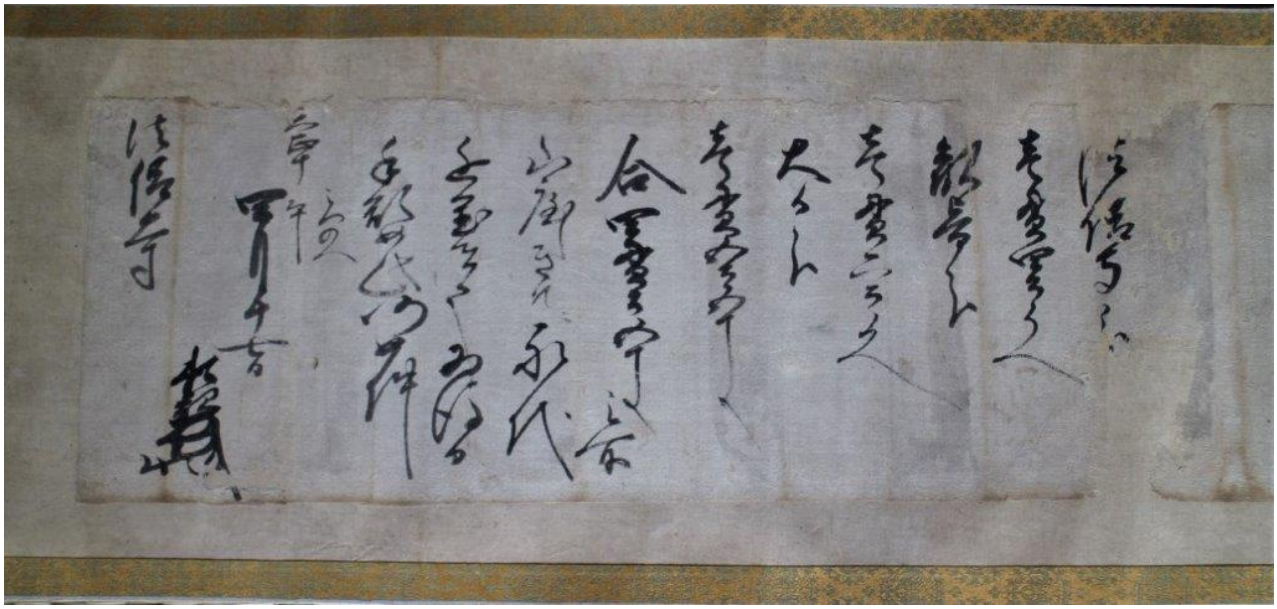
**▼安土桃山時代**

天正 10（1582）年、武田氏が織田信長に滅ぼされると、**小坂宝積寺に残されている安堵状（村内最古の文書と言われる土地の所有権を示す書状）から、山形村域を藤沢頼親、小笠原貞慶が支配しようとしていた様子がうかがえる。**

小笠原氏は一時的に旧領松本を奪還しますが、天正 18（1590）年に豊臣秀吉によって下総へ移封され、以後石川数正の支配下となります。石川数正とその子康長は松本城や城下町の整備を行いました。

**▼庶民の暮らし**

戦国時代から安土桃山時代にかけての庶民の暮らしは、史料が少なく詳しいことは、分かりません。しかし、下大池の中町立道西遺跡や名篭遺跡、上竹田殿村遺跡からは、建物址や墓地、土鍋や銭貨などの生活道具が発掘されています。



宝積寺に残されている藤沢頼親の安堵状

（文面）

法借寺分
壱貫四百文
観音分
壱貫二百文
大日分
壱貫五百五十文
合四貫百五十文之所
山屋しき共に永代
進置者也為後日
手形如比乃如件
天正ミつのへ
午
四月十七日
頼親　花押
法借寺

（6）江戸時代

江戸時代（1603-1868）は、徳川家康が江戸幕府を開いたことから始まりました。この時代は約 260 年間続き、日本は鎖国政策をとり、外国との接触を制限しました。その結果、国内は安定し、戦乱のない時代が続きました。江戸時代の特徴として、武士階級の支配、農業の発展、町人文化の興隆、そして全国にわたる街道網の整備などが挙げられます。また、学問や芸術も盛んになり、儒学や浮世絵などが発展しました。このような安定した社会の中で、経済も成長し、都市も発展していきました。

信濃の国は、江戸時代の街道網においても重要な位置にありました。中山道という主要街道が信濃を通り、江戸と京都を結ぶ重要な交通路となっていました。このため、宿場町が発展し、旅行者や商人たちが行き交う場所として賑わいました。特に、善光寺は全国的に有名で、多くの参拝者が訪れました。善光寺参りは、江戸時代の庶民の信仰と観光の一環として、信濃の経済や文化にも大きな影響を与えました。

江戸時代の山方三か村（大池・小坂・竹田）は、領主が頻繁に変わる地域でした。当初は松本藩主の石川氏が治めていましたが、慶長 18（1613）年に石川康長が改易され、飯田藩より小笠原秀政が移ってくると、小笠原氏の統治になります。

元和 3（1617）年小笠原忠真が明石藩に移り、松本藩主は高崎藩から移ってきた戸田康長になります。**しかし、戸田氏の領地は七万石で、八万石の小笠原氏より一万石少なかったため、この差額1万石のうち、「西五千石」と呼ばれた地域（針尾から和田まで）は高遠藩領（藩主保科正光）へと変更されます。**その後、幕府が検地を行うと、表高より 6000 石多いことがわかり、山方三か村を含む地域は幕府領となり、幕府領の陣屋は今井におかれました。

その後、正徳 3（1713）年山方三か村を含む五千石分が無城大名の水野忠定の旗本領となりました。

享保 10（1725）年水野家が改易になると、戸田光慈氏が松本藩主となりますが、3 万石減高となったため、山方三か村は再び幕府領となります。

最終的に、寛保 3（1743）年に松本藩が支配管理を願い出て、「松本藩預かり領」となり、幕末まで松本藩が預かることとなります。

この時期は年貢の取り立ては幕府方式(金納)で、高掛かり三役（御伝馬宿人用・六尺人用・御蔵前人用）といった付加税徴収もあり、松本藩には利益があったといわれています。

ちなみに、**江戸時代天保年間(約 180 年前)の山方三か村には、およそ 2500 人が住んでいました。**

石川氏の築城した松本城

山形村（大池・小坂・竹田）所属関係変遷表

| 年　代 | 所　属 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 近世初頭 | 松本藩<br>小笠原氏・石川氏<br>小笠原氏 | 安曇郡　111 か村　32,221 石<br>筑摩郡　144 か村　48,301 石<br>計　　255 か村　8 万石余 |
| 元和 4 年<br>（1618） | 高遠藩<br>保科氏・鳥居氏 | 松本に戸田氏 7 万石にて入封、小笠原氏 8 万石との差 1 万石の中、西 5 千石 13 か村（含山形村）高遠藩へ |
| 元禄 3 年<br>（1690） | 幕　府<br>今井陣屋 | 元禄 2 年鳥居氏改易、翌 3 年高遠領総検地在高 3 万 9 千石余、新藩主内藤氏 3 万 3 千石との差 13 か村 6 千石幕府領に |
| 正徳 3 年<br>（1713） | 笹部水野家<br>笹部陣屋 | 上記の中、今井地区 7 か村 4,283 石水野家へ残り和田 8 か村 2044 石はそのまま幕府領 |

| | | |
|---|---|---|
| 享保 10 年<br>（1725） | 幕　府<br>飯島陣屋<br>塩尻陣屋 | 享保 10 年 8 月水野家改易で再び幕府領へ（寛保 2 年代官山本平八郎の松本平開発計画中止） |
| 寛保 3 年<br>（1743） | 松本藩預り<br>松本六九預り役所<br>戸田氏 | 塩尻陣屋廃止　松本に預り所設置　奉行をおく |
| 明治元年<br>（1868） | 名古屋藩取締所<br>塩尻取締所 | 2 月より |
| 明治 2 年<br>（1869） | 伊那県<br>塩尻出張所 | 6 月 24 日より |
| 明治 4 年<br>（1871） | 筑摩県<br>県庁　松本 | 11 月 20 日より<br>（7 月廃藩置県） |
| 明治 9 年<br>（1876） | 長野県<br>県庁　長野 | 8 月 21 日より<br>（6 月筑摩県庁焼失） |

## 山方三か村戸口調

| 村 | 年 度 | 家　数 | | | 人　数 | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 本百姓 | 水呑 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| 大池村 | 寛政 12(1800)年 | 168 | 31 | 198 | 440 | 424 | 864 | |
| | 天保 8(1837)年 | 166 | 58 | 204 | 440 | 401 | 841 | 石高 1113 石 9 升 6 合 7 勺 |
| | 天保 15(1844)年 | 141 | 59 | 200 | 418 | 391 | 809 | |
| | 明治 4(1871)年 | 170 | 32 | 202 | 496 | 514 | 1,010 | 外に寺 1、堂 1、山伏 1 |
| 小坂村 | 天保 7(1836)年 | | | 137 | 358 | 311 | 669 | 石高 681 石 1 斗 7 升 4 |
| | 文久 2(1862) 年 | 123 | 23 | 148 | 361 | 368 | 731 | |
| | 元治 1(1864) 年 | 123 | 23 | 148 | 363 | 370 | 736 | |
| | 明治 4(1871) 年 | 121 | 27 | 148 | 353 | 359 | 712 | 外に寺 1、堂 1、山伏 1 |
| 竹田村 | 寛保 3(1743) 年 | 171 | 12 | 183 | 535 | 509 | 1,044 | |
| | 天保 7(1836) 年 | | | 198 | 524 | 474 | 998 | 石高 1104 石 9 斗 |
| | 万延 2(1861) 年 | 184 | 23 | 208 | 551 | 481 | 1,032 | |
| | 明治 4(1871) 年 | 224 | 25 | 249 | 607 | 544 | 1,151 | 外に寺 2、堂 1 |

（7）明治期

明治期の日本は、1868 年の明治維新に始まる激動の時代で、徳川幕府による封建体制が崩壊し、天皇中心の近代国家へと大きく体制が変わります。

西洋の文化や技術や制度を積極的に取り入れ、急速な近代化が進められました。政府は学制、兵制、税制の 3 大改革を柱に、鉄道や工場といったインフラ整備や新産業の育成を推進し、教育の近代化や地租改正、近代的な軍隊組織の導入などを行います。

一方で、急速な近代化は、士族の反乱や自由民権運動を引き起こしました。人々の声の高まりを受けて、政府は 1889 年に大日本帝国憲法を発布しました。

対外的には日清・日露戦争の勝利により、日本の国際的地位が高まり産業革命も進行しましたが、都市部での労働問題や農村での格差拡大など、社会問題も顕在化しました。

長野県で見ると、明治 4（1871）年の廃藩置県により松本藩が松本県となり、その後筑摩県に統合され、明治 9 年には筑摩県中南信地方が長野県となりました。

明治 5（1872）年に学制が発布されると、山形村では、お寺などを仮校舎とする 6 つの地区ごとに小学校が作られましたが、その後統廃合が繰り返されました。

**明治 7（1874）年 10 月 22 日には、大池村、小坂村、竹田村が合併して「山形村」が誕生します。**

**明治 9（1876）年には、筑摩県の中南信地方が長野県となり、山形村も長野県の管轄になります。**

明治 19（1886）年には、大池学校と山県学校が合併して「山形学校」となりました。

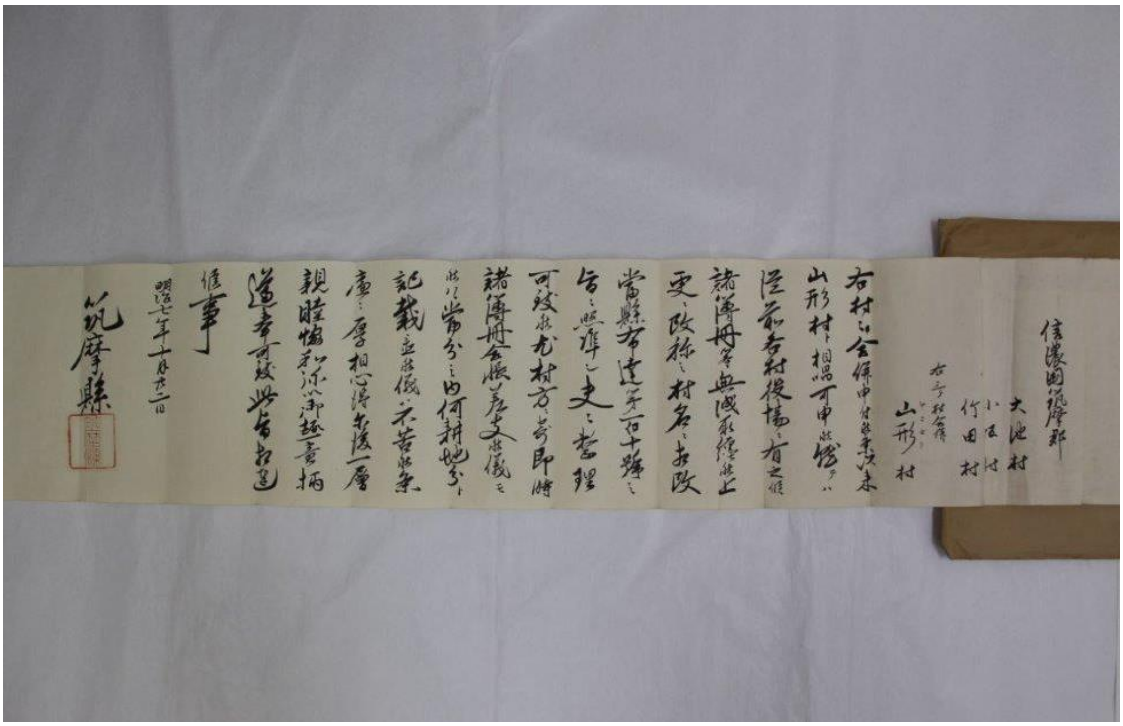
改革が進む中で、人々の間には政治に参加したいという声が高まり、安曇野市穂高の松沢求策や松本市今井の上条蟻司（ありじ）らによって、国会の開設や憲法の制定を求める運動が全国に広がりました。

明治 22（1889）年に「大日本帝国憲法」が発布され、山形村では財産や納税額、性別による制限選挙で選ばれた村議会議員によって村長選挙が行われ、永田久吉が初代村長に選出されました。

日清戦争や日露戦争を経て日本は産業革命が進みますが、都市部の労働者は物価高騰や低賃金長時間労働に苦しみ、山形村のような農村では、富める地主と貧しい小作農

家の格差が深刻になります。

山形村では**明治 26（1893）年 3 月、南風にあおられて「小坂の大火」が発生し**、藁葺き屋根の多かった民家や宝積寺、小坂諏訪神社までも焼き払われてしまうという悲劇が起きました。【コラム ⑥小坂の大火参照】



明治7年10月22日付け合併御布達書

（文面）

信濃国筑摩郡
大池村
小坂村
竹田村
右三ケ村合併
山形村
右村ニ合併申付候条　以来
山形村ト相唱エ申スベク候
就テハ従前各村役場ニコレ有リ候
諸簿冊等洩レナク取纏メ候上
更ニ改称ノ村名ニ相　改メ
当県布達第百十号ノ
旨ニ照準シ夫々整理致スベク候
尤モ村方ニ寄リ即時
諸簿冊合帳差支エ候儀モ候ハバ
当分ノ内　何耕地分ト
記載置キ候義ハ苦シカラズ候條
扁ニ厚ク相心得示後一層
親睦協和　弥以テ御趣意柄
尊奉致スベク　此ノ旨相達シ
候事
明治七年十月廿二日
筑　摩　縣

（8）大正期

大正期（1912−2023）は、明治維新後の近代化が加速し、日本が国際社会で存在感を増した時代で、政治、経済、文化の面で大きな変化がありました。

政治面では、大正デモクラシーと呼ばれる民主化の流れが進み、普通選挙法が施行され、25 歳以上の男性全員に選挙権が与えられました。

経済面では、第一次世界大戦後の好景気により、工業化が進み、都市部の人口が増加しました。しかし、米などの値段が急に上がったこともあり、労働運動や米騒動、農民が小作料の引き下げを求める運動が各地で起こりました。

文化面では、欧米からの影響を強く受け、新しい文学や芸術のスタイルが生まれ、文化活動が活発化しました。

また、社会的にも女性の地位向上や労働者の権利の向上、部落差別解消などの社会運動が活発化します。これらの要素が結びつき、日本社会が大きく変革された時期とされています。

山形村では、大正 6（1917）年に村役場と学校に電灯が点灯し、大正 10（1921）年には松本と山形学校前の間に乗合自動車(バス)が走り始めました。

一方で、民衆運動が盛んになり、社会的な不平等を改善しようとする意識が高まりました。明治 30 年に**山形村の中村太八郎や松本市の木下尚江らが始めた普通選挙を求める運動は、その結果、大正 14（1925）年には 25 歳以上のすべての男子が衆議院議員の選挙権を持つようになりました。**

乗合自動車

（９）昭和時代

**① 昭和元年～昭和 20 年**

昭和初期、世界的な経済危機と日本の国内問題が重なり、深刻な不況に陥りました。この状況を打開するため、日本は中国への進出を強め、最終的に第二次世界大戦に参戦しました。戦時中、国民生活は厳しく制限され、日本国内では米や野菜、衣類などが配給制となり、多くの人々が戦争に協力しました。昭和 20(1944)年以降、アメリカ軍の空爆が激化し、多くの都市が焼け野原となりました。1945 年 8 月、原爆投下を経て日本は降伏し、長期に渡る戦争と植民地支配が終結しました。

**② 昭和 20 年～昭和 64 年**

敗戦直後、日本は連合国軍の占領下に置かれ、民主化が進められます。
1947 年に日本国憲法が施行され、国民主権・基本的人権の保障、平和主義が定められ、地方自治法や教育基本法などが整備されました。これにより、封建主義からの脱却や非軍国化、女性の参政権の保障、財閥解体、農地改革などが推進されました。

1951 年、サンフランシスコ講和条約によって日本は主権国家としての地位を回復し、国際社会への復帰を果たしました。

1950 年代後半から 1970 年代初頭にかけて、重化学工業を中心とした産業の発展、技術革新、そして輸出志向型の経済政策により、日本は高度経済成長期を迎えます。国民の生活水準も大幅に向上し、「三種の神器」と呼ばれるテレビ、洗濯機、冷蔵庫が各家庭に広まりました。

1964 年には東京オリンピックが開催され新幹線も開業し、日本の経済復興と国際的地位の回復を世界に示す象徴的な出来事となりました。
しかし、1973 年の第一次オイルショックを契機に、高度成長は終焉を迎え日本社会は大きく変化します。環境問題(公害問題)や経済格差などの課題も顕在化し、経済成長の負の側面が認識されるようになりました。

1980 年代後半にはバブル経済が発生し、地価や株価が異常に高騰しました。

① 昭和時代(戦前)

昭和時代の不景気は長野県や山形村にも深刻な影響を与えました。山形村では、繭などの農産物価格が大暴落し、村民の生活が苦しくなりました。この状況の打開策として中国進出の政策の下、長野県は日本一の満蒙開拓送出県となり、多くの人々が満州へ移住しました。しかし、戦後、帰国した人々は、様々な苦難に現在でも直面しています。【コラム ⑤満蒙開拓と山形村参照】

戦時中、山形村の住民も戦争に協力させられました。現在の信州まつもと空港周辺の陸軍飛行場の整地作業には、多くの住民や学生が動員されました。農家の飼い馬やお寺の梵鐘なども供出されました。

1944 年以降、アメリカ軍の空爆が激化し、都市部は焼け野原となると、山形村にも東京世田谷区からの疎開児童がやってきて、寺院を宿舎とし、山形国民学校（現山形小学校）に通いながら、勤労奉仕や家庭勤労に従事しました。【コラム ④学童疎開参照】

② 昭和時代(戦後)

山形村でも新制の小中学校が発足し、自作農がたくさん誕生しました。また、青年団や婦人会などが、農村の民主化に向けて活躍し始めました。

1945 年 10 月、秋雨前線による豪雨災害で山形村の三間沢川上流の堂ヶ入沢が決壊し、消防団員２名が濁流に飲まれて亡くなりました。【5 記念碑(4)消防団員殉難の碑参照】

1950 年代から 1960 年代にかけて、山形村でも役場庁舎の新築(1953)、小中学校での給食の開始(1955)【コラム ⑨学校給食のあゆみ参照】、全村上水道工事の完成(1959)【コラム ⑧水道の歴史】などインフラ整備と生活改善が進められました。さらに、1964 年第一次農業構造改善事業に着手し、村の農業が大きく転換する契機となりました。

1965 年には、3 市村組合立鉢盛中学校が誕生しました。

1970 年代には、第 2 次農業構造改善事業や中信平総合開発事業、スプリンクラーによる農業灌水、清水高原の観光・別荘開発などの経済開発が進められました。

1980 年代には、農業者トレーニングセンターや新役場庁舎など公共施設が建設・整備されました。

(10)平成時代以降

1986 年から 1991 年のバブル経済の影響で、山形村も経済成長の恩恵を受け、ピア山形(1991)やミラ・フード館(1992)スカイランドきよみず(1995)などの公共施設の建設・整備が進められ、農村文化の近代化が図られました。

バブル崩壊後も、近隣都市圏のベッドタウンとして人口が増加し、平成の大合併の際も独立村を選択(2003)しました。

また、地域の活性化を狙った漫画「山形村物語－水色山路」(1990)の制作やドラマ「水色山路」(1991)の制作、上下水道の整備拡張(2000)、ふれあい児童館(1994)やふれあいドーム(1997)、「いちいの里」(2001)の開設など、文教・福祉関係施設の充実が図られています。

山形村の戸数と人口の推移

| 年 | 戸数 | 人口 | 年 | 戸数 | 人口 |
|---|---|---|---|---|---|
| **明治　7(1874)年** | **629** | **3,031** | 昭和 30(1955)年 | 1,130 | 5,958 |
| 明治 11(1878)年 | 635 | 3,206 | 昭和 35(1960)年 | 1,131 | 5,567 |
| 明治 16(1883)年 | 651 | 3,322 | 昭和 40(1965)年 | 1,123 | 5,227 |
| 明治 22(1889)年 | 749 | 3,645 | **昭和 45(1970)年** | **1,162** | **4,991** |
| 明治 31(1898)年 | 726 | 3,999 | 昭和 50(1975)年 | 1,204 | 5,037 |
| 明治 41(1908)年 | 808 | 4,484 | 昭和 55(1980)年 | 1,368 | 5,578 |
| 大正　2(1913)年 | 869 | 5,004 | 昭和 60(1985)年 | 1,517 | 6,230 |
| 大正　7(1918)年 | 944 | 5,336 | 平成　2(1990)年 | 1,632 | 6,513 |
| 大正 12(1923)年 | 942 | 4,852 | 平成　7(1995)年 | 1,878 | 7,208 |
| 昭和　2(1927)年 | 952 | 4,517 | 平成 12(2000)年 | 2,127 | 7,706 |
| 昭和　6(1931)年 | 975 | 4,793 | 平成 17(2005)年 | 2,411 | 8,152 |
| 昭和 14(1939)年 | 982 | 5,052 | 平成 22(2010)年 | 2,601 | 8,425 |
| 昭和 20(1945)年 | 1,136 | 6,217 | 平成 27(2015)年 | 2,725 | 8,395 |
| 昭和 25(1950)年 | 1,136 | 6,337 | 令和　2(2020)年 | 3,012 | 8.400 |

昭和 50 年までは村誌 P424 の数値

昭和 55 年からは国勢調査の数値

## ４　道と道標

下竹田の公会堂の西の辻や上大池横手ケ崎、清水古道沿い等、村内の古道の辻々に点在する「道標(みちしるべ)」は、昔の旅人や参詣(さんけい)者にとって欠かせない重要な道案内です。

「道標（みちしるべ）は、村内の古道の辻々に点在し、昔の旅人にとって欠かせない道案内標識でした。下竹田上手村辻にひっそりと立つ道標には、「右せば志うじり　左むら道　左はたはしば」（右洗馬塩尻、左村道　左波田橋場）と刻まれています。これは、橋場（松本市安曇）から洗馬塩尻へ通じる古道がこの付近を通っていたことを示しています。

**この道は村人によって「牛道」と呼ばれ、明治から大正期にかけて、飛騨から諏訪への近道として利用されました。**当時は、諏訪へ向かう岐阜の製糸女工の姿も見られたといいます。

他にも、小坂からの清水古道には、大日堂の北辻に「右清水道」、堂ケ入ダムの下に左を指す図柄の道標があり、参拝者への道案内として機能していました。

各集落から「市」である松本へつながる「市道（いちみち）」沿いにも道標が残されています。例えば、上竹田御判形には「右きそすわ　左まつもと」と刻まれた道祖神を兼ねた道標や、「右まつもと　左おおつま道」などがあります。

昭和７（1932)年には、上大池の青年会と石工が協力し、朽ちた木製の道標を鎖川の石で作り直しました。かつて村内には２５基ほどの道標が存在したといわれますが、圃場や道路の整備により、移転や紛失したものも見られます。」

【牛道】

旧安曇村の中心部島々から雑炊橋を渡った橋場集落は、江戸時代に飛騨街道の松本藩・橋場番所があった要衝の地。竹田村を南北に走り、橋場から飛騨方面へ向かうこの道を、村では牛道と呼びました。奈川は山間地で田もなく、婦女子は蕨根を掘り製粉し牛で運搬。帰りに米や塩等に交換して運ぶため、他国へ山形村を通って往来したのです。江戸時代の奈川は、徳川御三家の一つ尾州藩の領地。尾州牛隊商は、「尾州の岡船」とも

称され、荷鞍に尾州領主の紋を付け、腰には絵符姿で通りました。山形村では、これを珍しく思い「牛道」と呼んだのです。松本藩の牛方が道ですれ違う時は、道を譲り、茶屋では下座に座る等、立場は明らかでした。　時代が変わり、牛道は飛騨の製糸工女が往復した道。南はずれ下本郷の辻の道標は「左はしば道」と北へ案内しています。南へは三間沢川に架けた橋を通り、野口新田を経由、赤坂橋で鎖川を渡ったのです。

山形村の道標　一覧表

| | 所在地 | 碑面 | 高 | 幅 | 厚 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 上大池豆沢辻 | 標ニ向テ　右小坂清水道　左大池清水道 | 67 | 50 | 17 | 昭和７年　上大池清和会 |
| 2 | 上大池横手ヶ崎路傍 | 標ニ向テ　左作場道 | 52 | 40 | 10 | 昭和７年　上大池清和会 |
| 3 | 上大池横手ヶ崎路傍 | 標ニ向テ　右ハ本村竹田区ヲ経テ波多方面ニ通ズ<br>左ハ本村ヲ経テ松本市ニ通ズ<br>後ハ朝日村ヲ経テ塩尻ニ通ズ | 82 | 33 | 18 | 昭和７年　上大池清和会 |
| 4 | 上大池久保辻 | 標ニ向テ　右ハ当区ヲ経テ清水寺ニ至ル<br>左ハ朝日村ヲ経テ洗馬塩尻ニ通ズ<br>後方ハ松本市ニ通ズ | 90 | 40 | 20 | 昭和７年　上大池清和会 |
| 5 | 小坂清水寺古道入口 | 左きよみづ(左を指差した図柄) | 65 | 35 | 20 | |
| 6 | 小坂大日広場 | 右清水道 | 40 | 16 | 18 | |
| 7 | 旧下大池伝承館前 | 標ニ向テ　右ハ竹田区ヲ経テ波多方面ニ通ズ<br>左ハ当区ヲ経テ清水寺ニ至ル | 70 | 85 | 42 | 昭和７年　上大池清和会<br>上大池より移転 |
| 8 | 上竹田原村辻 | 右松もと　左はた道 | 55 | 30 | 20 | |
| 9 | 上竹田御判形辻 | (裏)右きそすわ　左まつもと<br>(表)道祖ロ | 41 | 42 | 10 | 道祖神の裏面に刻んである<br>施主　竹田村 |
| 10 | 上竹田下本郷辻 | 右大つま　左はしば道 | 54 | 23 | 15 | |
| 11 | 下竹田公会堂広場 | 右まつもと　左大つま道 | 59 | 25 | 9 | 下竹田南中より移転 |

| | 所在地 | 碑面 | 高 | 幅 | 厚 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 下竹田公会堂広場 | 右せば志うじり道 左まつもと | 41 | 30 | 10 | 公会堂へ移転 |
| 13 | 下竹田美野里路傍 | 之より左水沢道 | 100 | 24 | 30 | 施主 竹田村 |
| 14 | 下竹田石観音路傍 | 右はしば 左やま道 馬頭尊 | 105 | 75 | 25 | |
| 15 | 下竹田石観音路傍 | 右はたはしば 左やまみち<br>大日如来 | 83 | 37 | 34 | |
| 16 | 上竹田唐沢下路傍 | 右今井みち 左和田みち<br>馬頭観世音 | 72 | 40 | 40 | |
| 17 | 下竹田上手村辻 | 右せば志うじり 左むら道<br>左はたはしば | 60 | 25 | 20 | |
| 18 | 下大池下村田畔 | 右わだ 左はた 南こみいまい<br>大日如来 | 40 | 35 | 20 | |
| 19 | 上大池清水寺<br>古道辻 | 左きよみづ(左を指差した図柄)<br>千手観音 | 90 | 35 | 20 | 施主 大池兄弟館 |
| 20 | 上大池清水寺<br>古道辻 | 右みよみづ(右を指差した図<br>柄) 千手観音 | 60 | 30 | 15 | 施主 大池兄弟館 |
| 21 | 上大池横手ヶ崎村境 | 標ニ向テ 右ハ朝日村経テ塩尻駅ニ通ズ<br>左ハ上今井ヲ経テ塩尻ニ通ズ<br>後ハ和田島立ヲ経テ松本市ニ通ズ | 78 | 40 | 28 | 昭和７年 上大池清和会 |
| 22 | 上大池陣屋道路傍 | 標ニ向テ 右ハ今井村ニ至ル<br>前ハ竹田区ヲ経テ波多方面ニ通ズ<br>後ハ朝日村ニ至ル<br>左ハ当区ヲ経テ清水寺ニ至ル | 90 | 54 | 24 | 昭和７年 上大池清和会 |
| 23 | 上大池陣屋道路傍 | 標ニ向テ 右ハ今井村ヲ経テ村井駅ニ至ル<br>左ハ神林村水代ニ至ル | 65 | 30 | 22 | 昭和７年 上大池清和会 |
| 24 | 上竹田旧農協店舗前 | 右ハシバ 左山ミチ<br>大日如来 | 49 | 40 | 24 | |

下竹田上手村の道標

「右せば志うじり」

下竹田上手村の道標

「左はたはしば」

○道路元標

道標とは内容が異なりますが、道路の起終点を示す標識として道路元標があります。山形村では村の中心で主要な道路が交わる箇所(小学校グラウンド脇のポケットパーク南の角)に、道路元標が設置されています。

道路元標は大正期に設置されたもので、大きさは、縦横 25cm、高さ 63cm で頂部が弧を描くように丸く削られた形状をしています。

山形村の道路元標　（幅 25 ㎝ 奥行 25cm 高さ 63cm）

## 5　記念碑

記念碑は、ある出来事や人物の功績を後世まで永久に記念として残すために建てられた碑のことです。英語でモニュメントと言います。

記念碑は大きく三つに分けられます。

ア　特定の人の記念のために作られたもの。
　　世の中に大きな功績を残した人を讃えた碑が大半です。

イ　歴史上の出来事を祈念して作られたもの。
　　事件や行事、災害、史跡や戦争の記録などおおくあります。

ウ　埋葬地に作られた墓碑や墓標も含まれます。

村内で現在確認されたものだけでも 70 余りの碑があります。

また、山形小学校の中や周辺だけでもたくさんの碑があります。

① 二宮金次郎(尊徳)像　②なかよし像(山小開校百年)

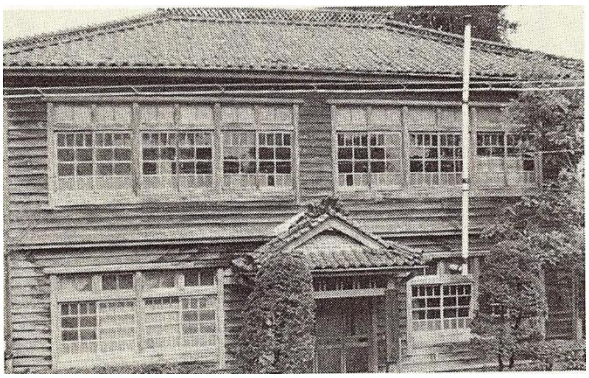
② 卒業記念碑(山小の位置)　④校歌碑　⑤卒業記念碑(学校のあゆみ)

**⑥山形村図書館跡碑(旧青年会館)**　⑦山形村の道祖神碑

⑧火の見やぐらの跡。

※山形小学校グラウンド前のポケットパークにも三つの碑があります。

他にも中信平土地改良区事業竣工記念碑、消防団員殉職碑、黒川堰通水百年記念碑、清水寺梵鐘碑、開道記念碑、軍馬記念碑、筆塚や犬塚など変わったものもあります。これらの碑は、歴史的にも意味を持って建てられたものです。



山形村旧図書館(旧青年会館)

（1）小坂六部塚の筆塚

**小坂六部塚に筆塚がある「市川月静」**は、本名が市川喜太郎、天保 3(1832)年壬辰に小坂に生まれました。下竹田の 14 歳年上の鈴木松月とは、地元で学び師弟関係。江戸に出て鍛冶橋狩野屋敷に入り、精励 10 余年、狩野派画家の奥義を極めました。

明治維新の動乱で故郷に戻り、数々の作品を残しています。辰年生れからか、雲龍を得意としました。特に、大町市の霊松寺の本堂外陣の天井絵は 5 間(約 9m)×20 間(36m)の大作で、「鳴き龍」と呼ばれます。また、塩尻市の西福寺の杉戸に描かれた牡丹、唐獅子等 35 面、欄間の花鳥等 14 面、本堂天井に描かれた白澤図などは名作とされます。月静は、晩年に松本へ居を移し、ほどなく明治 26(1893)年、62 歳で没しました。

小坂六部塚にある月静の筆塚

大町市霊松寺本堂外陣の天井絵

（2）清水鐘楼碑

この碑は、鐘楼完成 8 年後、江戸時代の享保 20(1735)年 7 月に建てられました。施主名は、下総の浄円・順回・山城(京)新平衛、また旅宿施主・大池村上條貞五郎他 3 名。清水寺へ来た 3 名が鋳造の話しを聞き、遺跡を記念するために建てたと思われます。中興の祖・禅心はこの年に亡くなっています。 **碑は、付近(中大池権現原)の「飯の山」と呼ばれ**

**た小高い丘の上にありましたが、圃場整備のため現在地へ移されました。丘の名は「鋳り(いり)の山」から転じたとされています。**

鐘楼は、本堂や山門建造の翌年の享保 12(1727)年7 月 23 日、入仏つき初めをしました。梵鐘は、5 月松本飯田町の鍋屋伝右衛門(鋳物師)によって鋳られたものです。現在の梵鐘は、昭和 28 (1953)年、香取秀真(文化勲章受章)・正彦(人間国宝)父子によって再鋳。本堂前「梵鐘再鋳碑」は京都清水寺の大西貫主の字です。

（3）酒屋跡(下大池)

**下大池公民館の場所に千坪を超える面積だった酒屋跡「銘酒松泉」の碑があります。**寄附者は、酒屋 9 代目の大池弥三郎・豊平成 3 (1991)年 5 月建立。江戸中期(宝暦10(1760)年)から昭和中頃まで酒造業。創業からの銘柄は「竹葉泉」で、時は不明だが「松泉」に改めました。ここの居宅の一角(25 坪半(約 84 ㎡))は、明治 7(1874)年 10 月 22 日山形村発足の時、最初の村役場が借家で置かれた場所です。(大池小平宅)山形村の酒造業と役場発祥の地となります。なお、松本お役所から竹田村(宝暦 13(1763)年)と小坂村(明和 5(1768)年)から新たに酒造業を始めたい者があるが、同業者として差し障りがないか問い合わせがあり、「差し障りがない」と答えた古文書が残ります。

下大池公民館の場所にある酒屋跡の碑

### (4) 消防団員殉難の碑

昭和 20(1945)年 10 月初旬の集中豪雨によって、三間沢川源流の堂ケ入沢が決壊し、その濁流に飲み込まれて、2 名の上大池消防団員が殉職しました。両名の殉職の碑が、丸山地籍の清水古道入り口に近い遭難現場に建てられています。

1945 年 10 月 4 日から 9 日にかけて、集中豪雨が続き、各地の河川が増水・氾濫し、広範囲に被害をもたらしました。特に三間沢川の支流である堂ケ入沢での被害が甚大でした。

9 日、丸山地籍で堤防が決壊し、濁流が上大池豆沢方面へ流れ込み、浸水被害を引き起こしました。この災害は、立木が沢をせき止めてダムのようになったことが原因でした。

上大池消防団が出動し、防災活動に当たりましたが、中村憲次さんと中川光さんの二人の団員が濁流に巻き込まれ、不幸にも命を落としました。二人の殉職を悼み、遭難現場である丸山地区に慰霊碑が建立されています。

現在も山形村の消防団出初め式では、二人に黙祷を捧げ、このような悲劇を繰り返さないよう、安全な村づくりを誓っています。

「殉職の碑」は、小坂区大日堂から清水寺へ向かう林道を約 1 キロメートル進んだところ、堂ケ入沢脇の指差し道標の手前に建てられています。

この土砂災害を教訓に、平成 9(1997)年には災害現場の上流部に堂ケ入砂防ダムが建設され防災対策が強化されました。

消防団員殉職碑

6　神社・仏閣

村内の神社・仏閣の位置を示します。

## (1) 宗福寺

宗福寺は、上大池の七つの堂宇を一緒にしたといいます。人々の暮らしには死と隣り合わせの厳しい現実があり、神仏を拝む姿がありました。

大池山獅子林宗福寺は曹洞宗の寺院で、1685 年に 7 つの寺堂を合わせて一寺とし、長興寺の隠居寺として慧運天祐和尚が開山したと記録されています。

本尊の阿弥陀如来は「和田新井村の上條善右衛門老母寄進」と記されています。開山当初の詳細は不明ですが、十王像には寛永 12(1635)年「大立山宗福寺」と刻まれています。また、本堂の手前左側に安置されている阿弥陀如来は、廃仏毀釈により廃された阿弥陀堂（桜堂）から移されたものです。

第 4 世住職の角翁恵端は、洞月上人と称し、江戸時代の紀行家である菅江真澄と交遊があったとされています。

明治時代になり、宗福寺と阿弥陀堂は、明治 6(1873)年に大池学校の仮校舎として使用されました。

現在の庫裏は明治 15(1882)年第 10 世一亥察天の時代に建てられ、昭和・平成にかけて少しずつ修理・増築が行われました。本堂は大正 11(1922)年第 11 世大椿量湖の時に建てられ、山門は第 13 世戒学徳潤の時に建立されました。

境内には、平成 14(2002)年に第二次世界大戦中の世田谷区奥沢小学校から疎開して寺で生活した有志によって建てられた集団疎開記念碑があります。

また、推定樹齢 300 年以上とされるコウヤマキの巨木があり、村の天然記念物となっています。

宗福寺

## （2）大日堂

天正年中(1573～1592 年)の開基。極楽寺と称しました。

大正時代に記された沿革記には、大日堂の起源は天正年間(1573～1592)にさかのぼります。当初は極楽寺と呼ばれ、その後、日光寺と改称して住職もいましたが、強風による大規模な損傷を受け、元禄 3(1690)年の検地の際に村の村持ち(共有財産)となりました。

**堂の再建が困難な中、本尊の大日如来像が盗まれ、豊科真々部の千念寺に安置されるという事態が発生しました。**しかし、宝永 2(1705)年に宝積寺の住職らの尽力により、無事に取り戻すことができました。

この出来事を機に、お堂が再建されました。享保 14(1729)年には大日寺と改称され、光輪寺の末寺から宝積寺持ちとなり、時代とともに「大日堂」と呼ばれるようになり、現在は小坂区が管理を行っています。

大日堂

## （３）宝積寺

宝積寺は、山号を佛国山といい、曹洞宗の寺で洗馬長興寺の末寺です。

創建年は不詳ですが、藤沢頼親(箕輪福与城主)と小笠原貞慶(深志城主)を開基とされていて、天正 10(1582) 年の両者の安堵状や位牌が現存します。

江戸時代の古文書には、かつて「清水寺」と呼ばれていた時期があったと記されていたり、旧東筑摩郡誌には、「創立不詳天平 11 年箕輪次郎頼親が中興し、法借寺と称せり。慶安 2(1649)年 9 月、再建され今の寺号に改む」と記されていたりします。

本尊は阿弥陀如来立像で、木造で玉眼入りとなっています。

全身に漆箔(しっぱく)が施され、白毫(びゃくごう)には水晶が使用されています。像高は 77.3cm あり、眼から頬へかけての線や衣文の表現が美しく仕上げられています。作風は快慶様ですが、製作時期は戦国時代末期の天文年間(1532～1554)頃と推定されています。

近代に入ると、宝積寺は明治 26(1893)年の小坂の大火で焼失してしまいました。幸いにも本尊は焼失を免れましたが、長期間にわたり庫裏の一室に仮安置されることとなりました。その後、昭和 18(1943)年になってようやく現在の本堂が建立され、本尊はここに安置されて現在に至っています。

宝積寺

## （4） 見性寺

昔から住民に親しまれた梵鐘は太平洋戦争中に供出され、いまだ復元できていませんが、本堂は近年改築され美しい姿に生まれ変わりました。

見性寺は、清水寺同様、坂上田村麻呂に関わる古い伝承を持つ浄土宗のお寺です。見性寺の前身は「明清寺」と呼ばれ、現在地より西にある山寺にありました。その後、殿村地籍に移り「見性院」と改められましたが、火災ですべてを焼失しました。天正 7(1529)年に源智和尚によって再建され、「無生山往生院見性寺」と称されました。

享保 13(1728)年、寺には「つき鐘」が必要と、夏小麦と秋大豆を檀家に割賦して資金を集め、梵鐘を造りました。以来、毎日朝夕に時を告げ、村民に親しまれてきましたが、太平洋戦争中に清水寺の鐘と共に供出され、現在は鐘楼のみが残されています。

寺には、ご本尊の阿弥陀如来とその脇侍の観音及び勢至菩薩が安置されています。また、寺の東には鎮守の八幡宮、裏には天白社があります。

見性寺

## (5) 薬王寺

かつて在った浄土宗のお寺。

神木山村上院薬王寺は、上竹田にある見性寺の末寺で、浄土宗の寺院です。

江戸時代初期の寛永年間に来誉上人によって開山されとされ、本尊は薬師如来像です。「村上院」と呼ばれるように、かつては村上氏の菩提寺だったと考えられます。

明治初めの廃仏毀釈により一時廃寺となりますが、明治 24（1891）年に再建されましたが、その後寺は無住寺となり、老朽化が進んだため令和 3（2021）年に解体されました。

薬師三尊像、逗子、および寺宝の「黒本尊」（仏画の掛け軸）は、見性寺に移されて安置されています。

文政元（1818）年には龍淵和尚が寺子屋を開き、村の子どもたちの教育を始めました。明治初期には「下竹田学校」として使用され、明治 10（1877）年に上竹田学校（見性寺）と統合され「竹田学校」となった後も、この寺で授業が行われていました。

ここに薬王寺の本堂があったが令和 3 年に解体された

## （6）清水寺

慈眼山清水寺（じげんざんきよみずでら）は、標高 1200m の山形村清水高原にある真言密教の祈願寺で、檀家はありません。

伝説によると、清水寺は 729 年に行基によって創建されたとされ、行基自身が千手観音菩薩像を彫刻し、安置したと言われています。その後、延暦年間（782～806）に征夷大将軍・坂上田村麻呂がこの寺で蝦夷（えみし）征伐の祈願を行い、祈願が成就したため、感謝の意を込めて観音像を京都に移し、東山に清水寺を建立したとされています。

清水寺は、真言密教の祈願寺のため檀家がなく、村の「総持ち寺」として機能してきましたが、山奥にあるため維持が困難で、しばしば荒廃の危機に直面しました。これを救ったのが、宝永 6(1709)年に堂主となった禅心と、宝暦 4(1754)年に住職となった光賢で、現在の清水寺の姿はこの頃に形作られたと言われています。現在は、山形村の顔として貴重な文化財を保存するため、「清水寺保存会」が村民の協力を得て維持管理を行っています。

本尊は江戸時代初期の作とされる木造千手千眼観音菩薩像で、本堂内陣の厨子内に安置されています。この像は、京都清水寺の像と同じ様式で、全国でも数体しかない貴重なものです。通常は非公開ですが、毎年の八十八夜例祭で開帳されます。厨子前の前立観音も同じく清水様式の千手観世音菩薩像です。

また、**太平洋戦争時に金属供出で消失した梵鐘は、昭和 28(1953)年に鋳金界の第一人者である香取秀真・正彦父子により再鋳されました。**さらに、昭和 21(1946)年に当時の京都清水寺貫主（かんす）・大西良慶師に山形村清水寺の杉浦真澄さんが嫁ぎ、寺との縁が深まり交流が続いています。

＜見どころ＞

石造の仁王尊、格調高い百体観音、六地蔵、圓通門（山門）をくぐると、行基桜の古木がある境内へ入ります。北側の小高い丘の上に建つ鐘楼には、有名な香取秀真・正彦父子製作の梵鐘があります。南側の丘には、お地蔵さまに守られた五千枚を超えるお位牌が壁に貼られた般若堂があります。本堂南側には桑の大木もあり、**本堂**

**内には、清水様式と呼ばれる一双の手を頭上で組む千手観音の本尊様と前立観音、**室町時代の古い大日如来、釈迦三尊、びんずる尊者像などが拝観できます。

清水寺

## （7） 大池諏訪神社

大池諏訪神社は上大池にありますが、上大池と中大池の人々を守る神様として遠い昔から信仰を集め大切にされています。

大池諏訪神社には、諏訪大明神、若宮大明神、春日大明神の三柱（みはしら）の神様が祀られています。この神社の創建時期は詳しくわかっていませんが、最古の記録は正保 2（1645）年にさかのぼります。

それより前は中大池の南端にある古宮にありましたが、ある年に疫病(伝染病)が流行し多くの人が亡くなりました。その原因は、神聖な神社が川下にあり、住民が使った水でお供え物をしていたため、神様が怒ったとされています。このため、寛永 14（1637）年に現在の場所に移されたという説もありますが、真偽は不明です。

神社のお祭りは、毎年 10 月の第 1 週の土・日曜日に賑（にぎ）やかに行われます。上大池と中大池の両地区にはそれぞれ舞殿（ぶでん）があり、1 年ごとに交代で曳（ひ）かれます。昔は 2 台一緒に出ていましたが、競い合いの末に大喧嘩が起こり、それ以来別々になったそうです。

夏の終わりが近づく頃から笛や太鼓、浦安の舞の練習が始まります。初めはうまくできず大変ですが、本番では立派に演じます。

昭和 34(1959)年に引かれた村営水道よりも早く、昭和 4（1929）年に地元の人々によって作られた丸山簡易水道の跡も残っています。

大池諏訪神社

## （８） 小坂諏訪神社

人々は豊かな実りを祈るため自然をあがめ神として祀り社を建てました。
山形村に在る四社のうち二社が諏訪社で、その一つが小坂諏訪神社です。

本殿は総檜造り(そうひのきづくり)の立派な建築ですが、次のような因縁話(いんねんばなし)が伝えられています。

当時、諏訪社のご神木とされていた欅(けやき)の大木を伐採することが決まりました。しかし、伐採の際に人夫が墜落死し、木の根元から冬眠中の無数の蛇がはい出してきました。その後、まもなく大火などの異変が起こりました。この大木をしばらく放置した後、神の怒りを鎮めるためにこの欅を使って本殿を造営したと言われています。

それ以来、小坂区では毎年 3 月 17 日に神前で神の怒りを鎮め、神のご加護を祈念する祭典を欠かさず行い、現在に至っています。」

小坂諏訪神社

## (9) 下大池八幡社

下大池八幡社は、下大池地区の守り神で、集落を見渡す西山沿いにあります。毎年4月28・29日に祭典が行われ、家々の繁栄と豊作を願う地区の人々の心の拠り所になっています。

最も古い棟札には延宝4(1676)年と記されていますが、本殿は安永7(1778)年の建立で、現在の拝殿は昭和11(1936)年に新築されたものです。

神楽殿（舞宮）は昭和41(1966)年に造営されました。

祭神は誉田別命（ほむたわけのみこと）、息長足姫命（おきながたらしひめのみこと）、玉依姫命（たまよりひめのみこと）の三つの神が祀られています。

古い記録では、6月に祭典が行われていましたが、現在は4月28日に宵祭（よいまつ）り、29日に本祭りが行われています。昭和30年代には農家が馬を飼っていたため、御神馬（ごしんば）が出され、神社の境内を回ったとされていますが、現在は子ども神輿が地区内を回り、神社の境内を3回まわって、各家や地区の繁栄と安全を祈っています。

下大池八幡社

## (10)　竹田建部神社

長野県下にある建部神社は、塩尻市広丘吉田建部社と当山形村竹田の建部神社の二社のみの貴重な神社です。

建部神社は、上・下竹田両地区の氏神様です。祭神は素戔嗚尊（すさのうのみこと）と大己貴命（おおなむちのみこと）の二つの神が祀られています。

伝承によると、大同年間(806～809)に坂上田村麻呂が東征の途中、島々谷の賊徒や中房八面大王を退治するため、竹田山宮沢に牛頭天王を祀りました。自ら作った「唐猫様」と呼ばれる駒狛一対を神前に供え、祈誓しながら軍略を練ったといわれています。

その後、安和 2(969)年に宮沢の祠を奥社とし、里宮を殿村の東に建立し、宝永元(1704)年に現在地へ移されました。

本殿と拝殿は宝永年間(1704～1710)に造営され、舞宮は明和年間(1764～1771)に造営されたものを天保４(1833)年に改築したものです。

なお、「唐猫様」は神社の宝物として大切に保管されていて、干ばつの際には、この唐猫様を櫃（ひつ）に入れ青葉に包んで宮沢まで担ぎ上げ、氏子一同が奥社に参詣して雨ごい祈願をする習わしがあります。

5 月中旬には水神様の祭典が行われています。以前は 6 月 27・28 日に宵祭（よいまつ）りと本祭りが行われていましたが、農繁期と重なるため、現在は 9 月下旬の土・日曜日に行われています。かつては青年相撲が奉納されていましたが、現在は子ども神輿が奉納されています。

竹田建部神社

(11)御嶽神社

木曽御嶽山をご神体とする山岳信仰です。山形村にはたくさんの御嶽権現の碑や供養塔等があることから信者が多かったと思われます。

木曽御嶽山を信仰する山岳信仰に基づき、行者が一般の人と御嶽山の信仰登山をすることで関東一円に広まったが、その過程で各地に講中や御嶽神社ができたり、御嶽講供養塔が建立されました。また、村内には 27 基もの御嶽権現の碑があることから、当時はたくさんの信者がいたと思われます。

「特別養護老人ホームピアやまがた」の裏山に御嶽神社があります。唐沢下集会所の真向いの登り口からすぐの所にある鳥居をくぐって 10 分位登った所に古い社殿があります。以前あった社務所は廃されて空き地になっています。すぐ南隣には霊神碑等約 21 本もの石仏群が見られます。

文化 3(1806)年「御嶽山大権現」が竹田城へ上る途中に安置されました。

幕末には村内にも石碑が建ち、竹田村には御嶽講ができました。大正 10(1921)年に神殿を建てて「唐澤山神社」と称しました。社務所も建てられましたが、今は残る 21 基の霊神碑等が盛況ぶりを物語っています。昭和前期頃までは、4 月 17・18 日に祭りを催行。桃太郎旗や幟(のぼり)が立ち、行者は火渡りも行い、村中に響かせ太鼓をたたいていました。また、村民の地鎮祭に行き、更に雨ごい、病気平癒の祈祷もしてくれました。

御嶽神社

## ７　山形村ゆかりの人々

「村誌やまがた」には、次のように書かれています。

『山形小学校校歌の第三節は「清水寺のむかしより　山形村の子どもらが　そだちそだちて　すぐれたる　われらが先輩　かぎりなし」とある。そしてその限りない多くの先輩の中から特に優れた先輩として、中村太八郎、永田兵太郎、村瀬茂三郎、永田八郎、唐沢俊樹、大池真の名をあげている。以上の人たちはみんな明治期の卒業生なので、更に大正期の卒業生から誰か優れた先輩を拾うとすれば、それは唯物論哲学者として、日本の思想史の上に不朽の功績を残した永田廣志をまずあげねばならない。』

### （１）　中村太八郎(1868～1935)

普通選挙法成立のために日本初の実現運動に取り組み、約 30 年の長きにわたり、普通選挙法成立まで常に先頭に立ち活動し、「普選の父」と呼ばれた郷土の偉人です。

中村太八郎は、明治元(1868)年 2 月 20 日に大池村(現山形村上大池)の代々名主を務める豪農の長男として生まれました。若いころから、理不尽な社会に義憤を感じていた彼は、貧者、弱者、労働者、小作人や婦人の生活向上のために力を尽くそうと決意し、普通選挙と土地国有の理想実現のために生涯を捧げた人物として知られています。

明治 30(1898)年 7 月、木下尚江(松本市出身)らと松本に「普通選挙紀成同盟会」を立ち上げ、普通選挙実現運動に取り組み、**大正 14(1925)年 5 月 5 日に太八郎の念願であった普通選挙法が公布されました。「25 歳以上のすべての男子が、衆議院議員の選挙権をもつ」という普通選挙法として実を結びました。**

昭和 10(1935)年 10 月 17 日、68 歳の生涯を終えました。

太八郎の顕彰碑には木下尚江の歌が刻まれています。

「秋晴れの高き空にも似たりける君を思ふて涙こぼるる」

1925 年 5 月 5 日、東京上野の精養軒の広い庭は、その日公布された「普通選挙法」を祝う大祝賀会に参加する 5 千人近い人で埋めつくされていた。

尾崎行雄、犬養毅といったそうそうたる人々も壇上に駆けつけ、この大祝賀会を盛り上げていた。

大祝賀会の委員長が「諸君、今日の日をどんなに待ったか、これからが本当の舞台だ」と演説すると、会場に集まった人々は感激のあまり、拍手が鳴りやまぬ状況であった。

そんな中、一人「今回の普通選挙法はまだまだ不完全だが、こんなお祭りのような大騒ぎになってきたのだから、少しずつ政治は変わっていくだろう。普通選挙を訴えてここまでこぎつくまでに 28 年、気がつけば、私も 58 歳だ。ずい分時間がかかったが、もう私が先頭に立ってやらなくてもよいだろう」と、会場では目立たぬようにこの大祝賀会を見守っている人物がいた。

そのひとこそ、後に「普通選挙の父」と呼ばれる山形村出身の「中村太八郎」であった。この大祝賀会では、表に出てこなかった中村太八郎ではあったが、翌日 5 月 6 日の報知新聞の夕刊は、「普選の恩人をわすれるなかれ」と題し、「30 年の久しきに亘り、終始一貫、献身的努力をささげた中村太八郎の功労を閑却してはならぬ」と報じている。

郷土山形村の偉人

中村太八郎　普通選挙運動にかけた生涯　小山茂喜　著(5～7 ページ)

清水高原にある中村太八郎顕彰碑

ポケットパークにある中村太八郎生誕の碑

## （２） 永田兵太郎(1853～1934)

一代で財をなし、郷土山形村の学校環境整備のために運動場、農業実習地、学校林となる土地や山林を寄附した人物。

嘉永 6(1853)年小坂の地主の二男として生まれました。独特の経済観をもつ永田は、一代にして巨万の富を築き、信州善光寺の仁王門寄進※をはじめ、多くの寄附行為を行います。

山形村のためにも、小学校運動場、農業実習地及び山林、役場庁舎、文庫附属物一式と石橋 20 有余ケ所架設などをはじめ多くの寄附を行いました。今も小学校の「学校林」として管理している山林も永田の寄附によるものです。

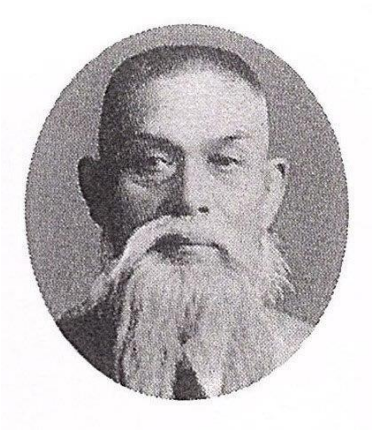
小坂区鷹の窪の「鷹の窪自然公園」は、昭和 62 (1987)年に村に寄贈された「兵太郎公園」を、周囲の景観や土地利用を考えて村が整備したものです。

※明治 24 (1891)年、**大火で焼失した善光寺の仁王門は、大正 3 (1914)年 1 月、永田兵太郎の再建浄財寄附の申し出により同年 11 月 5 日に起工式を行い、大正 7 (1918)年 3 月 30 日落成式が行われました。**仁王門落成式に先立って除幕式が行われた仁王門寄附者永田兵太郎の銅像は、善光寺山門東脇にありましたが、太平洋戦争中の金属回収に供出され、その後石積みの台座もなくなってしまいました。しかし、仁王門再建百年に当たり、永田兵太郎の顕彰碑(高さ 180cm、幅約 40cm、奥行き約 20cm の黒御影石)が令和 2(2020)年 9 月に仁王門の脇に建てられました。

永田兵太郎

## （３） 村瀬茂三郎(1868～1953)

信州普通選挙同盟会の幹部で、山形村の政治に尽力した人。



村瀬茂三郎

村瀬茂三郎は、明治元(1868)年 12 月茂平の長男として生まれました。彼は同年の親友中村太八郎と共に、信州普通選挙同盟会の幹部として活躍したほか、郡会議員、県会議員に当選、郡会では革新派の頭領として同志を統率、県会では僅か 30 歳の若さで副議長の要職についています。

また、村にあっては収入役、村長(2 期)、村会議員(3 期)などを歴任しました。昭和 28(1953)年 1 月、85 歳で没しました。

## （４） 永田廣志(1905～1947 年)

山形村出身の優れた思想家・唯物論哲学の開拓者

永田廣志は、明治 37 (1905)年 4 月 1 日に小坂の永田八郎の次男として生まれました。東京外国語専門学校(現東京外国語大学)のロシア語科で勉学に励みました。卒業後、ロシア語通訳として勤務しました。昭和 2(1927)年からは、唯物論哲学の翻訳紹介をし、日本哲学史の研究も始めて唯物論史観の立場からたくさんの著作を出版しました。近代日本の構築に大きな足跡を残した人々の伝記を収録した「近代を築いたひとびと」(坂本令太郎)の中に「唯物論哲学の開拓者」として収録されています。

永田廣志

## （５） 永田八郎(1877～1946)

**産業組合運動の先覚者**

松本ハイランド農協山形支所の構内には、永田八郎の頌徳碑があります。裏面に永田八郎の略歴や碑文が刻まれています。

永田八郎翁は、明治 10(1877)年 6 月 4 日元東筑摩郡宗賀村小林吉夫の二男に生れ、23 歳の春永田久吉家の養子として山形村の住人となる。

翁の公生活は明治 33(1900)年、村役場書記拝命が第一歩で、収入役を経て、大正 8(1919)年村長に推される。早くより農村疲弊の深刻化を憂え、大正 2(1913)年同志と計り、小坂信用購買組合を創立、同 13(1924)年、大池信用購買組合と合併して、山形農業協同組合の前身たる山形信用販売購買利用組合を設立、推されて組合長となり、農村経済の安定向上に精励した。

かくて翁は漸次、長野県産業組合運動の先覚者として頭角を現わし、県購連副会長として、とくに組合未設置村の解消につとめ、蚕糸業の振興に尽瘁(じんすい)した。温厚玉の如き人となりは、よく人心を糾合して数々の業績をうちたて、産業組合功労章の受賞に輝いている。

昭和 18 年、時恰かも世界大戦嵐のさ中、翁は山形村農業会長の任にあったが、再び村長の重責を担って立った。しかし戦時下、至難の行政と、食糧増産推進の激務は、遂に翁の健康を奪い、昭和 21(1946)年 4 月 26 日、70 歳をもって長逝された。想えば、翁は公職にあること実に 40 有 7 年、至誠無私、全生涯を村造りに捧げつくした。

わが山形農業協同組合が、組合員 1 千余を擁し、農村経済向上の拠点として逞しく成長したのは、いつに先駆者たる翁の高い識見と旺盛な実践力による。

ここに農協創立 15 周年を迎え、記念として碑を捧げ、翁の遺徳を頌えるものである。

昭和 38 年 5 月 8 日

山形農業協同組合

永田八郎

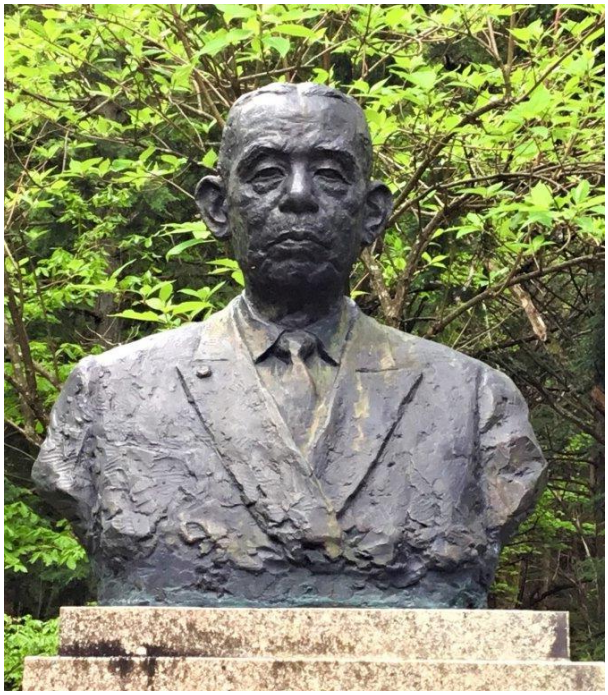
（６） 唐沢俊樹(1891～1967 年)

山形村から開村以来初の大臣。

明治 24(1891)年 2 月 10 日生れ、山形小学校から松本中学、仙台二高、東京帝国大学法学部へと進み何れも首席で通した秀才で、大学卒業後直ちに内務省に勤めました。昭和 11(1936)年警保局長のとき 2.26 事件が起こり、その責を負って官界を退きましたが、阿部内閣が成立すると法制局長官に迎えられ再び官界に復帰、東條内閣では内務次官となり、その間貴族院議員に勅選されました。こうした経歴のため終戦と共に公職追放となり、日本体育協会副会長、大映スターズ会長、大映顧問など民間の業務に携わっていました。

昭和 27(1952)年平和条約が成立し、日本が独立すると推されて政界に進出し、昭和 30(1955)年 2 月衆議院議員に初当選、昭和 32(1957)年 6 月には早くも岸内閣の法務大臣に就任、山形村から開村以来初めての大臣が生まれました。

昭和 42(1967)年 3 月 14 日没

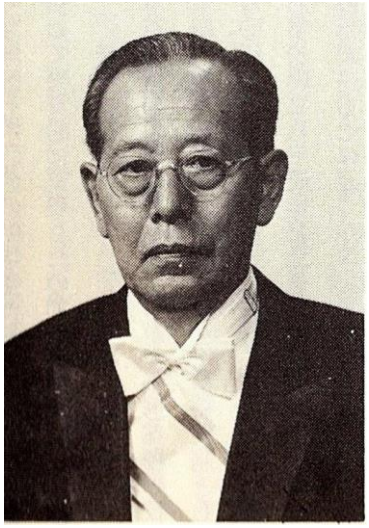


清水寺境内にある胸像

## （7） 大池　真

明治 29 （1896)年 1 月 5 日下大池の生れ。山形小学校から松本中学、仙台二高を経て東京帝国大学法学部へと進みました。大正 11(1922)年大学を出ると農商務省に勤め翌大正 12 年の暮には早くも八幡製鉄所の副参事となりました。

大正 14(1925)年 4 月には衆議院の書記官となりましたが、以来実に 30 年余りを衆議院の仕事一筋に終始したところに氏の真骨頂があります。即ち昭和 20(1945)年に衆議院書記官長となり、昭和 22(1947)年には事務総長となりましたが、昭和 30(1955)年 11 月辞任するまで衆議院生抜きの名事務総長として多くの功績を残しました。



大池　眞

## 8　文化財

文化財は、先人たちが守り受け継いできた地域の宝です。山形村にある有形・無形の文化財のうち、特に重要なものを指定し、重点的に保護をしています。村内には、計 27 件の山形村指定文化財があります。

### 指定文化財一覧

山形村指定文化財　(22 番・26 番指定解除により欠番)

| No | 種別 | 名称（ふりがな） | 員数 | 指定年月日 | 時代 | 所在地 | 所有者・管理者 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 有形<br>建造物 | 清水寺本堂（きよみずでらほんどう） | 1 棟 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 江戸時代<br>享保 11(1726)年 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 寺院建築<br>3×5間　妻入り |
| 2 | 有形<br>建造物 | 清水寺山門（きよみずでらさんもん） | 1 棟 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 江戸時代<br>享保 11(1726)年 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 寺院建築 |
| 3 | 有形<br>建造物 | 清水寺鐘 楼（きよみずでらしょうろう） | 1 棟 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 江戸時代<br>享保 12(1727)年 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 寺院建築<br>宝形造　袴腰 |
| 4 | 有形<br>彫刻 | 清水寺（きよみずでら）<br>三 重 塔（さんじゅうのとう） | 1 基 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 江戸時代<br>享保 15(1730)年 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 石造 |
| 5 | 有形<br>彫刻 | 清水寺唐塔（きよみずでらとうとう） | 1 基 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 時代不詳 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 石造 |
| 6 | 有形<br>彫刻 | 清水寺本尊（きよみずでらほんぞん） | 1 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 江戸時代中期 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造千手観世音菩薩像　清水様式千手観世音 |
| 7 | 有形<br>彫刻 | 清水寺普賢菩薩（きよみずでらふげんぼさつ） | 1 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 時代不詳 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造 |
| 8 | 有形<br>彫刻 | 清水寺文殊菩薩（きよみずでらもんじゅぼさつ） | 1 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 時代不詳 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造 |
| 9 | 有形<br>彫刻 | 清水寺 聖 観音（きよみずでらしょうかんのん） | 2 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 時代不詳 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造 |
| 10 | 有形<br>彫刻 | 清水寺仁王尊（きよみずでらにおうそん） | 2 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 時代不詳 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 石造 |
| 11 | 有形<br>彫刻 | 清水寺前立本尊像（きよみずでらまえだちほんぞんぞう） | 1 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 江戸時代中期 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造千手観世音菩薩像　清水様式千手観世音 |
| 12 | 有形<br>彫刻 | 清水寺大日如来像（きよみずでらだいにちにょらいぞう） | 1 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 室町時代 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造 |
| 13 | 有形<br>彫刻 | 清水寺地蔵菩薩像（きよみずでらじぞうぼさつぞう） | 1 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 江戸時代 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造 |
| 14 | 有形<br>彫刻 | 清水寺釈迦如来（きよみずでらしゃかにょらい） | 1 躯 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 時代不詳 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 木造 |
| 15 | 有形<br>典籍類 | 清水寺経 典（きよみずでらきょうてん） | 600 巻 | 昭和 42 年 7 月 27 日 | 時代不詳 | 山形村 7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | 大般若経 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 有形<br>考古資料 | 殿村 古墳 出土<br>墨書土器 「 錦<br>服部」 | 1点 | 平成13年3月29日 | 奈良時代 | 山形村教育委員会 | 山形村教育委員会 | 須恵器杯 |
| 17 | 有形<br>考古資料 | 淀の内遺跡出土<br>ひすい製大珠 | 3点 | 平成13年3月29日 | 縄文時代中期 | 山形村教育委員会 | 山形村教育委員会 | |
| 18 | 有形<br>民俗 | 舞殿 | 1基 | 昭和51年3月24日 | 江戸時代<br>天保13(1842)年 | 上大池区 | 上大池区 | |
| 19 | 無形<br>民俗 | 祭 ばやし | | 昭和51年3月24日 | | 上大池区 | 上大池区<br>祭ばやし保存会 | |
| 20 | 史跡 | 竹田穴観音古墳 | 1基 | 昭和60年4月12日 | 奈良時代 | 山形村7277-イ<br>山形村7278-ハ | 無生山見性寺 | 横穴式石室をもつ古墳 |
| 21 | 天然記念物 | 池ノ戸カタクリ<br>群生地 | | 昭和60年5月16日 | | 山形村下竹田<br>池ノ戸地籍 | 個人 | |
| 23 | 天然記念物 | 枝垂桜 | 1本 | 昭和42年7月27日 | | 山形村7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | |
| 24 | 天然記念物 | アララギ | 1本 | 昭和42年7月27日 | | 山形村7764-1<br>慈眼山清水寺 | 山形村清水寺保存会 | |
| 25 | 天然記念物 | 宗福寺のコウヤマキ | 1本 | 平成4年3月17日 | | 山形村7894<br>大池山宗福寺 | 大池山宗福寺 | |
| 27 | 天然記念物 | 小坂諏訪社のケヤキ | 1本 | 平成4年3月17日 | | 山形村3389<br>小坂諏訪社 | 小坂諏訪社 | |
| 28 | 天然記念物 | 旧酒屋のカヤ | 1本 | 平成4年3月17日 | | 山形村3510-1 | 山形村 | |
| 29 | 天然記念物 | 建部社のサワラ | 1本 | 平成4年3月17日 | | 山形村5093<br>建部社 | 建部社 | |

【コラム】

① 山形村の遺跡

山形村には、40箇所ほどの遺跡がありますが、その多くは縄文時代のものです。平成30(2018)年には、山形村の遺跡から発掘された5つの縄文土器(釣手土器3点・抽象絵画土器・有孔鍔付土器)が長野県「県宝」に指定されました。山形村の代表的な3つの縄文遺跡を紹介します。

ア　三夜塚遺跡は下竹田にあり、遺跡の中に”お三夜さま”(二十三夜塔)があり、これを「三夜塚」と呼んだことから地名や遺跡の名前のもとになりました。松本平でも大きな遺跡と言われ、釣手付深鉢形土器などたくさんの土器が見つかっています。

イ　殿村遺跡は上竹田にある遺跡で、縄文時代中期の住居跡がたくさん見つかり、大きな集落を形成していた跡がうかがえ、ダイナミックな飾りのある大型土器や女性像と思われる土偶も発掘されました。

ウ　淀の内遺跡は上大池にある遺跡で、数回の発掘調査で縄文前期・中期・後

期にわたって縄文人が幾つかの竪穴式住居を作り、集落生活をしていたことが分かっています。また、近年の発掘調査において、**この遺跡からは、翡翠(ひすい)製のペンダントが、また隣接した洞遺跡からは滑石(かっせき)製の管玉(くだたま)が発見され話題になりました。**

翡翠製のペンダント

【コラム】

② 穴観音

昔、子どもたちが山の斜面を滑って遊んでいて、この穴を発見したとのことです。その石室から金でできた１寸８分(約 6cm 位)の観音様が出てきたので、それをお祭りして「穴観音様」と呼ぶようになったと伝えられています。

この穴は、いまから 1300 年位前の古墳時代に造られた古墳だと考えられます。この古墳は、直径 18m、高さ 2.5m の円墳で、石室は長さ 3.3m、幅 1.4m、高さは天井石まで 1.7m あり、村の史跡に指定されています。

**付近一帯は、明治初期に建造された百体観音(明治時代、百体観音を建立する計画に取り組みましたが、石工が博打で金を使い果たし、69 体刻んだだけで逃げ出してしまいました)**や、木曽義仲伝承のある馬頭観音など多くの石仏があります。

穴観音古墳のすぐ裏の斜面に美しい宝篋印塔(ほうきょういんとう)が一基あります。文化 4(1807)年の銘があります。明治の初めころ「廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)」で波田の若沢寺(信濃日光といわれた寺)が廃寺となった時、境内の稲荷神社と共に竹田の人たちによってこの地に移築し破壊を免れました。田村堂と共に大伽藍の最上段に安置されていた由緒ある貴重な塔です。

穴観音古墳

穴観音の百体観音(69 体ある)

穴観音宝篋印塔

【コラム】

③ 郷倉、高札

郷倉は、江戸時代の村に設けられた公的な倉庫で、年貢米を上納するまで貯蔵したり、また凶作に備えて穀類を保存した倉庫です。山形村では、文化 2(1805)年に竹田村に初めて建てられ、大池村には天保 14(1843)年に建造されました。明治時代には、まだ村内に六つの郷倉が残されていましたが、昭和になって中大池の上手東の道端に一棟残っているだけでした。その後解体前のふるさと伝承館の裏手に移築保存されています。内部はすっかり改装されており昔の様子はわかりません。土蔵造りの郷倉もありますが、山形村に保存されている郷倉は板張りです。山形村は、松本の城下から離れており、年貢米を一時保管する必要があったのではないか、また凶作に備えるため、籾、あわ、ひえを村民から集め、非常用として保管、村民の救済にそなえたのではないかと思われます。

郷倉中大池

塩尻市史跡の高札場

高札(こうさつ)は、禁令や法令などを板札に墨書し、庶民に周知するように掲示したもので、古代からあったとされていますが、江戸時代に全盛を迎えます。各村には高札場といわれる所ができて、重要な条目触書が掲示されました。「御判形」といわれる所は、その昔高札場があった所ですが、明治 5(1872)年まで大池村には 3 か所、小坂村と竹田村には各 2 か所の高札場がありました。高札場には柵を結って近寄ることができないようにし、柵の中にはぐり石を敷き詰め、きれいにこしらえていました。

【コラム】

④ 学童疎開

上大池・宗福寺の境内には、昭和 20（1945)年、第二次世界大戦末期に集団生活を余儀なくされた、東京・世田谷区奥沢国民学校の学童仲間 47 名の「学童集団疎開碑」があります。太平洋戦争末期、連合軍による本土空襲の難を逃れるために、都会の初等科 3 年生～6 年生の学童は、地方への集団疎開を余儀なくされました。

**子どもたちは、宝積寺と宗福寺を宿舎にして、山形国民学校(山形小学校の前身)へ通学しながら、勤労奉仕や家庭勤労で銃後の生活を支えたと言います。**

宗福寺にある学童疎開の碑

【コラム】

⑤ 満蒙開拓と山形村

昭和 11（1936)年から本格化した旧満州国(今の中国東北部)への「満州開拓」を抜きにして、長野県の現代史は語れないと言われます。長野県は、37,800 人を送り出すという日本一の移民送出県であり、犠牲も　また日本一でした。特に下伊那・飯田地区の人々の犠牲は甚大でした。不況のどん底から、農村更生の一環として、「王道楽土」を夢見て渡満した人々。青少年義勇軍という名で荒野の守りにつき開拓にも携わった青少年たち。そして敗戦末期のソ連軍参戦と逃避行。帰国後の再開拓の苦悩。他方で現地の中国の人々にとっては、半強制的に農地を奪われるという、「被害」と「加害」の両面を持つ重たい現代史。「村誌やまがた」には、昭和 15（1940)年から昭和 19（1944)年の「山形村義勇隊 17 人　帰国数 10 人　死亡及び未帰還数 7 人」と記されています。

【コラム】

⑥ 小坂の大火

**明治 26(1893)年 3 月 17 日、当時の小坂村の建築現場のたきびが、折からの強風にあおられて、大きな火事になってしまいました。**その日は、強い南風が吹き荒れていて、火の粉が何百メートルにもわたって飛び散り、地区のお寺の本堂にも燃え

移ってしまいました。その火は、突然つむじ風に乗って火柱のごとく空に舞い上がり、大きな火の塊となって四方に飛び散りました。その火は、お寺の廻りの上北沖、堂村、清水まで飛んで、北へ北へと燃え広がり、お宮を越えて、遠く八幡様、下大池方面へまで燃え広がりました。そして、風向きが東に変わると、火の手は、田んぼを飛び越え、殿村があっという間に燃えてしまいました。

手伝いに駆けつけた近隣の住民も加わって、手桶やひしゃくを持って消火にあたる人、焼け出された人たちや病人・けが人を介抱する人、衣類や布団を持ち出す人などの努力もむなしく、この大火によって、111 戸が焼失してしまいました。焼け跡だらけの中、人々は寒い夜を過ごしました。

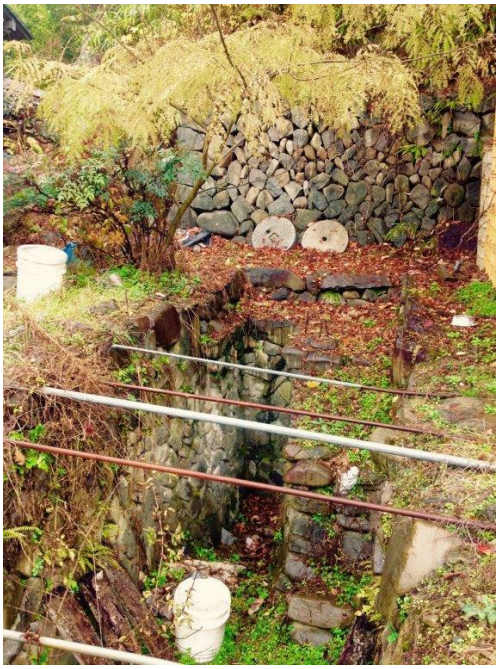
その後、焼け出され、住むところもなくしてしまった小坂の人々の失意や不安を癒し、小坂の復興を誓い合うために、火災発生の日にお宮に集まり、「火事祭り」なる儀式を始めたと言われています。そして、小坂地区では、現在でも毎年 3 月 17 日前後に「火事祭り」が行われています。「災害を憎んでも、人を憎まず。」皆が途方に暮れ、悲しみにうちひしがれている時にしなければならなかったことは、人を責めることでも、ののしり合うことでもなく、互いのすさぶ心を慰め、助け合い励まし合って、前に進むことだと気づいた「小坂の人々の英知」に学びたいものです。

【コラム】

⑦ 唐沢の水車

唐沢地区には、江戸時代に「水車屋」が数軒ありました。農業の傍ら、唐沢川の水を利用して水車を回し、精米やそば粉などの製粉業を営んでいました。特徴的なのは、2～3 戸で一つの水車を共同利用していたことです。この地区には、文政 11（1828）年に「車屋」と刻まれた馬頭観音があり、200 年以上前から水車屋が存在していたことがわかります。

大正 15（1925)年には、唐沢川水系に 13 か所の水車があり、19 戸の水車屋が営業していました。水車屋まで水を引くための水路を作り、その流れを利用して水車を回し、再び川へ戻す水路が必要でした。これは当時としては大規模な土木工事でした。水車の直径は 4 メートル以上あり、小屋の横に引いた水路の上に設置されていました。水車は屋根で覆われていたため、外観からはほとんど見えない構造でした。水車の心棒を小屋の中に引き込み、杵を上げ下げして米や穀類を突いたり、木製の歯車を使って縦の回転を横に変えて石臼を回し、製粉していました。



唐沢の水車跡

唐沢の水車のイメージを表現した絵

電力による精米所ができると水車は古くなり、特殊技能を持つ職人も減少しました。昭和 38 年(1963)には唐沢で水車を回す家はなくなりました。水車で曳きたてのそばは格別に美味しいと評判で、明治 23 (1890) 年に最初のそば店が誕生して以来、次々に「手打ちそば屋」が開業し、現在でも「唐沢そば集落」として県内外から多くのそばファンが訪れています。

【コラム】

⑧ 水道の歴史

水資源に乏しい山形村にとって、飲用水の確保は、最重要な課題の一つでした。**丸山簡易水道は、昭和 4(1929)年に上大池と小坂の 73 戸で設立、翌年に上大池雨越え地籍の湧水を水源に通水した水道施設で貴重な歴史遺産です。**これは、昭和 34(1959)年に竣工となった村営水道に先立つもので、昭和 45(1970)年に村営水道に統合されるまで使われ、配水池跡にその記念碑が建っています。また、竹田方面は地下水も低いため、唐沢川が唯一の飲料水として利用されてきましたが、公衆衛生の重要性が理解されるに従い、明治 20 年ころに竹田地区を中心にして井戸水新設の要望が高まり、井戸や泉が掘られました。

**昭和 29(1954)年から足かけ 6 年、昭和 34 年 11 月、唐沢川水源として全村水道竣工となりました。その際、水利の都合上から弁天池も拡充されました。**その後、

村の発展とともに 5 次にわたって奈良井ダムを水源とする松塩水道用水から受水するなどの事業を拡大し現在に至っています。

【コラム】

⑨ 山形小学校の学校給食のあゆみ

「パン、鯨肉カツレツ、ミルク（脱脂粉乳使用）、酢の物、バター」これは昭和 32（1957）年 5 月 9 日の山形小学校の給食の献立です。「コッペパン、脱脂粉乳、鯨肉」に代表される昭和 30 年代の学校給食の献立には、団塊世代の貧しくも懐かしい少年時代の生活が凝縮されています。「山形学校史」によれば、20 年後の昭和 61（1986）年には、「ご飯、牛乳、みそ汁、蒸し鶏のごまだれ、ほうれん草のアーモンド和え」といった献立が提供され、主食もおかずも年々多彩になっていったとのことです。

人はパンのみに生きるわけではありませんが、食べることは健康で文化的な生活を送るための最低限の条件です。昭和 29（1954）年に公布された学校給食法の背景には、戦後の飢えという現実がありました。GHQ の占領政策の一環として、給食法は貧困対策として重要な役割を果たしました。藤原辰史は『給食の歴史』（岩波新書）で、「給食はその誕生からずっと貧困対策であり、防貧対策だった。経済成長期以降、飢えは無くなったから給食を合理化せよという意見が強かったが、そのときも含めて給食はずっと家で満足に食べられない子の唯一のまともな食事であり続けた」と述べています。私たちは、昨今のコロナ禍での臨時休校や長期休みなどの際に、学校給食のありがたさを改めて実感しています。

山形村の「安全な学校給食を守る会」は、関東農政局から「令和 3 年度地産地消等優良活動表彰」を受けました。35 年間にわたり、山形小学校や鉢盛中学校、山形保育園に給食がある日は毎日、地元の低農薬野菜を届けてきました。山形村の地産地消の自校給食は、多くの人々の支えによって維持されています。

また、地産地消をはじめ食育を進めてきた山形小学校の学校給食の取組みが評価され、学校給食優良学校として令和 6 年度学校給食表彰（文部科学大臣表彰）を受賞しました。

## ９　山形村の自然

### （１）　地形・気候

山形村は、長野県のほぼ中央部松本盆地の南西 12km、鉢盛山(2446.6m)の支脈を背景に山麓ぞいに位置し、広大な平地をもって東西に広がっています。北東部は松本市、南部は朝日村と接し、**面積は 24.98 ㎢です。**本村は、長野県内の村の中で最も面積が小さく、さらに、その約半分が山林であるため可住地が集約されており、その中に公共施設や商業施設が集中していることから非常にコンパクトで住みやすい地域であると言えます。

気候は、寒暖の差が大きい内陸性気候であり、年間降水量は比較的少なくなっています。

### （２）　植物

#### ①　山形村の天然記念物

山形村の天然記念物として、池ノ戸のカタクリ群生地(1985 年)と、樹木では、清水寺境内の枝垂桜(推定樹齢 150 年)とアララギ(樹齢不明)、宗福寺のコウヤマキ(推定樹齢 350 年)、小坂諏訪社のケヤキ(推定樹齢 250 年)、下大池の旧酒屋のカヤ(推定樹齢 130 年)、建部社のサワラ(推定樹齢 300 年)があります。

以前は、さわら清水座禅草群落、中大池の地蔵様のアカマツ(推定樹齢 400 年)も指定されていましたが、地形の変化や枯死のため解除されています

村の天然記念物(樹木)　【Y ふるさとレンジャー隊リーフレット・令和 3 年 3 月発行】

| 番号 | 種　　類 | 説　　明 |
|---|---|---|
| ① | 枝垂桜（しだれざくら） | 標高 1200m という高さに位置する清水寺の本堂前庭にある枝垂桜。この地に寺を創建したと伝承される釋行基という僧侶の名前に由来して「行基桜」とも呼ばれ、人々に親しまれています。毎年春にピンクの可愛らしい花を咲かせ、参拝者の目を楽しませてくれる桜です。<br>■推定樹齢：150 年<br>■幹の太さ(地上から 1.3m 部分計測)：3m10cm<br>■全長：約 13.5m |

| | | |
|---|---|---|
| ② | アララギ | 枝垂桜と同じく清水寺の境内にあるアララギ。仁王門から山門へと延びる参道の左手にあります。アララギは、イチイの別名で、庭木や垣根として利用されるなど身近な樹木のひとつです。<br>■推定樹齢：不明<br>■幹の太さ(地上から 1.3m 部分計測)：2m74cm<br>■全長：約 27m |
| ③ | 宗福寺のコウヤマキ | 宗福寺の境内にあるコウヤマキ。推定樹齢 350 年以上の巨木で、見る者を圧倒する迫力満点の樹木です。<br>■推定樹齢：350 年<br>■幹の太さ(地上から 1.3m 部分計測)：4m20cm<br>■全長：約 18m |
| ④ | 小坂諏訪社のケヤキ | 小坂諏訪神社のケヤキ。小坂諏訪神社の本殿は、総欅造(そうけやきづく)りといってケヤキのみを使って造られています。<br>■推定樹齢：250 年<br>■幹の太さ(地上から 1.3m 部分計測)：7m50cm<br>■全長：約 44m |
| ⑤ | 旧酒屋のカヤ | かつて下大池地区にあった造り酒屋の跡地にそびえるカヤ。庭木として植えられていたものではないかとされています。葉は触るとすこしチクチクとしていて、秋には緑色の丸い実をつけます。実は柑橘系のさわやかな香りが特徴で、油を搾(しぼ)ったり食べたりすることもできるそう。<br>■推定樹齢：130 年<br>■幹の太さ(地上から 1.3m 部分計測)：2m50cm<br>■全長：約 17m |
| ⑥ | 建部社のサワラ | 建部神社のサワラ。現在はふさがれていますが、太い幹の根元には大きな穴が開いていて、かつては子どもたちが潜り込んで遊んだこともあったそうです。サワラは葉の裏にチョウのような白い模様があることと、葉の先が少し尖っているところが特徴です。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ■推定樹齢：350 年<br>■幹の太さ(地上から 1.3m 部分計測)：4m20cm<br>■全長：約 18m |

村の天然記念物（樹木）実景

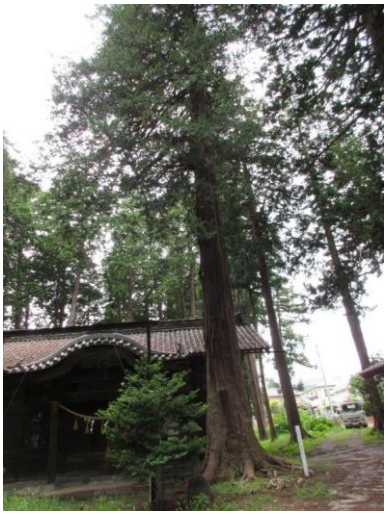
①清水寺の枝垂れ桜（行基

②清水寺のアララギ

③宗福寺のコウヤマキ

④小坂諏訪社のケヤキ

⑤旧酒屋のカヤ



⑥建部社のサワラ

②身近にあったが数が少なくなった植物

・ササユリ(ユリ科)

＜絶滅危惧種・NT(長野県)　　長野県指定希少野生樹物指定種＞

本州中部以西、四国、九州に分布する多年草で、長野県では絶滅危惧種に指定されています。草丈 50～100cm ほどで、6～7 月に淡い桃色の芳香のある花を咲かせます。山形村では 30 年くらい前まで普通に見られましたが、開発や園芸用の採取により、現在では希少となっています。

ササユリ

・シナノタンポポ(エゾタンポポ・キク科)

本州中部以北に分布する在来種のタンポポです。黄色い花の下部総包片が反り返らず幅広いのが特徴で、これにより外来種のセイヨウタンポポと区別できます。近年、セイヨウタンポポの増加に伴い、シナノタンポポの数が減少しています。

シナノタンポポ

・ノアザミ(キク科)

本州、四国、九州に分布する多年草で、草丈 60～100cm ほどです。鋭いトゲのある葉と、紅紫色の粘る総包片を持つ花が特徴です。山形村では 1960 年代のほ場整備以前には普通に見られましたが、現在では山裾やため池の土手など限られた場所にわずかに残るのみとなっています。

ノアザミ

・フジグロセンノウ(ナデシコ科)

本州から九州に分布する多年草で、草丈 50～80cm ほどです。朱赤色の 5 弁花と、紫黒色を帯びた茎の節が特徴的です。

山形村では古くから盆の供え花として親しまれてきましたが、最近では湿気の多い場所を好むこの植物の数が減少しています。

フジグロセンノウ

・ノハナショウブ(アヤメ科)

日本全土に分布する多年草で、草丈 40～80cm ほどです。赤紫色の花の中心に黄色の逆三角形の模様があるのが特徴です。かつては山形村の各所に見られましたが、現在ではため池の土手などにわずかに残るのみとなっています。

・アヤメ(アヤメ科)

日本全土に分布する多年草で、草丈 30～60cm ほどです。紫色の花の外花被片に特徴的な模様があります。1960 年代までは山形村の山裾や田畑の土手に普通に見られましたが、現在では野生種はごくわずかな場所でしか見られなくなっています。

・ヒメシャガ(アヤメ科)＜絶滅危惧Ⅱ類　VU(長野県)＞

北海道西南部から九州北部に分布する多年草で、**長野県では絶滅危惧Ⅱ類に指定**

**されています。草丈 15～30cm ほどで、5 月下旬から 6 月に薄紫色の小さな花を咲かせます。**山形村では道路拡張などにより自生地が減少し、現在では一部で保護・移植されています。

ヒメシャガ

（３） 動物

① 哺乳類

・ニホンツキノワグマ(くま科)

かつては人目につくことが稀だったクマですが、近年は集落への出没が増加しています。秋には山の実を求めて人里近くまで来ることがあります。不作の年には、空腹を満たすために人里に出てきて、果物や農作物、養蜂箱などを荒らすことがあります。

山形小学校にあるニホンツキノワグマのはく製

・ホンドタヌキ(いぬ科)

足の短い雑食性の動物で、水辺の森林や人里近くに生息します。夜行性ですが、日暮れ時に活動を始めるため、昔は目撃例も多かったようです。俗にムジナと呼ばれ、様々な伝説の対象となっていましたが、現在では数が減少しています。

---

・ホンドキツネ(いぬ科)

畑を一直線に走る姿を時々見かけます。森林内のネズミやノウサギなどを捕食します。人家の近くに生息する習性があるため、目撃される機会も多くなっています。

ホンドキツネ

---

・ニホンリス(リス科)

昔はキネズミと呼ばれることが多かったですが、現在はリスの呼称が一般的です。木の幹を走り回ったり、太い尾を上げて留まる姿は人々に愛されていましたが、近年では数が大幅に減少しています。

ニホンリス

・ホンシュウモモンガ(リス科)・ニッコウムササビ

モモンガはムササビの子どものような小さな体格です。両者とも夜行性で、昼間は樹洞などで過ごし、夕暮れから活動を始めます。肢間の皮膜を使って空中を滑走する能力で知られています。社寺の大木が多い森などに生息し、夜間には特徴的な鳴き声を上げて活動します。

ホンシュウモモンガ

・ホンドイタチ(いたち科)

平地や低山地の水辺に生息し、魚やカエル、ヘビ、小鳥などを食べます。昔は鶏小屋を襲って一晩で多くの鶏を殺してしまうこともありましたが、現在では目にする機会が減少しています。

・トウホクノウサギ(うさぎ科)

一般に野兎として知られています。植林した若木を食い荒らす害獣として認識され、かつてはウサギ狩りも行われていました。

・ホンドハタネズミ(ねずみ科)

畑や原野に生息し、馬鈴薯などのイモ類やニンジンなどの農作物に被害を与えます。

・ホンドハツカネズミ(ねずみ科)

屋内に生息する小型のネズミです。穀物倉庫では水を飲まずに生活でき、繁殖力も強いため、大きな被害をもたらすことがあります。

（4） 昆虫

・ツマグロヒョウモン(タテハチョウ科)

ツマグロヒョウモンは、元々南方系の蝶で、本州中部以南に分布しています。山形村では 2000 年頃から見られるようになり、現在では庭先でも普通に観察できます。これは地球温暖化の影響と考えられています。

特徴：オス…翅の表面がヒョウ柄

メス…前翅の外側半分が黒色で、中心に白斑がある

生態：山形村では年 2～3 回羽化

**幼虫の食草：スミレ類、パンジー、ビオラなど**

成虫：日中、低い場所をゆっくりと飛び様々な花を訪れる

ツマグロヒョウモン

・ヤマトシジミ(シジミチョウ科)

ヤマトシジミは本州以南に分布し、山形村では道端や庭先でよく見かけることができます。

特徴：オス…翅の表面は紫青色で、外縁に細い黒帯

メス…黒色部が広く、季節により紫青色の範囲が変化

識別：同じ場所に生息するツバメシジミとは、後翅の尾状突起の有無で区別可能

生態：**幼虫の食草…カタバミ（カタバミ科）**、幼虫の特徴的な食痕：葉の裏　側だけを薄く削り取る

ヤマトシジミ

・オオムラサキ(タテハチョウ科)

オオムラサキは日本の国蝶で、その美しさから切手にもなっています。北海道から九州まで分布していますが、山形村では近年、観察例が非常に少なくなっています。

特徴：大型のタテハチョウ、
オス…翅の表面の基半部が青紫色に輝く、
メス…基半部の青紫色がない、
共通…中央部に白斑、外縁付近に黄白斑

生態：好物…樹液（特にクヌギ）・水たまり、
**食樹…エノキ、エゾエノキ（ニレ科）**、幼虫で越冬し、7～8 月に成虫になる

オオムラサキ

---

・スミナガシ（タテハチョウ科）

スミナガシは本州以南に分布する中型のタテハチョウで、翅に墨を流したような模様が特徴的です。山形村では以前は時々見られましたが、近年は減少傾向にあります。

特徴：翅の表面…青緑色の光沢、白色の斑紋、青斑、目立つ赤いロ吻

生態：**好物…樹液（特にクヌギ）**
食樹…アワブキ、ミヤマハハソ（アワブキ科）

幼虫の特徴：特殊な食痕（葉の主脈を残し一部をカーテン状にぶら下げる）

スミナガシ

---

・アサギマダラ(マダラチョウ科)

**アサギマダラは長距離を移動する南方系の渡り蝶として知られています。**半透明の水色（浅葱色）の翅を持ち、優雅な飛び方が特徴的です。

生態：春（5～6 月）…山形村に飛来し産卵

食草…イケマ、キジョラン（ガガイモ科）

幼虫の特徴…若齢期に葉に丸い食痕を残す

成虫の好む花…忘れな草（春）、フジバカマ、ヨツバヒヨドリ(夏)

9 月中旬～10 月：南下移動

近年、山形村での観察数が増加傾向にあり特に山裾から清水高原にかけての山地で多く見られます。

アサギマダラ

（５） 水生昆虫

里山は、人が管理することで成り立つ自然環境で、水田をはじめとした農地やため池、水路や小川、そして、それを取り巻く木立や草地など、水辺に生きる小魚や水生昆虫、両生類などにとっては棲みやすい環境となっていますが、近年の荒廃、基盤整備や護岸工事によるＵ字溝化など、水環境の変化から里山の水辺に棲む生き物の減少は著しく、山形村も例外ではありません。

・ゲンゴロウ(ゲンゴロウ科)

ゲンゴロウは日本最大の水生甲虫で、体長は成虫で 34～42mm、幼虫で 70～85mm に達します。体は卵形で、緑がかった黒色の上翅（じょうし）に黄白色の縁取りが特徴的です。北海道から九州まで広く分布し、山形村でもよく見られます。

水田や池沼などの水辺に生息し、幼虫も成虫も水中で過ごしますが、蛹（さなぎ）になる時だけ陸に上がります。嗅覚が鋭く、水面に落ちた昆虫や死んだ魚、カエルなどを好んで食べます。

オスとメスの見分け方として、オスの上翅は滑らかで光沢がありますが、メスの上翅はしわがあり光沢がありません。

ゲンゴロウ

・ガムシ(ガムシ科)

ガムシは日本最大のガムシ類で、体長は成虫で 33～40mm、幼虫で約 70mm です。ゲンゴロウに似ていますが、上翅の外縁に黄白色の縁取りがない点が異なります。北海道から八重山諸島まで広く分布しています。

池沼や水田に生息し、**成虫は主に水草を食べます**が、死んだ魚やカエルなども食べる雑食性です。

一方、幼虫は肉食性で、主にタニシなどの巻貝を捕食しますが、小魚やアカムシも食べます。

ガムシ類は、幼虫のみが肉食性を示す珍しい特徴を持っています。これは、成虫も幼虫も肉食性のゲンゴロウ科やミズスマシ科とは異なる点です。

ガムシ

以下に記すタイコウチ科、コオイムシ科は、水生カメムシ目 約 120 種(日本)に属するもので、他にアメンボ科、ミズムシ科、マツモムシ科なども同目分類されますが、カメムシ目とは、その名のとおり臭いを出すカメムシやセミの仲間などを指し、この仲間の特徴は、餌を食べるための口が針状であること、さらに不完全変態で、さなぎの時期がなく成虫に似た体形の幼生期から 5 齢で成虫になる特性があります。

水生カメムシ目の仲間は、ほとんど肉食で、ほかの昆虫やオタマジャクシ、カエルや小魚を捕まえて針状の口を獲物に刺し、消化液で溶かして吸う特性も持っています。

---

・タイコウチ(タイコウチ科)

タイコウチは本州から沖縄まで分布し、成虫の体長は 30～38mm、幼生(幼虫)は約 25mm です。大きな鎌状の前脚が特徴的で、これを使ってオタマジャクシや他の水生昆虫を捕獲します。

池沼、水田、水路などに生息し、多くの時間を水底で過ごします。**タイコウチ科の特徴として、腹部末端に呼吸管があり、これを水面に出して呼吸します。**

---

・ミズカマキリ(タイコウチ科)

ミズカマキリは北海道から沖縄まで分布し、成虫の体長は 40～45mm、幼生（幼虫）は約 40mm です。細長い体と細い鎌状の前脚がカマキリに似ていることが名前の由来です。

タイコウチよりも深い水域を好み、学校のプールでも見られることがあります。**多くの水生カメムシが冬季に陸上で過ごすのに対し、ミズカマキリは冬も水中で過ごし、越冬後に産卵する特徴があります。**

---

・コオイムシ(コオイムシ科)

コオイムシは北海道から九州まで分布し、成虫の体長は 17～20mm、幼生（幼虫）は約 15mm です。体形はカメムシに似て、体色は茶色です。

**特筆すべき生態として、メスがオスの背中に 60～70 個の卵を産み付け、オスがふ化するまで卵を守ります。**池沼、水田、河川の淀みなどに生息しています。

---

（6） 両生類

両生類は、環境の変化に敏感で、近年特に数を減らしています。山形村でも、開発や護岸工事による環境破壊、農薬や廃液による水質・土壌汚染が深刻な影響を与えています。

両生類の特徴として皮膚呼吸があり、水に溶け込んだ有害物質を吸収しやすいため、体の機能や遺伝子に異常をきたしやすいです。また、生息地の破壊により、棲家や産卵場所を失うリスクも高くなっています。

両生類の減少は、それらを餌とする爬虫類など、食物連鎖の上位の生物にも影響を及ぼします。したがって、両生類の保護は生態系全体の健全性を維持する上で重要です。

---

・クロサンショウウオ(サンショウウオ科)

クロサンショウウオは、福井県から茨城県以北の本州と佐渡島に生息する日本固有種です。成体はほぼ黒色で、全長 12～19cm になります。幼生期には頭部後方に大きなエラがあり、薄黄色の地に無数の黒点があります。

長野県では準絶滅危惧種に指定されています。2～7 月に白いアケビ形の卵の

うを水辺に産み付けます。

山形村では唐沢川水系でのみ確認されており、貴重な生息地となっています。

クロサンショウウオ

・アカハライモリ(イモリ科)

アカハライモリは、本州、四国、九州に分布する日本固有種です。黒い背中と赤い斑紋のある腹が特徴で、全長 8～13cm になります。オスとメスで尾の形に違いがあります。

初夏と秋に繁殖し、**体内受精で** 4～7 月に水草の葉に卵を産み付けます。幼生期にはエラ呼吸をしますが、成体は主に皮膚呼吸を行います。

アカハライモリ

・アズマヒキガエル(ヒキガエル科)

アズマヒキガエルは、東日本と北海道南部に分布する日本固有種です。山形村では最大の両生類で、体長は最大 16.2cm に達します。体中にイボがあり、毒を分泌します。

2～7 月に水辺で産卵し、一度に 1500～1 万 4000 個もの卵を産みます。山形村の清水寺裏の池では、初夏に多数の個体が繁殖のために集まる様子が観察できます。

アズマヒキガエル

・ヤマアカガエル(アカガエル科)

ヤマアカガエルは、本州、四国、九州、佐渡島に分布する日本固有種です。体長 4.2～7.8cm で、赤茶色の体色に黒い斑紋があります。特に喉の大きな斑紋が特徴的です。

1～6 月に池や湿地で産卵します。昆虫やミミズ、ナメクジなどを捕食します。

ヤマアカガエル

・トノサマガエル(アカガエル科)

トノサマガエルは、本州（仙台平野から関東地方を除く)、四国、九州の平地に生息し、朝鮮半島や中国にも分布しています。かつては馴染み深い種でしたが、近年減少傾向にあります。

体長 3.8～9.4cm で、環境省の準絶滅危惧種に指定されています。**動くものに飛びつく習性が顕著です。**4～6 月に水田などでおにぎり状の卵塊を産みます。

トノサマガエル

・トウキョウダルマガエル(アカガエル科)

トウキョウダルマガエルは、仙台平野、関東平野、新潟県中部・南部、長野県北部・中部に生息する日本固有種です。トノサマガエルに似ていますが、背中の黒い斑紋が丸く散らばっている点が異なります。

体長 3.9～8.7cm で、環境省の準絶滅危惧種に指定されています。山形村では三間沢川や八幡社の池付近で見られます。

・ツチガエル(アカガエル科)

**ツチガエルは、本州、四国、九州に生息する日本固有種で、長野県では絶滅危惧 II 類に指定されています。**体長 3.7～5.3cm の中型のカエルで、体にイボが多く、灰褐色をしています。**特にアリを好んで食べます。**

山麓部に近い水辺に生息し、5～9 月に産卵します。オタマジャクシで越冬するのが特徴です。山形村では八幡神社の池付近やビオトープ「想い出探しの水辺」付近でわずかに見られます。

---

（7） 鳥類

山形村の鳥たち

山と林、歴史ある集落や広い田畑を有する山形村では、毎年 80 種以上の鳥たちが活動を見せてくれます。その姿と声が、村の四季を彩ります。

①山と里を行き来する鳥たち

1 年を通して林縁部で活動している鳥には、ヤマガラ・シジュウカラ・エナガ・コゲラ・カケス・メジロなどがいます。

**このうちヤマガラは「イチイ」の種子を食べます。種にアルカロイドという毒を含むイチイやエゴを好む特徴をもっています。**

イチイの実をとるヤマガラ

山形村の林縁部には、4 月中旬以降海を渡ってきた夏鳥たちが次々と姿を現します。さえずる声も美しいオオルリ・キビタキ・クロツグミなどが到着し、体を休め、餌をとり、それから山へと上っていきます。時には、コマドリやエゾムシクイが移動の途中で訪れていることもあります。

**5 月に堂ヶ入線をドライブすると、カーブを曲がる度、風の中にオオルリの伸びやかな声が響き、自然の中にいる喜びを感じることができます。**こうした夏鳥たちは子育てを終えると、秋には南の国へ帰っていきます。

オオルリ(オスの若鳥)

②高原の鳥たち

標高 1200m の清水高原ではヒガラ・コガラ・ゴジュウカラが通年で見られます。3 月、冬を麓で過ごしていたミソサザイが高原に移動して、いち早く澄んださえずりを響かせます。ウグイスが鳴き、木々の新芽が出るころには夏鳥が次々と登場し、それぞれ個性あるさえずりを聞かせてくれます。特に 5 月初めにやってくるコルリは、主に藪の中で生活する青い鳥で、村内では清水高原でしか見ることができません。笹藪の奥からヤマドリの大きな羽音が聞こえることもあります。

清水高原では、他にキツツキの仲間やハトの仲間、ツグミやアトリの仲間など 30 種を超える鳥たちが観察されます。

---

③下大池地区の環境と鳥

下大池地区には、幹が太く育った背の高い古い樹木が多く見られます。このような古木には樹洞が生じ、それを子育てに利用する鳥たちがやって来ます。

コムクドリという鳥は、南の島から渡ってきて樹洞で子育てをする鳥です。**下大池地区に特に多く見られ、山形小学校の枝垂れ桜や集落に残る松の古木の樹洞でいくつもの番（つがい）が確認されています。**

樹洞で子育てするコムクドリ（オス・メス）

1 本の木に樹洞ができるには長い年月が必要です。若い木が多い現代の住宅地にはない貴重な環境となっています。また、下大池地区には葦の生えた池があります。**葦の生える池では、オオヨシキリが元気いっぱいに鳴く姿が見られます。**

**かつて山形村中で見られたツバメやスズメは、近年では減少傾向にありますが、下大池地区では、今も軒先や道路を高速で飛び交うツバメの姿が健在です。**

---

④水辺の鳥

山形村には大きな川や湖沼がありませんが、池や田んぼにやってくる鳥もいます。カワセミやコガモ・カルガモ・バンなどを見ることができます。また、大きなダイサギやアオサギが高い木のてっぺんに止まり人の動きや魚たちを見下ろす姿も見られます。

⑤畑と空を広々と

**3月末ごろの畑にはヒバリのさえずりが聞こえてきます。高い上空でせわしなくさえずり続けるヒバリは、人が近くで農作業をしていてもお構いなしに子育てを続け、農家の方々も温かく見守っています。**

田畑を耕す耕運機の後ろを、モズ・ムクドリ・ハクセキレイ・セグロセキレイなどが付いてきます。また、ネズミを捕食するノスリやチョウゲンボウ、小鳥を捕食するハイタカ・オオタカといったタカの仲間たちが広い空を悠々と「帆翔(ばんしょう)」しています。

ヒバリのさえずり(写真提供：丸山隆 氏)

---

⑥ 秋のタカの渡り

9月、10月にタカの渡りが見られる松本市奈川は有名ですが、**実は山形村もタカの渡りのコースになっています。**

**北アルプス沿いを南下するサシバやハチクマ・ノスリたちは、天候によっては、なろう原上空や清水寺の近くを通過したり、山形小学校から上大池宗福寺上空へと、次々とまとまりながら通過していきます。**

上大池で見られる鷹の渡り

長い旅の無事を祈りつつ…　渡るタカを見送ります。

---

⑦ カッコウの仲間4種

ツツドリ・ジュウイチ・カッコウ・ホトトギスは托卵をする代表的な4種です。「カッコウが鳴いたら豆をまけ」と、農家の方たちは今もカッコウの訪れを農業の指標としています。この4種は毎年確認されており、この地域の豊かな生態系を示しているといえるでしょう。

カッコウ

⑧夜の森

上大池宗福寺近くの山では、毎年フクロウが鳴き、ときには幼鳥の声を聞いたり姿を見ることもあります。夜鳴く鳥はほかに、トラツグミ・ヨタカ・ホトトギスなどがいます。

フクロウの幼鳥

⑨冬鳥たち

10 月、11 月風が冷たくなり木々の葉が色づくころ、北の国から海を越えて渡ってくる鳥たちが到着します。ツグミ・カシラダカは大きな群れをつくって収穫の後の田畑や枯草の中で餌をとって過ごしています。色づいた柿の実にマミチャジナイ・ツグミ・メジロなどが食べに来ます。黄色の美しいミヤマホオジロ、赤い鳥ベニマシコも草の種を探します。シロハラは地面の木の葉をめくって餌を探します。

山に雪が降ると、高山で暮らす鳥もやってきます。カヤクグリ・イワヒバリ・ルリビタキ・ビンズイなどが山形村でも寒さをしのいでいます。

2 月から 3 月にかけては、ソメイヨシノの花芽を食べるウソもやってきます。夏鳥が来る頃、これらの鳥は北の国や高山へ戻っていきます。

⑩ 北の国に戻らなくなったジョウビタキ

**本来は冬鳥で夏にはいなくなるはずなのに、平成 28(2016)年ジョウビタキの幼鳥が上大池地区で確認されました。**

その後、上大池地区では、夏になっても北に戻らず子育てをしているジョウビタキが毎年複数観察されるようになっています。

渡りをしなくなったジョウビタキ

山形村の文化

(1)石造文化財

山形村は石造文化財の宝庫であると言われていますが、その数はおよそ 1300 基になります。平成 11(1999)年に村で調査した時に合計 1302 基となりましたが、ここで掌握されていないものもあり、実際はもう少し増えると思います。以下、平成 11 年の調査に基づき主だった種類と数を記します。

馬頭観世音 310、観世音菩薩 240、地蔵菩薩 209、名号碑 54、回国巡礼納経供養塔 40、道祖神 39、庚申塔 36、藍塔(屋形塔)36、六地蔵 34、御嶽権現 27、道標 25、二十三夜塔 21、念仏供養塔 18、蚕玉様 14、十王像 13、不動明王 10 等です。

① 道祖神

道祖神は、村境や集落の中心部などの道の辻に祀られた石碑や石像の神様です。悪病や外敵の侵入を防ぎ、子孫繁栄や安全を守ってくれる神として崇められました。

平安時代には「さいのかみ」等と呼ばれ、鎌倉時代に入り「どうそじん」と呼ばれるようになりました。山形村に現在ある道祖神は江戸時代以降のもので、最古のものは小坂山口の「山口の丸髷(まるまげ)(正徳 5(1715)年)」。**山形村には、双体道祖神が 20 体、「道祖神」と文字で刻まれた文字道祖神が 12 基、平成時代の新しい双体道祖神が 7 体、合計 39 あります。**

双体道祖神は石像が多く、男女を彫った双体像が主で、多くは高遠石工の作です。双体像には合掌や握手したもの、肩を抱き合ったもの、お酒を飲み交わすものなど様々な型のものがあり、それぞれにユニークな名前がつけられています。村の誇れる貴重な文化財となっており、現地に設置された案内板の QR コードで説明を聞くことができます。

※道祖神の由来

（やまがた村の道祖神・・・平成 29 年 10 月 31 日発行・山形村史談会）

・道祖神(どうそじん)とは

村内と村外の境界や集落の中心部などの道の辻に、主に石碑や石像の形でお祀りされている神様で、悪疫の侵入を防ぐ守り神、子孫繁栄、旅の平安や安全などの神として全国各地で信仰されています。

・道祖神の名称と歴史

奈良時代から「道祖」という語がありますが「ふなど」・「くなど」と読まれ、人名や地名の一部です。平安時代では「道祖」「道祖神」は「さいのかみ」「さへのかみ」と呼ばれていました。「どうそじん」と読まれ始めた確かな例は鎌倉時代前期(西暦 1200 年代前半)です。江戸時代前半の俳人芭蕉の『奥の細道』の序文に「道祖神」が登場し、これは「どうそじん」と読まれています。上記の「くなど」など古来からの土地の神に、中国から伝来した「道祖」の文字をあてたのが道祖神の初源でしょう。

道祖神の古い形を探ると、平安時代後期の絵巻に丸石と木製の祠が祀られている様子が描かれています。また同じころの物語では、木造で男女の形が並びまつられていたことが語られています。

現在みられる道祖神は、石像や石碑などほとんどが江戸時代以降のものです。建立の年号が刻まれた双体像で最も古いのは江戸時代前期 1600 年代のものが神奈川県や群馬県に分布します。長野県内では、確実なところとして石祠の道祖神が江戸時代の寛永年間(1624～1644 年)、双体像は元禄年間(1688～1704 年)が最古とみられます。古い時期の双体像は、合掌姿で男女の区別がつきにくく僧形に見えるもので、握手などの表現が 1700 年代以降に始まり、その後は祝言像などに多様化します。双体像の建立が多くなるのは寛政年間(1789～1801 年)以降で、文字碑もこのころから建立されるようになります。

・道祖神の形と種類

現代に残る道祖神は、主に石造りで、石像(像碑)や石碑、石祠、自然石や

加工した玉石・陰陽石などいろいろな形があり、元々は姿や形に決まったものはなかったと考えられます。石像には男女を彫った双体像が多く、まれに単体像なども見られます。双体像には多くの形があり、合掌、握手、抱肩、祝言(酒器を持つ)、抱擁、接吻など多様な姿が描写されています。石碑は「道祖神」という文字が彫り込まれた文字碑がほとんどです。

江戸時代の城下町など都市部と近郊では、木造の道祖神が屋内管理され祀られている事例もあり、男女の双体像や陽根などの木像、版木、木札が見られます。

・石造道祖神の分布

道祖神やそれに類する石像・石碑などは全国的に広がっています。その中で石像の双体道祖神は中部・関東地方の長野県・山梨県・静岡県・神奈川県に多く分布しています。長野県内は双体像と文字碑が主体で分布しますが、諏訪地方や東信には石祠型も見られます。

・山形村の道祖神

**山形村は石造文化財の宝庫として広く世に知られ、1,300体余の石造物が確認されています。特に道祖神は39体を数えます。なかでも25体余の「双体道祖神」の大半は山形村が高遠藩に属していた時代に、高遠石工の手により作られた名作が多いと言われており、村の誇りうる貴重な財産であります。**

筒井筒下大池

ア 道祖神･四良右門兼氏

**巨岩に彫られた堂々とした道祖神の中区脇に「本州高遠住石工四良右門兼氏作」と石工の名前が刻まれています。**山形村に江戸時代の双体道祖神が20体あり、美しく芸術性の高さから、多くが高遠石工の彫ったものだろうと言われています。一般的に道祖神に

石工名はありませんが、山形村で唯一、下竹田北村の道祖神に明記されています。実は、この 3 年前に造立された松本市今井上新田の小型の双体道祖神に「石工四郎右衛門兼氏」と刻まれています。同一人物でしょうが、山形村の道祖神は「衛」を省き、「良」と「郎」が違っています。松本には、この 2 を含め 7 基の双体道祖神に高遠の石工名が刻んであるだけで、貴重な道祖神です。

下竹田北村の道祖神「四良右門兼氏」

イ 道祖神盗み

**小坂山口地籍にある正徳 5 (1715)年 10 月に造られた双体道祖神「山口の丸髷」は、古見村(現在の朝日村古見)芦之窪から盗んできたものです。**山口に道祖神が無かったので寛政 7(1795)年 8 月 6 日深夜、力のある若者 2～3 人で盗み、背負い山を登って来ると、峠の峰では山口中の人々が出迎えました。

「御縁想」と石に刻まれ、後日芦之窪から山口に来て嫁入りの宴として参加し祝っているのです。道祖神を盗むことによって、その村の繁栄にあやかるという習俗があり、事前に話し合われ、盗まれる側も誇りであり喜びだったのです。

小坂山口の道祖神「山口の丸髷」

この道祖神について「双神に男女の区別がつき、その男女が握手するようになった握手像としては、わが国で 2 番目に古いもの」(武田久吉著「路傍の石仏」)とあります。更に古い時期の双体像は、合掌姿で男女の区別がつきにくく僧形に見えるもので、1700 年代以降、握手などの表現が始まり、その姿も多様化していきます。

## （2） 庚申塔（こうしんとう）

庚申塔（こうしんとう）は庚申塚とも言い、中国から伝わった道教を起源とする庚申信仰に基づいて建てられた石塔のことを言います。

十二支を組み合わせると 60 日に一度巡ってくる庚申の夜に、集落の人々や親しい仲間が集まり、飲食を楽しみながら一晩中眠らずに過ごして健康長寿を願う「庚申講」という民間信仰があります。

この習慣の背景には、以下のような信仰がありました。

**三尸（さんし）の虫：**人間の体内には 3 匹の虫が住んでいると信じられていました。

上尸（じょうし）：頭部の病気を引き起こす

中尸（ちゅうし）：内臓の病気を引き起こす

下尸（げし）：腰から下の病気を引き起こす

**庚申の夜の信仰：**人が眠ると、これらの虫が体外に出て天帝（全てを支配する神）に悪事を告げると考えられていました。

天帝は、その悪事に応じて人の寿命を縮めるとされていました。そのため、人々は一晩中起きていることで、虫を体内に閉じ込めようとしました。

**庚申講の効果：**3 年間（18 回）連続で庚申講を行うと、三尸の虫が消滅すると信じられていました。達成した際には、記念として庚申塔を建立しました。

庚申講は江戸時代初期から明治時代まで広く行われましたが、明治政府が迷信とみなし、特に街道筋の庚申塔の撤去を命じたことで、次第に衰退していきました。

**山形村の庚申塔**

山形村には 36 基の庚申塔が現存しています。代表的なものは以下の通りです。

・村最古の庚申塔：上大池公民館前の墓地内

（元禄 2 年・1689 年建立）

・朱塗りの庚申塔：下大池橋爪西の辻広場

・龍頭の庚申塔：上大池上耕地三叉路南

・中大池白衣観音広場の庚申塔

朱塗りの庚申塔：下大池橋爪西の辻広場

## （3）蚕玉様

山形村は、明治時代に養蚕が非常に盛んな村でした。その養蚕業の安寧と発展を願って巨大な蚕玉碑が多く建立されました。

【蚕玉様の意味と由来】

蚕の神様である馬鳴菩薩は、貧しい人々に衣服を与え、養蚕や機織りの技術を伝授する神として崇められています。馬鳴菩薩は、宝冠をかぶり、六本の手に養蚕に関連する道具（糸枠、糸、繭、棹秤、桑の葉など）を持ち、馬に乗って雲の上を進む姿で描かれます。ただし、山形村には馬鳴菩薩の像や石碑は存在しません。

【山形村の蚕玉様碑について】

山形村には、「蚕玉神」「蚕大神」などと刻まれた石碑が 14 基あります。これらは巨大な石に大きな文字で彫られており、その存在感は圧巻です。これらの石碑は、明治時代（1868 年～1906 年）に建立されました。この時期は、日本の製糸工業が急速に発展した時代と一致しています。

明治 13（1880）年の山形村の記録によると、当時村には製糸業者が 10 人、工女が 176 人おり、年間の繭収穫量は 435 石 2 斗（約 78 キロリットル）でした。**水田が少なかった山形村では、養蚕業が主要な産業だったと考えられます。**これらの巨大な蚕玉様の石碑の存在は、当時の人々の蚕玉様への強い信仰心と経済的繁栄を物語っています。

【祭事の変遷】

養蚕業が盛んだった昭和 20 年代（1945 年～1954 年）頃までは、蚕の食草である桑の豊かな生育、蚕の健康な成長、良質な繭の多収量を願って、地域全戸が集まり

盛大な祭りを行っていました。

養蚕業が衰退した後も、地域の主要産業である農林業の発展を願うとともに、地区住民の結束や親睦を深める目的で、この祭事は現在まで継続されています。

上竹田中村の蚕玉様碑

## （4）二十三夜塔

二十三夜塔は庚申塔と同じく民間信仰の一つで、人々が集まって月を信仰の対象として拝み、その記念として建てられた塔で、村内には 21 基確認されています。特に小坂殿の辻広場では、双体道祖神「筒井筒」と仲良く並んで祀られています。

「二十三夜」は月待ち行事の一つで、月齢でいう下弦の月の頃に行われます。この時期、月は午前 0 時頃に昇ります。「三夜待ち」とも呼ばれ、地域によっては女性が中心となって行う行事です。

二十三夜の行事では、講中（参加者のグループ）が集まり、以下のような活動を行います：共に飲食を楽しむお経を唱える月を拝む悪霊退散を願う豊作や良縁、健康を祈るこれらの行事を記念し、また供養のために建てられた碑が「二十三夜塔」です。

上竹田中耕地の二十三夜塔

この習慣は室町時代に関東地方で始まり、江戸時代から昭和初期にかけて日本各地で広く行われましたが、現在ではほとんど見られなくなりました。現代では、ススキを飾り、お団子を供えて祝う十五夜（中秋の名月）の方が一般的になっています。

## （5）秋葉碑

村内には、石碑が 4 基と宗福寺境内のお社があります。火伏せの神と言われる秋葉様は火災を恐れる人々に信仰され、集落に勧請されました。

秋葉（あきは）様は火災から守る神様として知られ、静岡県浜松市天竜区の秋葉山本宮秋葉神社に祀られています。江戸時代以降、関東・東海・北陸を中心に全国で広く信仰されるようになりました。秋葉山への参拝道は「秋葉街道」と呼ばれています。

昔の家屋は木・竹・茅など燃えやすい材料で作られていたため、人々は火災を非常に恐れていました。そのため、集落全体で秋葉様を信仰し、祭りを行うようになりました。

山形村内には、秋葉様を祀る様々な石碑や祠があります。

自然石の「秋葉大権現」：上竹田と下竹田に計３基

「秋葉大神」の石碑：上竹田に１基

「お社」：上大池と宗福寺境内にそれぞれ１つ

宗福寺では毎年５月５日と６日に秋葉様の法要とお祭りが行われ、火災予防のための「火乃用心」のお札が配布されている。

上竹田御判形の秋葉碑

(2) 建物

・山形村の民家

① 本棟造（ほんむねづく）り

江戸時代末期には、村の方々で本棟造りの建物が建てられました。この地方の特色として、**屋根に大きな雀踊（すずめおどり）があり**、住宅の土間が広く、裏口が設けられています。

② 長屋門

屋敷の入り口には供部屋付きの長屋門があり、大正・昭和時代には乳門とも呼ばれていました。これは門扉に乳型の飾金具があったためですが、戦時中の供出により現在は板戸になっています。

③ 貴重な土蔵

江戸時代、幕府は一般民家の瓦葺きを禁止していましたが、明暦 3（1657）年の明暦の大火後、防火対策として土蔵に限り瓦葺きを許可しました。これを機に、土蔵は重要な物品を保管する防火建築として江戸を中心に発展し、明治時代以降、東日本一帯に江戸風の土蔵造りが普及しました。

土蔵は、四面を土や漆喰（しっくい）で厚く塗った倉庫状の建物です。主に火災や盗難から貴重品を守る目的で使用されました。特に農村部では、自給自足に近い生活を送っていたため、収穫した穀物の保管に重宝されました。また、普段使用しない衣類、寝具、什器なども土蔵に保管され、必要に応じて取り出して使用されました。

**太平洋戦争中は、空爆を避けるため、漆喰の城壁を黒く塗り目立たないようにしました。**今でも、わずかですが黒く塗られた土蔵を見ることができます。

漆喰が黒く塗られた土蔵

④ 蚕室

明治から昭和にかけて、長野県では養蚕が農家の主要な現金収入源でした。米作よりも高収益だったため、蚕は「お蚕様」と呼ばれ尊重されました。蚕は湿気をきらい、また温度変化もきらうため、窓を多く設け通気性が良く温度管理がしやすい蚕室が建てられました。

山形村では養蚕が盛んで、春から秋にかけて年に4回（春蚕・夏蚕・秋蚕・晩秋蚕）の飼育が行われました。農家は早朝から夜中まで献身的に蚕の世話をし、その生活は蚕中心に回っていました。

(3) 祭り・行事

・祭り

①大池諏訪社

大池諏訪社の祭りは、大正4年頃までは7月の農休日に行われていましたが、現在は10月初旬に秋祭りとして実施されています。上大池と中大池には、それぞれ上大池青木沢諏訪社があり、祭りは年ごとに担当が変わります。両区には舞殿があり、祭りの際にこれを曳いて奉納します。上大池の舞殿と祭りばやしは山形村の有形民俗文化財、無形民俗文化財に指定されています。舞殿の彫刻は立派で、諏訪地方の立川流の手法で作られたと言われています。

上大池諏訪神社の祭りでは、祭りの日に神前で神楽が舞われます。これは天下泰平、悪魔払い、五穀豊穣を祈願するためのもので、舞を奉納します。

大池諏訪社祭典

② 小坂諏訪社

小坂諏訪社の祭りは、明治のころは6月、大正の中ごろからは10月に、最近は9月下旬に行われています。舞殿が出て大変賑やかに、また浦安の舞を行うようになってから、なお盛大となりました。

③ 下大池八幡社

下大池八幡社のお祭りは、明治のころは6月でしたが、今は4月に行われています。戦前は、御神馬を必ず一頭以上出していましたが、馬を飼う家もなく、昭和53年からは子ども神輿が出て、各家々を廻り祭りを盛り上げています。

八幡社の御神馬(昭和33年)：村誌

④建部神社

建部神社は、素戔嗚尊(すさのうのみこと)と大己貴命(おおなむちのみこと)を祀っている神社です。もともとは竹田山宮沢の地にありましたが、宝永元（1704）年に現在の場所に移されました。上竹田と下竹田の地域の氏神様として親しまれています。昔、この神社では毎年6月27日と28日に夏祭りが行われていましたが、大正10年頃に10月27日と28日に変更され、現在では9月に行われるようになりました。

昭和30年頃まで、この祭りでは「本郷」から4頭、「あらい」から4頭、合計8頭の馬が神殿の周りを三周する「御神馬の奉納」が行われていました。しかし、時代が進むにつれて農業の機械化が進み、農耕馬がいなくなったため、現在では子ども神輿を奉納するようになりました。

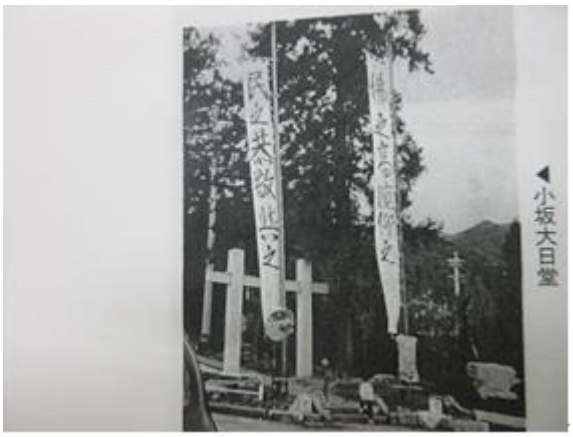
子ども神輿区内練り歩き

⑤水神社

明治 39(1906)年以前、竹田地区は唐沢より流れる唐沢川しかありませんでした。水田を多く造るために松本市(旧波田町)の黒川より水を引いてくることを計画し、水路をつくり開田事業を行い、明治 39 年に完成しました。それを祭る神社として水神社が建部神社境内に設けられました。水神社のお祭りは 5 月に行われています。

⑥小坂大日

小坂大日祭りは 4 月に行い、以前は素人芝居や相撲があり賑やかな祭りでしたが、今は区の評議員の人たちにより行われています。




⑦清水寺八十八夜例祭

八十八夜には、清水寺八十八夜例祭が行われます。現在は清水寺保存会役員により行われていますが、昔は一般参拝者が里から寺への山道に行列をつくったと言われています。

昔の農家では、桑の手入、農作物の種まき等を八十八夜を目標に進め、祭り当日は豊作祈願のため山道をのぼったといいます。

## ・年中行事

年中行事は、人々が自然への尊敬や神仏への祈りを通じて作り上げてきた伝統で、長い時間をかけて年中行事として定着し、親から子、さらに孫へと受け継がれてきました。こうした行事を通じて、人々は季節を感じ、生活を豊かにし、人と人とのつながりを深めてきました。以下に紹介する年中行事は、山形村の明治末期から大正、昭和中期までのものです。掲載されている絵は、山形村民川クラブが作成した紙芝居のもので、文章も参考にさせていただきました。

### 1月1日　元旦

元旦の朝、初音売りの「ピピー、ピピー」という音で新年の到来を感じました。父親はまだ暗いうちから神社や寺へ参拝し、母親は川で冷たい水を汲んで朝食を準備しました。家族全員が揃うと、コタツでお茶を飲みながら煮豆を食べ、健康と無病息災を祈りました。朝食には雑煮を食べ、地域によってはとろろを食べることもありました。その後、近所や親戚へ新年の挨拶に行き、子どもたちはメンコ鉛筆やみかん、飴をもらうのを楽しみにしていました。

元旦　初日の出

### 1月2日　仕事始め・書き初め

朝早くからワラを叩く槌音が聞こえ、馬のワラ沓やすげ等を作って神棚に供えました。

朝食後は草履やわらじを作るワラ仕事をしました。また、子どもたちは書き初めを行い、新年の抱負や目標を書きました。

仕事始め　書き初め

1月7日　七草

七草（せり、なずな、すずな、すずしろ、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ）を入れたお粥を食べましたが、冬には手に入らないため、干し菜や大根、ねぎ、人参等を代用しました。このお粥をふうふう吹き冷ましながら食べると、田植えの時に風が吹くと言われました。また、この日には正月の松飾りを下げ、男の子たちはそれを集めて三九郎の準備をしました。

七草粥

1月11日　鏡開き

暮れのうちにお供えした鏡餅を下げてお雑煮にし、神仏に供えました。そして、山からクヌギの木を取ってきて一尺（約30cm）くらいに切り、三箇所を縛って束を作り、梁にぶら下げました。
また、「寿宝花」や「頭穂花」と書いた短冊を門口に貼りました。

鏡開き

1月14日　若年・三九郎

新年を祝うためにお餅をつき、鏡餅を作り、柳の枝に団子を飾りました。父親は「五穀成就」や「萬物作」などと書いた紙を壁に貼りました。

夕方から男の子たちは三九郎の準備をし、歌いながら集落を回り、人々を集めました。集まった人々は団子棒を焼いて虫歯予防をしました。

若年

三九郎

1月15日　鳥追い

朝早く、子どもたちは「今日は誰の鳥追いだ、次郎太郎の鳥追だれもちょっとおいましょか、ホンガラホイ♪」という鳥追いの歌を歌いながら家の周りや辻を歩き、拍子木やバケツを叩きながら田んぼまで行きました。

鳥追い

1月16日　おせい日

おせい日

奉公人が家へ帰り休む日で、「地獄の釜の蓋も開く」と言われました。子どもたちはこの日良い子でいるように教えられました。午後には松の内飾りを集めて簡単な三九郎を作り燃やし、男の子たちは前日の三九郎の神木などを各家に配り、夕方から大将の家で盛大なお祝いしました。

1月17日　山の講

山の神様を祀り、各家々では柳や桑の枝で弓と矢を作り、山の安全を祈りました。昔の暮らしは炊事や風呂、冬の暖房などで燃料はすべて焚き木や炭だったため、山は生活に欠かせないものでした。また、庚申の日には講の皆が集まり、「南無阿弥陀仏」と唱えながら大数珠を回し、夜遅くまでお茶を飲みながら語り合いました。

大数珠まわし

1月20日　二十日正月

二十日正月

若年に作った団子を下げてお雑煮やおしるこにして食べました。女性はこの日から里へ行くことが許され、「女正月」と言われていました。また、恵比寿様にお米やお金を供えました。

2月4日　節分

豆まきの日です。明るいうちから戸口に「十二書」と書いた紙を貼り、恵比寿様の顔隠しとして白い紙を貼りました。一升マスに入れた豆を神棚に供えてから、子どもたちは「鬼は外、福は内」と言いながら豆をまきました。その後、すりこ木を持って「ごもっとも、ごもっとも」と言いながらついて回り、自分の年の数だけ豆をつかみ取りました。この豆を紙に包んでしまっておき、初めて雷が鳴った時に食べるとお腹を病まないと言われました。

節分

3月　お彼岸

春分と秋分の日を中日として前後に行われる仏教の行事です。

お中日に墓参りをし、おはぎや団子を仏前に供え、花や線香、水を持って墓を参り、先祖を敬いました。

お彼岸

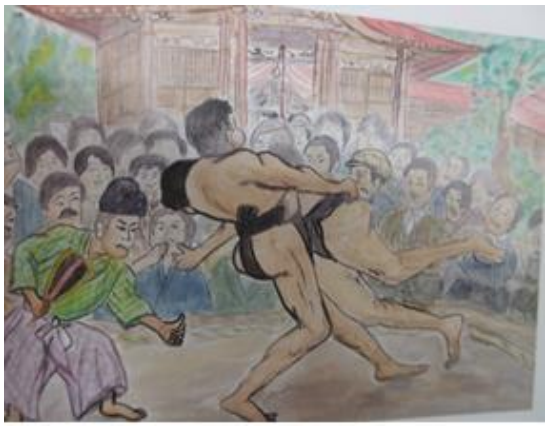
4月3日　桃の節句

桃の節句

ひと月遅れのひな祭りで、女の子にとって楽しみな行事です。お雛様を飾り、あられや甘酒、菱餅を供えました。お雛様は母の実家やはね親、お仲人さんから女の子の成長を祝って送られました。

5月2日　八十八夜

立春の日から数えて八十八日目にあたるこの日は、苗代の種まきが適した時期とされ、清水寺でのお祭りがありました。朝早くに種まきを済ませた後、清水寺へ参り、豊作を祈りました。寺への山道が行列になるほど賑わい、すもうが行われ盛況でした。



八十八夜　清水寺例祭

5月8日　花祭り

ひと月遅れのお釈迦様の誕生日を祝う行事で、寺ではお釈迦様の像を祀り、参拝者はこれに甘茶をかけて手を合わせました。子どもたちは甘茶をもらうのが楽しみで、大きな瓶を持っていきました。

花祭り

6月5日　端午の節句

男の子の節句で、鯉のぼりを空高く揚げ、のぼり旗が風にはためきました。屋根の軒先には鬼払いとして菖蒲とよもぎを挿し、菖蒲風呂に入りました。夜寝るときに菖蒲で球を縛って寝ると、丈夫で長生きすると言われました。

端午の節句

7月1日　農休み

昔の農作業はほとんど手作業で、毎日畑に出かけて大変でしたが、この日は必ず休みとし、骨休めをしました。この日にはススキの葉を束ねたチマキを作り、嫁は実家へ帰りました。チマキを染め込んだ手拭いで代用することもありました。嫁の実家からは帯やカタビラが贈られ、手拭いの初おろしをするのもこの日でした。また、田植えなどの日雇い賃金の決済もこの日に行いました。

8月7日　七夕

朝早く里芋の葉に溜まった露で墨をすり、五色の短冊に願い事を書いて竹の小枝に吊るし、庭先に飾りました。牽牛や織姫の紙人形や子どもの着物なども吊るし、縁側に机を出して字が上手になるよう祈りました。

七夕

8月13日～16日　お盆

お盆

仏様を家に迎えるためにお墓の掃除をし、迎え火を焚きました。家の仏壇には果物や団子、お酒などを供え、故人を偲びました。

お盆期間中は墓参りをし、供物を川へ流す行事も行いました。夜には若者たちが盆踊りを楽しみ、子どもたちは花火を楽しみました。

9月　お月見（中秋の名月）

秋の豊作を祈り、また感謝する行事です。すすきやお団子、果物を供え、家族で月を眺めました。夜になると枝豆を持ち寄り、家族や友人と一緒にお月見を楽しみました。枝豆を盗む風習もあり、これを防ぐために見張りをすることもありました。

お月見

11 月　十日夜（お十夜）

お寺の行事で、奉公人や農作業の手伝いに感謝するための行事です。斗枡に餅や野菜を供え、寺では檀家から集めた米で団子を作り、これを子どもたちにまきました。奉公人にはこの日、特別な食事が提供されました。

お十夜

12 月　年取り

年とり　餅つき

大晦日の行事で、新年を迎える準備をしました。家中の大掃除をし、門松やしめ縄を飾り、鏡餅を供えました。夕食には年越し蕎麦を食べ、健康と長寿を願いました。

また、正月のための料理を準備し、家族みんなで紅白歌合戦や除夜の鐘を聞きながら過ごしました。

(4)方言

**8月の夏祭り山形じゃんずらの「じゃんずら」は、この辺りの方言をうまく組み合わせた言葉です。**「映画を観に行くじゃんかい」は「映画を観に行きましょう」。「明日は雨降りずらい」は「明日は雨降りでしょうね」。

山形村周辺で使われている方言の例をあげてみます。

「あだじゃねえ(容易でない)」「えっからかんに(いい加減に)」「えんでく(歩いて行く)」「おせどにいかねえ(教えようがない)」「おてしょう(取り皿)」「ぐざられた(怒られた)」「魚をじょうる(魚をさばく)」「おつんべこ・おつくべ(正座)」「えらいけんまくで追いかけられた(すごい勢いで)」「とんでく(走って行く)」「兄貴にはっつけられた(手の平で叩かれた)」「はかいく(はかどる)」「ぶちゃる(捨てる)」「もうらしい(かわいそう)」「欲どおしい(欲深い)」「やぶせったい(うっとうしい)」「ごしたい・てきねえ(疲れた)」「あんべえ悪い(具合が悪い)」「うつかる(何かに背をつけること)」「えべや(行こう)」「おこっつぉ(御馳走)」「ささらほうさら(踏んだり蹴ったり)」「つもい(窮屈)」「でほうけ(言いたい放題)」「みぐさい(みっともない)」

(5)食文化

・四季の行事とふるさとの味

どこの村や地域にも、農産物を生かした季節に応じた料理(食)が受け継がれ、あるいは新しく考案されています。一方四季折々の中で催される行事と結びついて継承される料理(食)があります。行事は、そのいわれと共にそうした特別な食と結びつき、現在に引き継がれています。以下は、ほんの一例です。

1月

元旦にはおせち料理。豆(まめで)、栗(くり廻し良く)、柿(かき寄せて)、せんべいと饅頭(千は万になるよう)、らくがん(楽に暮らせる)など、おめでたいものを食べます。7日には、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロの七草粥。15日には、鳥追いの後、三九郎で繭玉を焼いて食べ、無病息災を祈ります。

2月

3日は節分。豆(魔目)を煎る(射る)といって大豆を煎って食べます。家の玄関に頭付きのイワシを飾ります。

3月

3 日は桃の節句(ひな祭り)です。(山形村では旧暦で行う家もあります。)女児の健やかな成長を祈ってひし餅やあられ、甘酒を食します。お雛様は片付けが遅れると結婚が遅くなると言われています。15 日には、お釈迦様の亡くなった日(涅槃会)に供養として食べるのが、うるち米から作った上新粉の餅「やしょうま」です。

4月

8日は花祭り(お釈迦様の誕生日)です。お寺では、お釈迦様の像に甘茶をかけて祈ります。

5月

2日は八十八夜(立春から数えて八十八日)です。清水寺では、八十八夜例祭が行われます。「八十八」という字を重ねると「米」という字になります。収穫まで八十八の手(農作業)が必要と言われています。5日は端午の節句です。(山形村では旧暦で行う家もあります。)男児の節句で鯉のぼりが空高く泳ぎます。菖蒲湯に入り、柏餅を作って食べます。

6月

梅雨に入り田植えが始まります。雨が降って神がいる天から水が無くなるので水無月と言われます。

7月

20日近辺が土曜丑の日です。「う」の付くもの(うなぎや牛肉など)を食べます。夏バテ予防に栄養を摂ることからです。

8月

13日は迎え盆、16日は送り盆です。胡瓜と茄子に箸の足をつけて盆棚に飾ります。御先祖様が馬に乗って早く家に帰っていただき、牛に乗ってゆっくり戻っていただく習いです。

9月

十五夜には月見団子です。お月様に餅や団子をお供えし、ススキを飾ります。

10月

十三夜は大根の年とりと言われ、餅と大根を一斗枡の中に入れ、お月様にお供えします。十五夜と対になる行事です。

11 月

15 日の七五三は女児が三歳と七歳、男児が五歳。神社に七五三詣でを行い、これまでの無事の成長のご報告、感謝と将来の健やかな成長を祈願します。千歳飴をもらいます。

12 月

大晦日(31 日)にはお年とりをします。年とり魚として出世魚のブリやサケを食べます。東日本ではサケ、西日本ではブリが多く用いられるようですが、山形村では両方の文化が混ざり合っているようです。年越しそばも食べます。

## 11　山形村の産業

### (1)農業

降水量も少なく、火山灰土壌で水利に恵まれていなかったかつての山形村は、畑作中心の農業地帯でしたが、農業用水である黒川堰が開通すると水田耕作も可能となり農業の形態は大きく変わりました。

たとえば、昭和 37 (1962)年のデータを見ると、村の 85%が農家で、そのうち約半数が専業農家で、山形村は典型的な農村でした。当時は機械化も進んでおらず、厳しい労働条件と低い生産性が特徴でした。農家は懸命に働いても、収入は少ない状況でした。

しかし、高度経済成長期に入ると、村の農業にも機械化をはじめ変化が訪れます。たとえば、畑の深いところを効率的に耕せるトレンチャーという機械が開発されると、昭和 30 年代後半から山形村の火山灰土壌を利用した長いもの生産が始まります。山形村の長いもは甘みがあって粘り気がよいとされ、昭和 43(1968)年に 1,000 トンが出荷されています。同じようにピーマンの栽培なども導入され、昭和 44(1969)年には、農家一戸あたりの粗収入が松塩筑内でトップになりました。

さらに、農地の区画整理事業が完了し、スプリンクラーによる灌漑が可能になったことで、農業の可能性が大きく広がりました。これにより、干ばつなどの自然災害のリスクが軽減され、農業経営の安定化につながりました。

現在、山形村の農業はさらに多様化しています。長いも、スイカ、リンゴ、ネギ、アスパラガス、ブルーベリーなど、多種多様な農産物が生産されています。特に長いもは、村を代表する特産品として知られています。

農家数と農業人口

| 年 | 総農家数 | 専　業農家 | 兼業農家 | | | 農家人口 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 総数 | 第１種 | 第2種 | 総数 | 男 | 女 |
| 昭和 35 | 971 | 486 | 485 | 314 | 171 | － | － | － |
| 昭和 40 | 960 | 320 | 640 | 381 | 259 | － | － | － |
| 昭和 45 | 969 | 224 | 745 | 364 | 381 | － | － | － |
| 昭和 50 | 924 | 217 | 707 | 271 | 436 | － | － | － |
| 昭和 55 | 887 | 209 | 678 | 252 | 426 | 3954 | 1953 | 2001 |
| 昭和 60 | 856 | 202 | 654 | 223 | 431 | 3909 | 1930 | 1979 |
| 平成 2 | 791 | 173 | 618 | 194 | 424 | 3626 | 1786 | 1840 |
| 平成 7 | 729 | 184 | 545 | 170 | 375 | 3217 | 1573 | 1644 |
| 平成 12 | 508 | 155 | 353 | 152 | 201 | 2955 | 1452 | 1503 |
| 平成 17 | 452 | 137 | 315 | 144 | 171 | 2008 | 988 | 1020 |
| 平成 22 | 419 | 139 | 280 | 105 | 175 | 176 | 858 | 902 |
| 平成 27 | 383 | 142 | 241 | 86 | 155 | 1481 | 735 | 746 |
| 令和 2 | 322 | － | － | － | － | 1179 | 596 | 583 |

出典：長野県統計書

(黒川堰)

**黒川堰は、波田の黒川・鐘が淵の地籍から取水し、山形村までの水路延長約 12km の堰です。**水田 169 町歩(ha)、そのうち竹田 85 町歩(ha)を灌漑することになりました。波田の有志で安政(1859)年に工事を始めたものの資金難で頓挫。**明治 11(1878)年に山形村竹田の百瀬三郎平ら 8 人が引き継いだのですが、素掘りの難工事で、生活費もどん底、茨の道の連続でした。**

たゆみなき努力で明治 26(1893)年に竹田まで細々と初通水したものの、一冬越えれば水路は土砂に埋もれ、しゅんせつ費用に悩まされてしまいます。そして、引き継ぎ以来 30 年、明治 39(1906)年に波田、竹田の開田は完成、水利組合が設置されたのです。水田が少なく「竹田の粟飯」と言われた地域の、歴史的転換となりました。

現在は、中信平総合開発事業により右岸上段幹線により梓川本流の水を導水し、黒川堰もその分水の用水路となっています。そして、黒川堰追平隧道は、国の登録有形文化財に指定されています。

大正 3 年 5 月　黒川堰通水記念

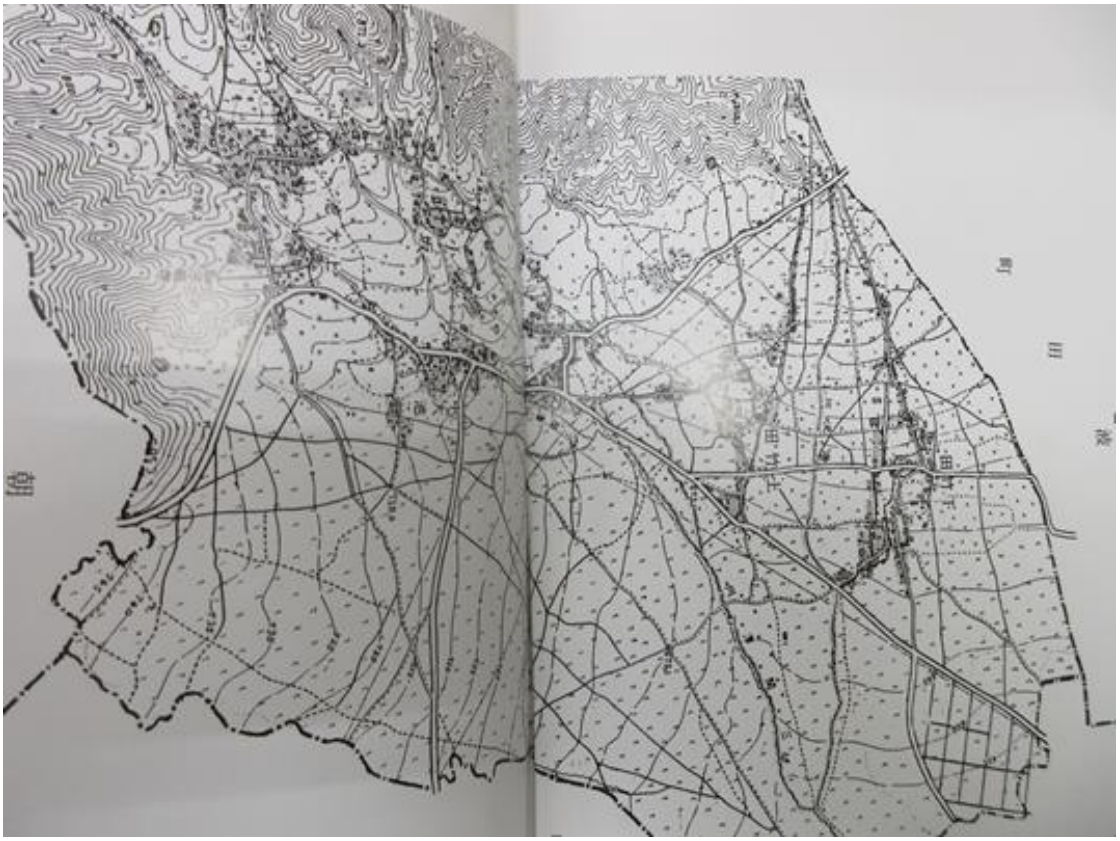
(構造改善)

山形村は火山灰土壌のため、常習的に旱魃(かんばつ)に見まわれ、耕地不整形等で農業近代化ができませんでした。昭和 37 年農林省直轄土地改良事業として採択、構造改善事業の取り組みが始まります。昭和 39 年中大池地区から畑の基盤整備事業に着手。

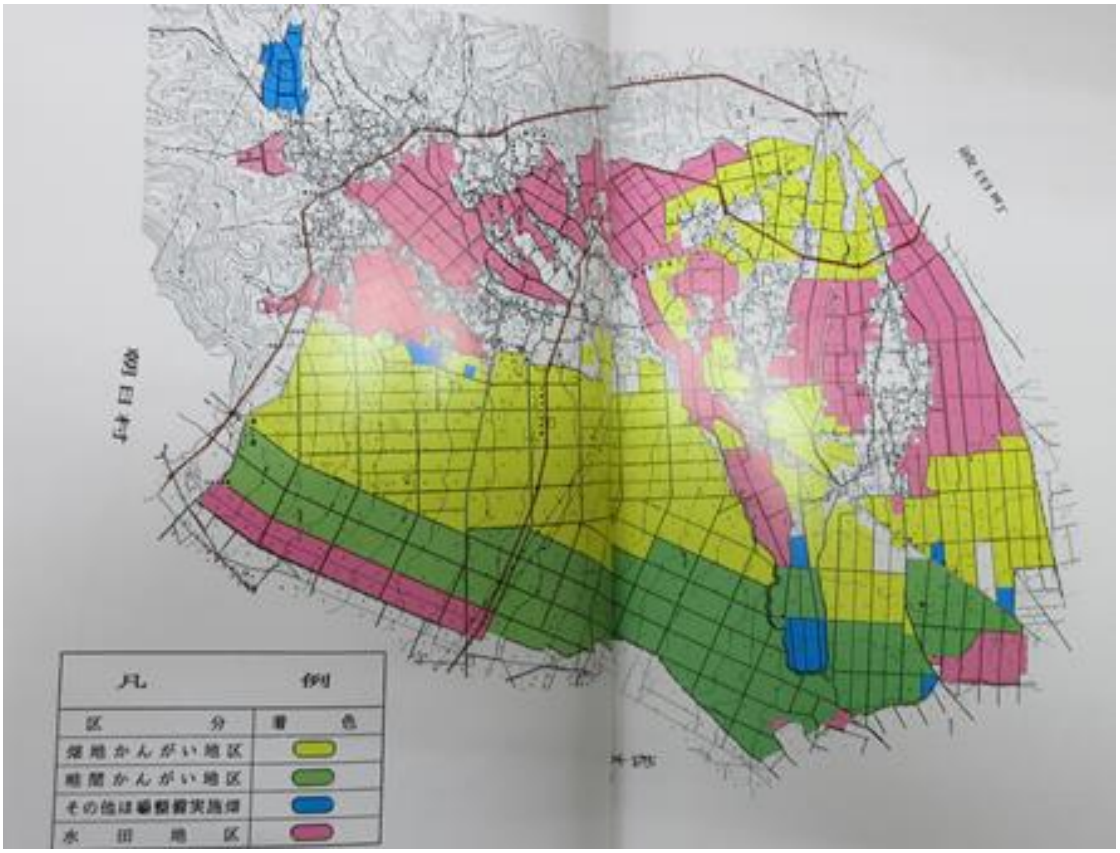
**水不足については、中信平総合開発事業により梓川の水が右岸幹線(梓川頭首工より)、右岸上段幹線(稲核ダムより)で補給されることになり、全農地の約 8 割が恩恵に浴することになり、スプリンクラーの散水が始まりました。**

昭和 52 年に農村の生活環境を豊かにするために、高度農業生産モデル地域整備実験事業に取り組み、農業者トレーニングセンター研修棟・体育館・グラウンド等が造られ、村民の生活の中に溶け込んでいます。

圃場は整然と区画され、水路道路も造られ、山形村の農業は機械化が進み画期的な変革を遂げたのです。構造改善の全ての事業を終えた記念碑が昭和 59 年に農業所トレーニングセンター研修棟南に建てられました。



構造改善事業実施前




構造改善事業実施後

(養蚕業)

山形村の養蚕の歴史は江戸時代にさかのぼります。寛政 3(1791)年、松本藩が天領預かり領の村々に女の仕事として蚕を飼っていくように奨励しています。80 年近く経った明治維新前後は、蚕種の海外輸出が激増。明治 12(1879)年には、村内に製糸工場が 12 社、工女は 171 人働いています。**桑畑面積も大正 12(1923)年には明治 20(1887)年の 5 倍に増加しており、総農家の 9 割近くが養蚕農家となっていきました。**しかし、昭和 4(1929)年の世界大恐慌により繭値が大暴落し、山形村の養蚕業は衰退をしていくことになります。

山形村養蚕家戸数・桑園面積の推移

| 年度 | 養蚕家戸数 | 桑園面積 |
|---|---|---|
| 明治 17(1884)年度 | 650　戸 | 64 町歩(ha) |
| 明治 18(1885)年度 | 658　戸 | 64 町歩(ha) |
| 明治 19(1886)年度 | - | 58 町歩(ha) |
| 大正 12(1923)年度 | 780　戸 | 287 町歩(ha) |
| 大正 14(1925)年度 | 667　戸 | 469 町歩(ha) |
| 昭和　4(1929)年度 | 657　戸 | 732 町歩(ha) |
| 昭和 10(1935)年度 | 687　戸 | 586 町歩(ha) |
| 昭和 15(1940)年度 | 670　戸 | 447 町歩(ha) |
| 昭和 25(1950)年度 | 554　戸 | 146 町歩(ha) |

資料：村誌

山形村は日本一の養蚕の村だった

養蚕の道具

（村の特産物）

① 長いも

山形村の特産品として知られる長いもは、火山灰土壌で育つことで独特の甘さ粘り、コクを持ち、県内外から高い人気を集めています。

トレンチャーが長いも生産に導入されたことで、長野県内でも山形村をはじめとする県内の火山灰土壌の各地区でも急速に栽培面積が広がります。

山形村はもともと種用の長いもの産地であり、その原種イモの確保と維持・繁殖が可能だったことから、昭和43(1968)年に1,000トンでしたが、平成3（1991）年には3,000トンまで伸び、その後も3,000～3,500トンの生産を保っています。

その栽培は春に始まり、種いもを植えた後、長いものつるがネットに絡みつきながら成長し、夏には緑の棚を形成します。10月下旬になると、この緑の棚が黄色く変化し、収穫の時期を迎えます。

この地域では約200名の生産者が70ヘクタールの土地で長いもを栽培しています。収穫された長いもは、JA松本ハイランド根菜共選所で大きさや形に応じて丁寧に分類され、箱詰めされて出荷されます。主な販売先は県内のスーパーマーケットや直売所ですが、その評判の高さから贈答用としても全国各地に発送されています。

長いもの収穫は秋掘りが7割、春掘りが3割と時期が分かれており、これによってほぼ1年を通じて新鮮な長いもを店頭で見かけることができます。

栄養面では、長いもの特徴的なネバネバ成分が注目されています。これは「マンナン」と呼ばれる水溶性食物繊維とタンパク質の混合物で、海藻やコンニャクイモにも多く含まれる成分です。長いもには滋養強壮や夏バテ予防、むくみ解消、高血圧予防、便秘解消、さらにはダイエット効果など、多岐にわたる健康効果があるとされています。

長いもの掘り取り

② スイカ

山形村は松本市波田と並ぶスイカの産地です。標高が高く、昼夜の温度差が大きいため、豊富な日照量と火山灰土壌の恵みを受け、糖度が高くシャリ感のあるスイカが特徴です。

山形村のスイカ生産者は約 70 名で、生産面積は約 50 ヘクタール、JA への出荷量は約 46 万玉に及びます。出荷先は県内はもちろん、関東から九州まで広範囲にわたります。苗は 2 月におこし、4 月に定植し、7 月から収穫期を迎えます。品質を一定に保つために、火山灰土壌での栽培が行われます。

スイカ 1 株から 2～3 玉の収穫を確保するため、生産者は人の手で確実に交配を行い、収穫までの日数を計画します。

スイカ選果所

これにより、どのスイカも一貫したおいしさを実現しています。また、JA 松本ハイランドすいか共選所では、最新のセンサーで内部を判定し、品質の高いスイカのみを選別して販売しています。スイカの甘みは果糖によるもので、冷やすとさらに甘みが引き立ちます。したがって、スイカは冷やして食べることで食感が良くなるだけでなく、甘みも増します。

③ 白ネギ

近年、山形村では白ネギの生産が増加しています。その理由として、比較的安定した販売価格や技術的な取り組みのしやすさ、軽量で出荷作業が容易な点が挙げられます。さらに、国内での需要が高まっていることも背景にあります。

山形村の白ネギ生産者は約 80 名で、生産面積は約 25 ヘクタール、JA への出荷量は約 760 トンです。主力産地である北関東の最盛期に先駆けて出荷する販売戦略を立て、長野県内や東京、愛知、大阪、福岡など全国に出荷しています。春に種をまき、育苗を行い、4 月に植付けをします。栽培期間中は土寄せを 6 回行い、8 月頃から収穫し、根切りや皮むきをして箱詰めします。安定した出荷を実現するため、適期な防除や管理作業を徹底しています。白ネギの出荷は 9 月下旬

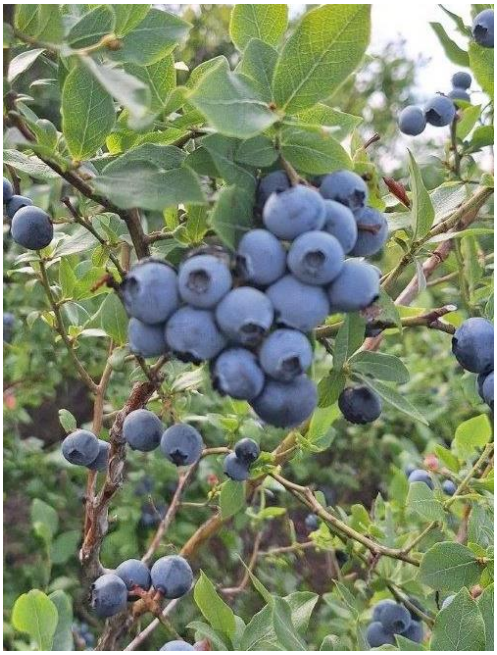
頃をピークに、12 月まで続きます。

日本人に古くから愛されてきた白ネギは、健康成分が豊富で漢方でも使用されるほどです。また、男性のメタボリックシンドローム予防にも効果があると言われています。薬味として使用するとピリリとした辛味が風味を引き立て、特に山形村特産の蕎麦との相性が抜群です。

白ネギの収穫

④ ブルーベリー

山形村のブルーベリー生産は、昭和 60 年代に 5 名の農家が始めました。現在は村内に 20 園以上の摘み取り農園があり、村外からの観光客でにぎわっています。ブルーベリーは日持ちが短く追熟しない果物なので、摘み取りを楽しむ観光農園に向いています。長野県は全国有数の産地ですが、最近は東京をはじめとする関東圏でも摘み取り農園が広がっています。ブルーベリーの収穫時期は 6 月下旬から 9 月下旬にかけてで、甘さや酸味が微妙に異なる味覚を楽しむことができます。一粒の大きさが 500 円玉サイズのものもあり、食べ応えも十分です。ブルーベリーにはポリフェノール成分であるアントシアニンが含まれているため、目に良いと言われています。冷凍やジャムなどの加工品も人気があり、山形村ではワインの醸造も行われています。



鈴なりのブルーベリー

（２）林業

森林は、昔から人々の生活に欠かせない存在でした。古代から人々は森林で狩猟や採集を行い、食糧を得ていました。森林には多くの鳥獣が生息し、山菜も豊富で人々の生存を支える重要な場所でした。

農耕が始まると、食糧を田畑で生産するようになり、人々の生活は次第に安定しますが、森林の利用も多様化します。樹木は建築材や土木材として使用され、燃料としても重要でした。さらに、樹木の若芽や下草は田畑の肥料や牛馬の飼料として利用され、農業生産の発展に貢献しました。

近代になると、建築や土木に使われる材料は輸入材や鉄材、セメント材に変わり燃料も石炭や石油、電気に変わりました。肥料は化学肥料が主流となり、飼料も輸入品が増えました。しかし、森林は依然として多くの重要な機能を持っています。特に長野県は、鉄道用枕木の供給地であるとともに、木曽を中心に木材の供給源でした。森林は、国土の保全や水源の涵養、さらには生物多様性の維持など、多面的な役割を果たしています。

現代も、森林の持つこれらの機能が持続的に発揮されるよう、森林管理や整備が進められています。林業は経済的な利益をもたらすだけでなく、環境保全や地域社会の持続可能な発展にとっても重要です。森林を適切に管理し、その恩恵を次世代に引き継ぐことが求められています。

林業に対する依存度は次第に減少してきていますが、森林の持つ多面的な機能が持続的に発揮されるよう、森林管理や整備が進められています。

① 苗木栽培

日本の国土面積の約 3 分の 2 は森林です。地球温暖化がグローバルな課題となっていますが、森林は二酸化炭素を吸収し、温暖化防止に貢献しています。山形村では古くから苗木づくりが行われ、各種苗木の県下でも有数の生産地です。明治末期にカラマツ苗の生産が導入され、戦前には北海道、朝鮮、満州方面にも出荷され、生産も一段と高まっていました。育苗はカラマツ以外の苗木も多く、当村では上大池・中大池・小坂を主体に発展しました。

日本各地では木材生産のため山から切り出された後の山に再び苗木を植えて、次世代に必要な木を生産しています。また、公園や道路の端や土手など様々な場所にも苗木は植えられています。苗木づくりは種まきから 4 年以上育ててから出荷され

るものもあり、大変な手間がかかります。苗木には造林用や緑化用などたくさんの種類があり、カラマツやコナラ、サクラなど様々な木が栽培されています。

苗木（カラマツ）畑

② きのこ

地球上でもっとも大きな生物は鯨ではなく、その何倍、何十倍とも言われる菌類（きのこ）です。目に見えているきのこ（子実体）はほんの一部で、地下には菌糸体が大きく広がっています。生物界は、植物、動物、菌類という三つの基本的な生物群から成り立っており、生物は互いに協力し合って共同生活をしています。きのこは「木の子」とも書かれ、木の成長を助ける菌根菌や、木材や切り株、落ち葉、動物のフンや虫の死骸を分解する菌生菌があり、自然界には欠かせない存在です。

山形村には様々な種類のきのこがあり、村内の山林に生える多様な木々と共生しています。木や葉を腐らせたり、倒木や切り株に生えるきのこを探し、日当たりの良い場所、日陰、山の峰、沢沿いなど、環境の違いと共に観察することが大切です。

食べられるきのこか簡単に見分ける方法はありません。

【きのこの生える場所ときのこの種類】

**・カラマツ林**

カラマツ林では、ハナイグチ、シロヌメリイグチ、オトメノカサ等、毒や食不適のきのこのカラマツチチタケ、ヘラタケ等が生えます。

**・カンバ林**

カンバ林にはヤマイグチ、ツバフウセンタケ、毒や食不適のきのこのベニテングダケ、カラハツ、カンバダケ等が生えます。

**・ミズナラ(どんぐり)林**

ミズナラ(どんぐり)林には、特に多くのきのこが発生します。ホンシメジ、シャカシメジ、アカヤマドリ、チチタケ、ホウキタケ、ヒラタケ、ナラタケ、クリタケ等、毒や食不適のきのこでは、猛毒のドクツルタケやツキヨダケ、クサハツ等が生えます。

**・アカマツ林**

アカマツ林ではマツタケ、アミタケ、オウギタケ、クロカワ、ヌメリイグチ、毒や食不適のきのこはカキシメジ、ドクベニタケ、キチチタケ、ケロウジ等が生えます。

**・スギ、ヒノキ林**

スギ、ヒノキ林には、毒のスギヒラタケやミドリスギタケ等生えますが、この林にはほとんどのきのこは発生しません。

**・草地、道端、竹林、果樹園**

草地、道端、竹林、果樹園では、ハタケシメジ、シメジモドキ、ハラタケ等、毒ではツチスギタケ、ベニチャワンタケ等が生えます。

「縦に裂けるきのこは食べられる」「虫やナメクジが食べているきのこは食べられる」「色が鮮やかなきのこは食べられない」「苦くなければ大丈夫」「なすと一緒に煮れば食べられる」などの見分け方が言われていますが、いずれも間違いです。

きのこ狩りをする際は、最新の図鑑などをよく見て、特に毒きのこを覚えることが重要です。食べられるきのこと特徴が少しでも違ったら絶対に食べずに、専門家や保健所に確認してください。ドクツルタケのような猛毒のきのこは、1本食べただけで死亡、カエンタケに至っては味をみただけでも死に至る場合

もありますので、自己判断では絶対に食べないでください。

村には「止め山」と呼ばれる松茸などが採れる山林がありますが、近年は地球温暖化による環境の変化や山林の手入れ不足により、きのこの収穫量も減少しています。ちなみに松茸が多く採れた年は戦前の昭和16年頃で、当時は山の中を傘をさして歩けるほど薪の雑木採りが行われ、山の手入れがされていたと言われています。

(3)商工業

商業は、豊かな消費生活の提供をはじめ、にぎわいや活力の創出など、むらづくりの上で重要な役割を担っています。本村は、大型商業施設や沿道型店舗の立地により、買物の便のよい村としての位置づけにあります。

また、工業は、地域経済の活性化はもとより、雇用の場の確保に直結する重要な産業です。

① 観光・交流

山形村には、京都東山の清水寺と縁がある、古い歴史を持つ慈眼山清水寺があるほか、村内各所に40体にも上る道祖神があり、独特の歴史・文化がいきづいています。また、これら歴史・文化資源のほかにも、唐沢そば集落や、観光・体験農園、山形じゃんずらなど、多彩な観光・交流資源があります。

② そば

そばはやせ地でもよく育ち、栽培日数が75日と極めて短く夏期の高温時でも播種・発芽が可能なため、山形村では昔からよく作られてきました。

しかし、そばの収穫量は少なく、初霜の時期や風害によって収穫量に大きな差が出るため、全体として不安定な作物です。そのため、現在では限られた場所でのみ生産されています。

そば畑

山形村が「そばの里」として知られるようになった背景には、唐沢地区の歴史があります。この地区の入り口には「車屋美人」と名付けられた道祖神があり、その背面には「弘化二（1845）年竹田村車屋中」と刻まれています。この車屋とは水車小屋のことで、この時点で既に水車屋が存在していたことがわかります。また、この場所から西へ約 100m 進んだところには、馬頭観音の石仏が数多く祀られています。これは、水車屋が精米や製粉の依頼主の家へ商品を運搬するために飼っていた馬の供養であり、古いものには文政十一（1828）年と刻まれています。つまり、今から約 200 年前には水車が動いていたことがわかります。

唐沢地区には 20 戸ほどの水車営業がありましたが、時代の流れとともに電力精米所ができ、水車営業は次第に廃れていきました。そこで、失業状態となった人々が様々に考えた末、そばの栽培に切り替えることにしました。当時は 10 戸ほどがそばを栽培し、最初は 10 月から 3 月までの季節営業でした。

しかし、戦争が激化するにつれ食糧が不足し、営業もできなくなりました。終戦後、ようやく物資が整い、「唐沢そば組合」を設立し、季節営業を通年営業にすることを決めました。

現在では「唐沢そば集落」として通年営業が行われています。

そば集落入り口の案内板

## 12 山形小学校のひみつ

### (1) 学校の歴史

明治 6 年～明治 18 年

学校の発足から一校統合

明治 5(1872)年 8 月、新政府は初めての近代教育制度として「学制」を発布しました。これを受け明治 6～8 年に寺院の建物を仮校舎として、初めての学校を発足させました。

**上大池は宗福寺で「大池学校」を発足し**、後に今の公民館近くへ校舎を新築しました。

**中大池は薬師堂に「精業学校」を、下大池は地蔵堂に「三省学校」を、小坂は宝積寺に「遷善学校」を各々発足させましたが、明治 8(1875)年に統合し、小坂字中島に「山県学校」を新築しました。なお、明治 15(1882)年には、校名を「山形学校」に変えました。**

**両竹田は最初薬王寺に「竹田学校」を発足させました**が、すぐに見性寺の「上竹田学校」、薬王寺の「下竹田学校」に分かれました。しかし、明治 11(1878)年に統合し、竹田中原の荒川沿いに「竹田学校」を新築しました。

こうして山形教育が発祥したわけですが、児童の就学率は悪く、特に女子の就学率は低かったようです。

明治 19 年～明治 33 年

尋常小学校の発足と今井分教場

三校統合は、明治 19(1886)年 4 月 6 日に実現し、校舎は山形学校の建物を引き継ぎました。竹田学校は支校となりましたが、大池学校は廃校となりました。統合直後の 4 月 10 日に「小学校令」が公布されて、校名は「山形尋常小学校」とされました。また、小学校令では、尋常科(3～4 年・義務教育)と高等科(4 年)の二

種の学校を定めています。

その高等科は一郡一校制で、当初東筑摩高等小学校が松本開智学校に設置されました。しかし通学の便を図るため、明治 23(1890)年に今井分教場が置かれ、さらに明治 25(1892)年に、今井朝日山形組合立高等小学校発足となりました。しかしながら、村外への通学を余儀なくされました。

明治中期の教育は、自由化政策から一転して国家の規制が強められ、教科書は認可制から検定制に改められました。そして最たるものが「教育ニ関スル勅語」でした。また文部省は、「小学校祝日大祭日儀式規定」を定め、国家的な儀式行事が学校教育の中で行われるようになりました。

明治 33 年～昭和 16 年

山形尋常高等小学校

明治 33(1900)年には、尋常科 4 年・高等科 4 年の両課程を併置、「山形尋常高等小学校」となり、義務教育は尋常科 4 年となりました。(明治 40(1907)年、義務教育が尋常科 6 年に延長、高等科は 2 年に。)また、明治 42(1909)年には、校舎を現小学校地に新築して竹田学校を廃し、完全に村内一校となりました。

就学率と出生率の向上により、在籍児童数は増え続けました。明治 33 年に 343 人であったものが、昭和 10 年には千人台に到達し、当初の 6 学級(尋常科)が、3 倍の 18 学級になりました。当然施設の更新が必要で、大正 14(1925)年に校舎・雨天体操場等、昭和 3(1928)年に校舎増築、昭和 10(1935)年に南校舎新築がされました。加えて現在のグラウンドが整備されたことにより、それまでグラウンドだった表庭が庭園に造成されました。学校行事では遠足と修学旅行が定着し、校庭運動会が行われるようになり、野球や庭球の試合が盛んに行われました。

この山形尋常高等小学校は、昭和 16(1941)年国民学校に改編されるまで 41 年間続きましたが、教育理念は国情に応じ激変の時でありました。

特に昭和 6 年の満州事変後は、思想統制が強化され、昭和 12 年の日中戦争以後は軍国主義化して、学校も時局関連行事や銃後の後援に明け暮れることとなりました。

昭和 9（1934）年撮影　山形小学校前庭

昭和 16 年～昭和 22 年

山形国民学校・山形青年学校

半世紀に及んだ「小学校令」が廃され「国民学校令」が公布された昭和 16 年 4 月、山形国民学校が発足しました。「皇国民の練成」を教育理念として、教科や儀式行事を通じて個人主義を排し、団体訓練を重んじて戦勝を祈願しました。非常時下の国家の要請にこたえて、軍国に奉仕する青少年の育成に努めたのです。

山形青年学校は、職業及び生活上必要な知識技能を収得させるべく昭和 10 年に発足しましたが、次第に戦時色が強くなり、昭和 14(1939)年には義務制となり

ました。教具の他に三十八式歩兵銃等が供えられ、本格的軍事教練が行われました。

昭和 20 年8月に終戦を迎えると、占領下での教育の大転換が行われます。11 月には山形村にも進駐軍が入り、軍国主義教育排除のため、教科書の墨塗り等が行われました。この間教育もまた、歴史上経験したことのない激変の時期でした。

昭和 22 年以降

大戦後の新生山形小学校

昭和 22(1947)年に文部省は、教育基本法を制定し、小学校 6 年・中学校 3 年・高校 3 年。大学 4 年の「6・3・3・4 制」を定め、小中学校の 9 年間を義務教育としました。

山形国民学校は、学校教育法に基づき「山形小学校」に改編されました。なお、同時に新生した「山形中学校」は、国民学校の初等科 6 年生と、高等科 1・2 年生を編入して学級が組織されました。中校舎と北校舎を小学校が、南校舎を中学校が使用しました。

新学制の実施と共に文部省は、新教育の実をあげるためには、学校・家庭・社会が三位一体となり、父母と教師の提携が必要としてPTAの結成を奨励しました。山形村でも早速、小中学校連合の「山形学校 PTA」を組織し発足させました。

昭和 29(1954)年 6 月に学校給食法が公布されると、PTA が大きな力となり給食室が設けられ、昭和 30 年 11 月より完全給食が実施されました。

中学校は 20 年間小学校と同居していましたが、昭和 40(1965)年「鉢盛中学校」が誕生し、昭和 42 年開校となりました。

| 年　号 | で き ご と |
|---|---|
| 明治 5(1872)年 | ●太政官「学制」を発布。 |
| 明治 6(1873)年 | ○大池村宗福寺を仮校舎とし大池学校創立。同年 11 月字中村に校舎新築。精業学校(中大池・薬師寺)と三省学校(下大池・地蔵堂)は支校として設立。 |
| 明治 7(1874)年 | ○竹田村薬王寺を仮校舎とし竹田学校創立。<br>○小坂村宝積寺を仮校舎とし遷善学校創立。<br>●三ケ村が合併し山形村誕生。 |
| 明治 8(1875)年 | ○竹田学校が上竹田学校(見性寺)と下竹田学校(薬王寺)に分かれる。<br>○遷善学校、精業学校、三省学校が統合。小坂中島に山県学校新設。 |
| 明治 11(1878)年 | ○竹田の 2 校が統合。字中原の荒川沿いに竹田学校を新設。 |
| 明治 15(1882)年 | ○山県学校を山形学校と改名。 |
| 明治 19(1886)年 | ○大池学校を山形学校に統合。竹田学校は支校となる。<br>●「小学校令」発布。尋常、高等各 4 年の二段階制とし、尋常小学校の課程を義務教育とする。<br>○山形尋常小学校創立。 |
| 明治 23(1890)年 | ○高等小学校として、今井村に東筑摩郡高等小学校今井分教場が発足。本村からも通学。 |
| 明治 24(1891)年 | ○竹田学校で火災。半焼する。 |
| 明治 25(1892)年 | ○今井・朝日・山形組合立高等小学校が今井村に発足。 |
| 明治 33(1900)年 | ○山形尋常小学校に高等科併置。山形尋常高等小学校発足。 |
| 明治 35(1902)年 | ○山形女子補習学校設置。 |
| 明治 40(1907)年 | ●「小学校令」改正。尋常小学校(義務教育)が 6 年に、高等小学校が 2 年になる。 |
| 明治 42(1909)年 | ○新校舎を現小学校地に新築。村内 1 校とし、竹田学校廃校。 |
| 明治 43(1910)年 | ○山形農業補習学校創立。 |
| 大正 6(1917)年 | ○学校に初めて電灯がつく。 |
| 大正 8(1919)年 | ○学校林が永田兵太郎より寄附される。<br>○山形農業補習学校を山形実業補習学校と改称。 |
| 大正 15(1926)年 | ○山形青年訓練所発足。 |
| 昭和 2(1927)年 | ●大霜害。養蚕に大打撃。 |
| 昭和 6(1931)年 | ●満州事変おきる。 |
| 昭和 10(1935)年 | ○山形青年学校発足。 |
| | ○新校舎(南校舎)建築。 |
| 昭和 14(1939)年 | ●「青年学校令」改正、青年学校が義務制になる。 |
| 昭和 16(1941)年 | ●「小学校令」が廃止され、「国民学校令」施行される。戦時色が一層強まる。 |

| | |
|---|---|
| | ○山形国民学校が発足。<br>●太平洋戦争始まる。 |
| 昭和 17(1942)年 | ○講堂を建築。 |
| 昭和 20(1945)年 | ●「終戦の大詔」発布。 |
| 昭和 22(1947)年 | ●「教育基本法」「学校教育法」公布。新学制の 6・3 制始まり、義務教育は 9 年となる。<br>○山形国民学校は山形小学校となる。<br>○山形中学校が開校。 |
| 昭和 23(1948)年 | ○山形青年学校廃校。<br>○「山形村父母と先生の会」(PTA)結成。 |
| 昭和 29(1954)年 | ○小学校校章が誕生する。 |
| 昭和 30(1955)年 | ○給食室が新築。<br>○完全給食が始まる。 |
| 昭和 34(1959)年 | ○小学校北便所改築。 |
| 昭和 35(1960)年 | ○小学校ラジオ体操が全国表彰される。 |
| 昭和 37(1962)年 | ○プール竣工 |
| 昭和 40(1965)年 | ○山形・今井・朝日三地区の中学校を部校として、鉢盛中学校発足。<br>○庭園が長野県学校緑化コンクールにおいて全国緑化連盟賞を受賞。 |
| 昭和 41(1966)年 | ○小学校 80 周年記念式典。校歌が制定される。80 周年沿革誌発行。小学校から校庭への地下道が完成。 |
| 昭和 42(1967)年 | ○鉢盛中学校が正式に発足。 |
| 昭和 53(1978)年 | ○小学校校舎解体。小学校新校舎工事起工。<br>○校庭へ照明灯設置。 |
| 昭和 55(1980)年 | ○小学校管理棟、高学年棟、体育館、低学年棟、理科棟が完成。 |
| 昭和 57(1982)年 | ○給食室改築。 |
| 昭和 60(1985)年 | ○優良 PTA として、日本 PTA 全国協議会長賞受賞。 |
| 昭和 61(1986)年 | ○小学校校旗を新調。 |
| 平成 10(1998)年 | ○小学校百周年記念式典。 |
| 平成 11(1999)年 | ○耐震工事を実施。 |
| 平成 14(2002)年 | ○PTA 創立 50 周年記念式典。記念誌発行。 |
| 平成 15(2003)年 | ○トイレ全面改修 |
| 平成 16(2004)年 | ○校内 LAN 工事実施。屋内消防設備設置工事実施。 |
| 平成 17(2005)年 | ○教室増築(中校舎)工事完了。バリアフリー化工事実施。 |

| | |
|---|---|
| 平成 18(2006)年 | ○老朽化施設改造工事、大規模改造工事が完了。 |
| 平成 24(2012)年 | ○開校 120 周年記念行事挙行。 |
| 平成 26(2014)年 | ○学校支援地域本部設置。 |
| 平成 27(2015)年 | ○南庭(低中学年遊び場)芝生化工事実施。 |
| 平成 28(2016)年 | ○コミュニティ・スクールに指定(学校運営協議会設置)<br>○児童による枝垂れ桜樹勢回復作業、鉢盛中学校に学んだ膝附清掃を始める。 |
| 平成 29(2017)年 | ○総合的な学習の時間に「ふるさと学習」を位置付ける。 |
| 令和 2(2020)年 | ○校内 Wi−Fi 環境を整え、GIGA スクール構想の準備を進める。 |
| 令和 5(2023)年 | ○総合的な学習の時間「ふるさと学習」を、探究的な学び「プロジェクト Y」に発展。探究的な学習「まなびの発表会」を初めて開催。 |

(2)　学校のひみつ

①「山形小はどうやってできた？」

山形小学校の玄関に、3つの瓦が飾られています。札がかかげられていますね。読んでみましょう。手前右から「小坂学校（明治9年）」、左に「竹田学校（明治18年）」、奥に「山形小学校（明治42年）」とあります。これは、明治7（1874）年10月22日に大池村・小坂村・竹田村の山県三村が合併して山形村が誕生してから、それぞれにあった小学校がだんだん一緒になって、明治19(1886)年４月６日に、今の山形小学校になったことを表しています。

山形小学校になる前は、いろいろな所にいろいろな名前、大きさの小学校があったようですよ。**最後には「竹田・山形(小坂)・大池」学校がありました。**

村の大人は、早くから子どもに教育を受けさせよう、勉強できるようにしよう、と頑張ったのですね。

② 「山形小学校の前庭をつくったのは、だれ？」

山形小学校の前庭は、広くて、たくさんのきれいな木も植えられていて、休み時間にはたくさんの児童が鬼ごっこをしていますね。でも、**昭和7(1932)年までは今の校庭が無く、その頃は土のテニスコートだったので、冬や春は、砂ぼこりが舞い上がって教室に入り込み、大変だったそうです。**校庭も新しくできることになったので、小学校と児童が村の人々に樹木の寄付を呼び掛け、庭をつくることにしました。集まった木はなんと161本。それを高学年が運び、植え、中学年も土を運んだりして、なんと2日間で庭づくりをしたそうです。

その後も庭づくりはすすめられ、およそ30年後の昭和40(1965)年には、「全国学校緑化コンクール」で長野県代表として奨励賞を受賞しました。

子どもが中心に力を出し、みんなでつくったのが、今の前庭なんです。100年近く大事にされているのが、よくわかりますね。

③ 「わくわくろうか」は、なぜわくわくしちゃうんだろう？

山形小学校の低学年棟から理科室、給食室の前を通って高学年棟につながる「わくわくろうか」。どうしてそんな名前がついているのか、考えたこと、ありますか？

わくわくろうかは長いので、3年生が理科でつくったモーターカーを走らせるのにうってつけ。早く走らせたり、坂を上らせたり、電流の強さを学習するのにも役立ちます。また、算数の「長さ」の学習をするのにも、巻き尺を使って長さを測るのにうってつけ。このように、

廊下という通路としてだけでなく、いろいろな学習に使えちゃうから、「わくわくろうか」と、いうのかもしれませんね。

**ちなみに、その長さを測った学年によると、端から端までおよそ 75 メートルもあったそうです。**長いですねえ。

④　図書館わきの模型はなんの模型？

正面玄関から階段を上がって2階に出ると、ガラスケースの中に割りばしみたいな木で作った模型があります。**いったい何の模型でしょう？ のぞいてみると、「校舎模型」、「昭和49年度卒業記念」というプレートがついています。これは、今の校舎になる前の、昭和53(1978)年まで使われていた木造の旧校舎の模型なのです。**正面玄関にはその校舎の写真が飾ってあるので、見たことのある人もいるかもしれません。卒業生にはなつかしい校舎です。

模型は実物の200分の1で作られています。これを作った卒業生によると、みんなで校舎のそれぞれの部分を実際に測り、正確に作ったそうです。なかには、校舎の屋根に上って長さを測ったつわものもいたとか。おかげで、模型を見れば、どこに何があって、どんなつながり方をしていたのか、はっきり思い出すことができます。

ちなみに、今の体育館は旧校舎の低学年棟の場所にあり、当時の体育館（講堂、と呼ばれていました）は、今は特別支援教室等になっています。昔の高学年棟は、今では先生たちの駐車場になっているんですよ。

⑤　どうして小学校に芝生の広場があるのだろう？

低学年がうわばきのまま出てよいことになっている芝生広場。休み時間にはおいかけっこしたり、ころがったり、ねころんだり、と、自由に過ごす気持ちの良い場所です。雪が積もれば、下が土ではないから、白い雪のまま大きな雪玉ができます。たくさん降った次の日には、大人の背ぐらいもある巨大な雪玉ができていて、びっくりすることもあります。

この広場の芝生は、ある有名な施設の芝といっしょです。その施設とは、サッカー場の「アルウィン」です。前は土の広場だったのを、山形村が芝生にすることを計画し、アルウィンの芝を手がけている業者さんに作ってもらいました。いいですね。

広さは1，312平方メートルあって、たたみに直すとおよそ800枚（畳）になります。広いですねえ。 芝生広場ができたとき、小学生のみんなはとても喜んで、始めになにをするのかな？と、大人が見ていたら、みんな芝生に寝転がったそうです。 気持ちいいですもんね。

⑥小学校のしだれ桜は何歳ぐらい？

小学校の庭にあるしだれ桜は、昔から村のシンボルとして生き続けてきました。しだれ桜は、日本で一番有名な「ソメイヨシノ」よりも長い間生き続けることで知られています。普通、しだれ桜の寿命は 100年を超えると言われています。では、小学校のしだれ桜は何才なのでしょうか？木の年齢を正しく見極めるのは、プロでも難しいそうですが、長生きしている桜ほど幹や枝が太い特徴があります。小学校の

桜を見ると、しっかりとした樹木であり、長生きしていることがわかります。ここで小学校の歴史をたどってみましょう、しだれ桜のある場所は元々校庭でした。しかし **1932（昭和7）年にこの運動場の跡が庭園とされたことから、小学校のしだれ桜はこの時に植えられたと言われていますが、専門家の判定では樹齢 191 年以上と報告されています。(平成 28 年 7 月・山形小学校シダレザクラ 樹木医診断報告書)**

ちなみに日本で一番長生きしている桜は、山梨県にある「山高神代桜」で、なんと2000年ほどだと言われています。また、しだれ桜の中でも「三春滝桜」は1000年以上と言われています。日本には長生きする桜が多くあり、昔から人々の手によって守られてきたのです。

⑦小学校の校歌に出てくる村の名物は何？

小学校の校歌は全部で 3番まであります。それぞれの歌詞に注目してみましょう。1番の歌詞には「松本平」が出てきます。これは「松本盆地」とも言われており、盆地とは山々に囲まれた平らな土地のことです。2番の歌詞には「乗鞍」が出てきます。これは日本で有名な山のひとつで、一番高い場所は 3026 メートルもあります。ちなみに山形村の標高が約700 メートルなので、その山は約4.3倍も高いんですよ。そして 3番には「清水寺」が出てきます。これは村の中でも高い場所にあるお寺で、村の人々が昔から大切にしてきた名所なんですよ。お寺は釈行基という人が 729年に、千手観音の像を彫って、お寺を作ったと言われています。そして、坂上田村麻呂がこのお寺でお祈りをしたところ、大成功を収めたそうです。その後、この千手観音の像は京都に移され、今では京都で有名なお寺であるあの清水寺として知られています。全国には 100 ほどの「清水寺」がありますが、多くは「せいすいじ」と読み、「きよみずでら」と読むお寺は少な

いんですよ。山形村の清水寺は京都の清水寺との縁がある、素敵なお寺なんです。

⑧小学校の行事は何がある？

山形小学校には年に一回しかない特別な行事がいくつもありますね。特に、長野県ならではの体験をすることができるんですよ。例えば長野県には海がないため、5年生で海の学習が行われます。南知多（私は日間賀島でした）へ行き、そこで海についての学習を深めます。また、長野県の冬は雪がたくさん降って寒いことから、人気の冬のスポーツを利用した、スキー教室やスケート教室も行われます。スキー教室では、山形村の隣の朝日村にある朝日プライムスキー場ややぶはらスキー場へ向かいます。スケート教室はやまびこスケートリンクで行われます。このように山形小学校では長野県ならではの色々な体験ができるのですね。その他にも、小学校の行事は修学旅行や音楽会、運動会など、楽しい行事がたくさん待っています。

⑨ 名物の給食はなに？

山形小学校では、近くの小学校とは違い、学校の中で給食を作っています。そんな小学校の自慢のオリジナルメニューの中には、「ごぼうっこカレー」があります。ごぼうの甘みがカレーのスパイスが絶妙に合って、さらにごぼうの食感があって、歯ごたえ抜群です。ちなみにごぼうは長いもと並ぶ山形村の特産品なんですよ。他にも、地域で取れた産物を使った給食メニューとして、

夏野菜カレーなども人気のメニューです。地域の小学校だからこそ、地元の特産品を大切にしているのですね。給食はただの食事だけではなく、地域の食文化や農業について学ぶこともできる良いチャンスなのです。健康的でおいしい給食を作ってくれる人たちには感謝の気持ちでいっぱいですね。

⑩　小学校の校章のデザインの意味は何？

「校章」は、その学校の特徴や伝統を表す大切なシンボルです。山形小学校の校章は、1954（昭和29）年に作られました。校舎の前庭から体育館を見ると、上に校章があります。実際に校章のデザインを見てみましょう。旧字体の「学」が中心にあって、その周りには山や丸印が描かれていますね。このデザインには、山形村の歴史や自然が表されています。山は、大池村、小坂村、竹田村が合わさって山形村となったことを意味しています。また、山に囲まれた箇所は山形村の広くて大きい畑を表しています。さらに、後ろにある丸印は太陽を表しています。このように山形小学校の校章は、地域の歴史や自然が表された特別なシンボルなのです。

(3)　かるた

「いいとこたくさん山形かるた」は、令和元年度に山形小学校６年生により作られました。ふるさと学習での学びを、かるたで表現しました。

いいとこたくさん山形かるた

いいとこたくさん山形かるたの読み札

| | |
|---|---|
| あ | 安全な 旅人守る 道祖神　(道祖神) |
| い | 入り口で 見つけた見つけた 竜の水　(上大池諏訪神社) |
| う | 受け継ごう 小坂の大火 忘れずに　(小坂の大火) |
| え | 円通門 清水寺で お出迎え　(清水寺) |
| お | お宝が 五点もあるよ 伝承館　(山形村ふるさと伝承館) |
| か | 神様は はちまんたろう 源氏の祖　(八幡神社) |
| き | 木々の中 ひっそりたたずむ 馬頭観音　(穴観音) |
| く | 黒川堰 百年以上の 歴史あり　(黒川堰) |
| け | 見性寺 自分の心を 見るお寺　(見性寺) |
| こ | 子どもたち 遊びで見つけた 穴観音　(穴観音) |
| さ | 三郎平 黒川堰を 作った男　(黒川堰) |
| し | 幸せな 暮らしを作る 村役場　(村役場) |
| す | すべり台 直射日光 あっちっち　(鷹の窪公園) |
| せ | 戦時中 疎開してきた 子どもたち　(宝積寺･宗福寺) |
| そ | 宗福寺 十王像が 守ってる　(宗福寺) |
| た | 旅人が たよりにしている 道しるべ　(道標) |
| ち | ちびっこは 村のみんなの 宝物　(保育園) |
| つ | つま切りの 長いものせた やまっちそば　(やまっちそば) |

| | |
|---|---|
| て | 伝承館(でんしょうかん) 昔(むかし)は役場(やくば) だったんだ　(山形村ふるさと伝承館) |
| と | トレセンは みんなが集(あつ)まる 憩(いこ)いの場所(ばしょ)だ　(山形村トレーニングセンター) |
| な | 長(なが)いもは 山形村(やまがたむら)の 名産(めいさん)だ　(長いも) |
| に | 人気(にんき)メニュー ココアあげパン ひげおじさん　(山形小学校) |
| ぬ | ぬくもりと 笑顔(えがお)いっぱい ピア山形(やまがた)　(ピア山形) |
| ね | 根(ね)ふんばる しだれ桜(ざくら)は シンボルだ　(山形小しだれ桜) |
| の | のびのびと 元気(げんき)に遊(あそ)ぶ やまのこの子(こ)　(やまのこ保育園) |
| は | 走(はし)るのは かさが重(おも)くて にがてなの　(やまっち) |
| ひ | 兵太郎(ひょうたろう) 我(われ)らがせんぱい 限(かぎ)りなし　(永田兵太郎) |
| ふ | 普通選挙(ふつうせんきょ)を 発足(ほっそく)させた 太八郎(たはちろう)　(中村太八郎) |
| へ | 減(へ)っちゃうよ 環境変(かんきょうか)えたら 生(い)き物(もの)が　(山形村の自然) |
| ほ | ほこらしげ 大先輩(だいせんぱい)の 大(おお)きな木(き)　(山形小しだれ桜) |
| ま | まゆ作(つく)る 役立(やくだ)つ蚕(かいこ) 人救(ひとすく)う　(養蚕) |
| み | 水(みず)のない 場所(ばしょ)でも育(そだ)つ そばの実(み)は　(唐沢そば集落) |
| む | 難(むずか)しい「積(せき)」と読(よ)まない 宝積寺(ほうしゃくじ)　(宝積寺) |
| め | 珍(めずら)しい から猫様(ねこさま)が ある神社(じんじゃ)　(建部神社) |
| も | 森(もり)の中(なか) 唐沢集落(からさわしゅうらく) うまいそば　(唐沢そば集落) |
| や | やまがたの たった一(ひと)つの 天空(てんくう)の宿(やど)　(スカイランドきよみず) |
| ゆ | 勇敢(ゆうかん)な 二人(ふたり)の男性(だんせい) 消防団(しょうぼうだん)　(消防団員殉難の碑) |

| | |
|---|---|
| よ | 浴室(よくしつ)も 景色(けしき)もきれい いちいのお風呂(ふろ) (いちいの里) |
| ら | ランドセル くますずつけて ガランガラン (山形小学校) |
| り | りんごはね あまくておいしい 山形産(やまがたさん) (りんご) |
| る | 古(ふる)くから 見守(みまも)っている コウヤマキ (宗福寺) |
| れ | 歴史(れきし)ある 郷倉(ごうくら)むかし 米貯(こめた)めた (郷倉) |
| ろ | 六地蔵(ろくじぞう) 百体観音(ひゃくたいかんのん) 参道(さんどう)に (清水寺) |
| わ | 私(わたし)たち ひざつきぞうきん 得意(とくい)です! (山形小学校) |
| を | 手(て)を合(あ)わせ 山形野菜(やまがたやさい)を いただきます (山形村の農業・野菜) |
| ん | じゃんずらは いいじゃんいいずら 使(つか)ってる (山形じゃんずら) |

**このガイドブックを作成するに当たり、次の方々に協力いただきました。**

(敬称略)

| | |
|---|---|
| 山形村ふるさと検定推進委員会委員 | 小 山 茂 喜 |
| | 百 瀬 純 雄 |
| | 上 條 忠 昭 (令和５年度) |
| | 直 井 雅 尚 (令和６年度) |
| | 秋 山　　光 |
| | 林　　和 男 |
| | 上 條 一 則 |
| | 高 野 嘉 敬 |
| | 大 池 昌 弘 |
| | 平 林 昌 廣 |
| | 大 岩 音 寧 |
| | 赤 堀 早 紀 (令和５年度) |
| 協力者 | 務 台　　明 |

**写真提供(順不同・敬称略)**

高野嘉敬　　上條一則　　務台 明　　丸山 隆

大池昌弘　　大岩音寧　　JA 松本ハイランド山形支所

**写真・図等の出典**

村誌　　糸車　　山形村商工会資料　　山形村資料

山形小学校資料　　山形村教育委員会資料

伝われ真心 ひろがれ、ぬくもり(山形村民話クラブ「灯」紙芝居作品集)

やまがた村の道祖神(山形村史談会)

中信平土地改良事業山形村総合竣工記念誌

**ふるさと検定ガイドブック**

**令和 6(2024)年 10 月　　発行**

**編集　　山形村ふるさと検定推進委員会**

**発行　　山形村教育委員会**

**〒390-1301　長野県東筑摩郡山形村 2040-1**

**電　話　0263-98-3155**

**ＦＡＸ　0263-98-4256**

**E-mail　toresen@vill.yamagata.nagano.jp**